

Ibaraki
Hitachiomiya City

常陸大宮市
人口ビジョン
【改訂版】



令和4年11月一部改訂

常陸大宮市



目 次

I 人口ビジョンについて

1. 人口ビジョンについて	1
(1) 策定の趣旨	1
(2) 人口ビジョン（改訂版）の位置づけ	1
(3) 対象期間	1
2. 国の人口推移	2

II 現状分析等からみる常陸大宮市の特性

1. 常陸大宮市の人口推移	3
2. 常陸大宮市の将来推計の検証と補正	4
(1) 2020年の将来推計人口の検証	4
(2) 趨勢人口と目標人口の補正	5
3. 人口問題に対する課題等の整理	9
4. 目指すべき将来の方向性	10

III 人口の将来展望

1. 人口の将来展望の検討・設定の考え方	11
2. 目標人口	12
(1) 目標人口	12
(2) 目標人口の推計結果	13
(3) 趨勢人口の推計結果	14

資料編

1. 常陸大宮市の人口等の現状分析	18
2. 市民アンケート調査	54
3. 各種推計の設定の考え方	71

Ⅰ. 人口ビジョンについて

1. 人口ビジョンについて

(1) 策定の趣旨

我が国では、2008年の1億2,808万人をピークに人口減少の局面に入っており、今後も年少人口の減少と老年人口の増加を伴いながら、2050年に9,700万人程度、2100年には5,000万人未満まで減少するという推計が示されています。また、地域間経済格差等が、若い世代の地方から東京圏への流出、ひいては東京圏一極集中を招いています。

こうした背景に対応するため、2014年12月27日に日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（長期ビジョン）」及びこれを実現するため、今後5か年の目標や施策、基本的な方向を提示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）」が閣議決定されました。

その後、国は長期ビジョンの実現に向けて、総合戦略に基づく戦略的な取り組みを進めてきたところですが、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）が2017年に公表した新たな人口推計結果を踏まえ、2019年12月20日に長期ビジョン（令和元年改訂版）を閣議決定し、我が国全体の将来の人口展望を示したところです。

本市においても、2018年の社人研の人口推計結果や2020年3月に国や県の新たな長期ビジョン等を勘案し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す「常陸大宮市人口ビジョン【改訂版】」を策定しました。

その後、新型コロナウイルス感染症の拡大等の社会情勢の変化、2020年の国勢調査結果等に基づく近年の本市の人口動向やこれを取り巻く課題を踏まえ、「常陸大宮市人口ビジョン」を再度、改訂することとします。

(2) 人口ビジョン（改訂版）の位置づけ

人口ビジョン（改訂版）は、現人口ビジョン策定以降の市の人口動向の特性と課題を把握するとともに、将来人口推計結果について検証することで、目標とする将来人口と、将来人口に基づく将来の展望を改めて検討・提示するものです。

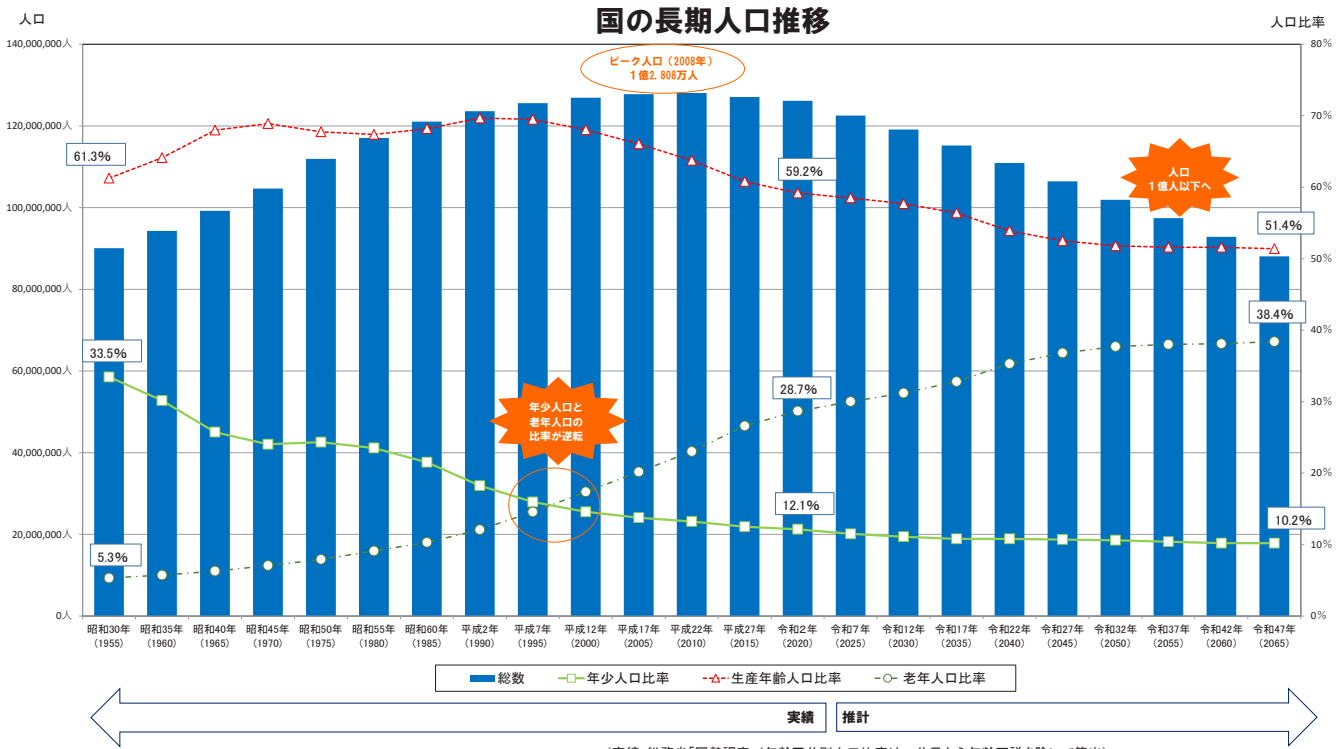
また、「第2期常陸大宮市創生総合戦略」の目標達成に向けて、必要な施策・事業を検討する上での基礎資料となります。

(3) 対象期間

人口ビジョン（改訂版）の対象期間は、国の長期ビジョンの期間と同様（2060年まで）としますが、より長期的な視点で本市の将来の展望を検討するために、将来人口推計においては必要に応じて、より長期的な期間の推計を行います。

2. 国の人口推移

我が国の人口は、2008年をピークに減少に転じ、2065年には8,808万人程度にまで減少すると推計されています。これは高度経済成長期の1955年の人口と概ね同程度ですが、年齢構成を比較すると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合が低く、老年人口（65歳以上）の割合が高くなっており、年少人口と老年人口の割合がほぼ逆転しています。



(実績: 総務省「国勢調査」(年齢区分別人口比率は、分母から年齢不詳を除いて算出)
推計: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2017年推計・出生中位(死亡中位))」)

国の人口動向

人口の減少

2021年の総人口「1億2,550万2千人」
※ピーク人口（2008年）から250万人程度減少

全国的な低出生率の加速

2020年の合計特殊出生率※「1.33」、年間出生数84万人
※2018年の合計特殊出生率「1.42」から悪化

晩婚化の進行

1955年の平均初婚年齢「夫26.6歳、妻23.8歳」
→2019年の平均初婚年齢「夫31.2歳、妻29.6歳」

人口の東京一極集中の継続

2021年の東京圏の転入超過「8万2千人」、若年層（15～29歳）「11万1千人」
※26年連続の東京圏転入超過（ただし2020年以降、東京都を中心に縮小傾向）

高齢化の進行

2021年の65歳以上人口「3,621万4千人」
※高齢化率28.9%（過去最高）

総務省: 人口推計(2021年10月1日)結果の概要、人口動態統計、人口移動報告

※「合計特殊出生率」は、1人の女性が生涯に産むことが見込まれる子どもの数（15歳から49歳の女子の各年齢別のその年次の出生数の合計をあたかも1人の女子が生涯に産む子どもの数とみなしたもの）。

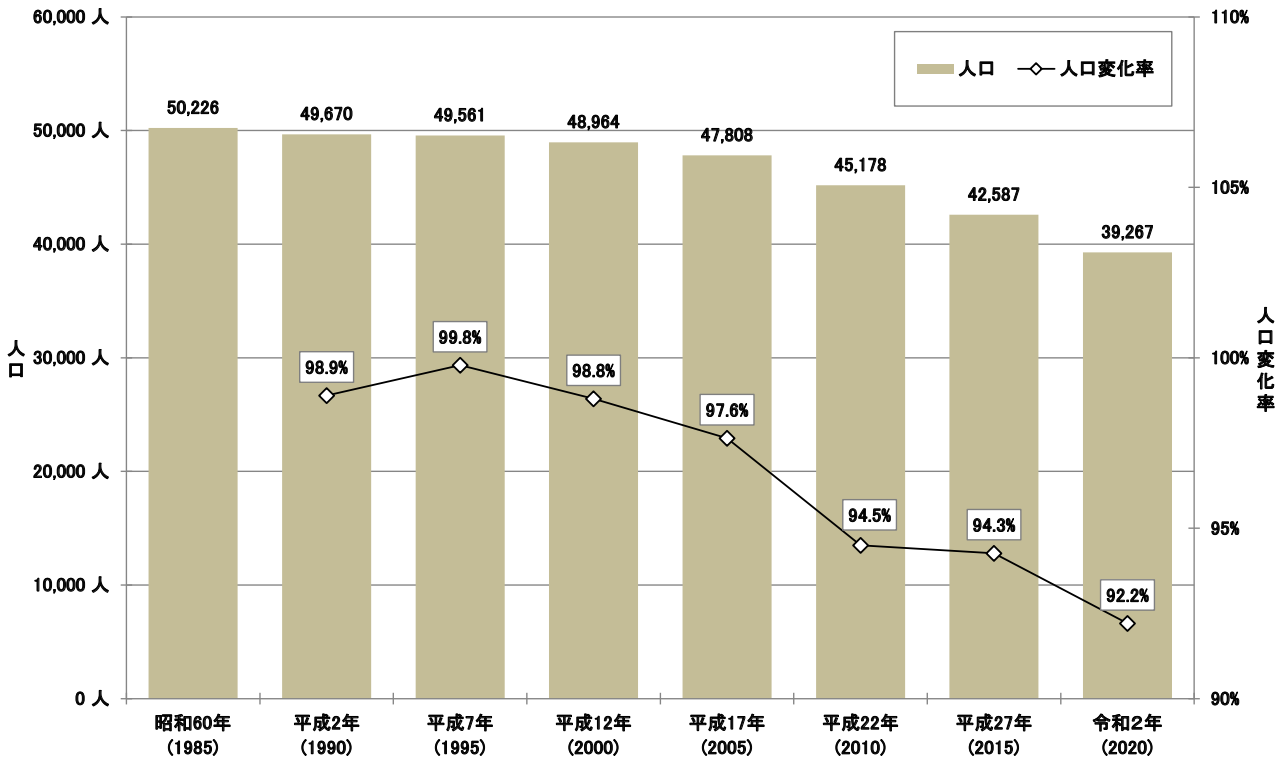
II. 現状分析等からみる常陸大宮市の特性

1. 常陸大宮市の人口推移

○常陸大宮市の総人口は減少傾向で推移しており、1985年の50,226人から、2020年には39,267人となり、35年間で約11,000人減少しています。

○人口変化率についても、1995年以降、低下傾向となっています。

人口と人口変化率の推移



(総務省「国勢調査(昭和60年～令和2年)」)

※人口変化率は各年の5年前の人口に対する変化率

(単位:人、世帯)

	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
総人口	50,226	49,670	49,561	48,964	47,808	45,178	42,587	39,267
年少人口 (0～14歳)	9,940 19.8%	8,954 18.0%	8,139 16.4%	7,121 14.5%	6,237 13.0%	5,340 11.8%	4,483 10.6%	3,632 9.4%
生産年齢人口 (15～64歳)	32,409 64.5%	31,474 63.4%	30,391 61.3%	29,552 60.4%	28,612 59.8%	26,476 58.7%	23,685 56.2%	20,414 52.8%
老年人口 (65歳以上)	7,877 15.7%	9,229 18.6%	11,031 22.3%	12,291 25.1%	12,959 27.1%	13,321 29.5%	14,005 33.2%	14,627 37.8%
年齢不詳	0	13	0	0	0	41	414	594
人口変化率	—	98.9%	99.8%	98.8%	97.6%	94.5%	94.3%	92.2%
世帯数	13,782	14,120	14,905	15,566	16,029	16,087	16,005	15,643
一般世帯数	13,680	14,104	14,891	15,553	16,005	16,044	15,963	15,596

(総務省「国勢調査(昭和60年～令和2年)」)

※年齢3区分別の割合は総人口から年齢不詳を除いた数の割合

2. 常陸大宮市の将来推計の検証と補正

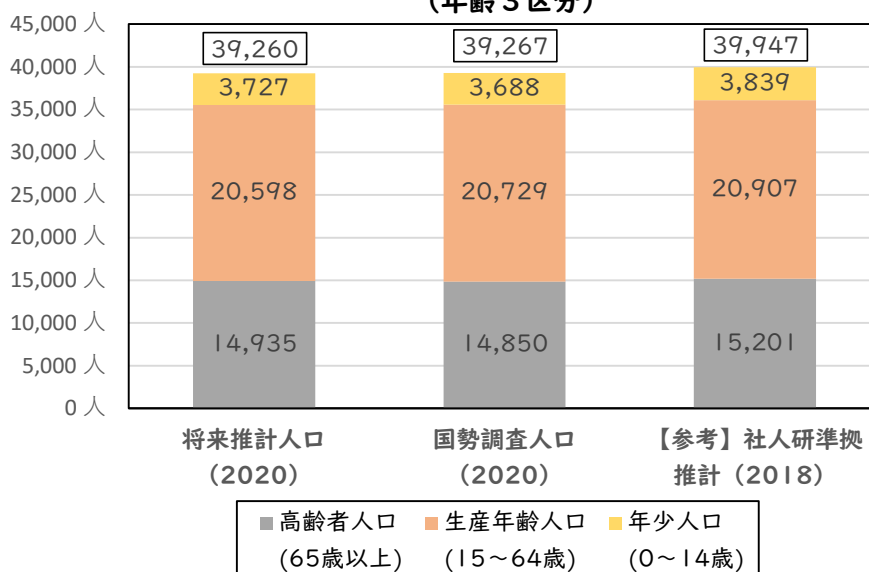
○2019年に策定した人口ビジョンには2018年の社人研推計をベースとした、2つの将来推計人口（趨勢（すうせい）人口・目標人口）が設定されています。

○2020年の国勢調査が公表されたことを受け、将来推計人口について検証を行います。

（1）2020年の将来推計人口の検証

○2020年の国勢調査の人口と将来推計人口を総人口で比較した結果その差は数人単位であり、乖離が少なかったことから、将来推計人口の出生や移動等の設定については、これまでの設定を踏襲することとします。

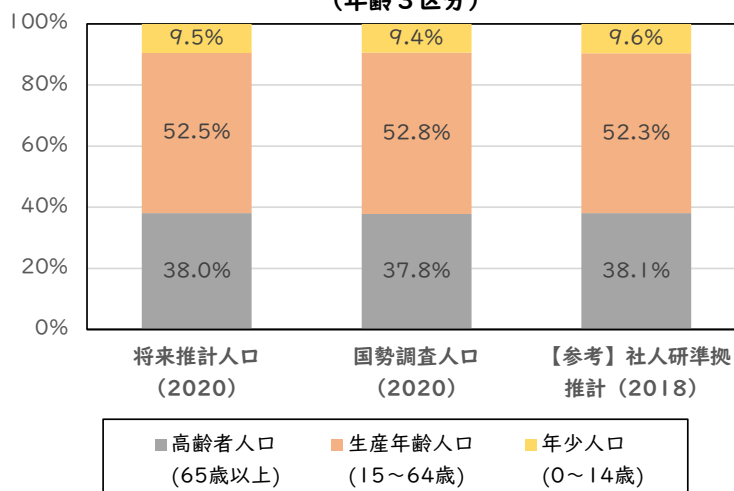
【2020年・総人口】国勢調査と将来推計人口の比較
(年齢3区分)



単位:人	【2020年】 国調と推計の差
総人口	7
年少人口 (0~14歳)	-39
生産年齢人口 (15~64歳)	131
高齢者人口 (65歳以上)	-85

※2020年の国勢調査における年齢不詳594人は年齢構造に応じて按分

【2020年・総人口】国勢調査と将来推計人口の比較
(年齢3区分)



単位:ポイント	【2020年】 国調と推計の差
年少人口 (0~14歳)	-0.1
生産年齢人口 (15~64歳)	0.3
高齢者人口 (65歳以上)	-0.2

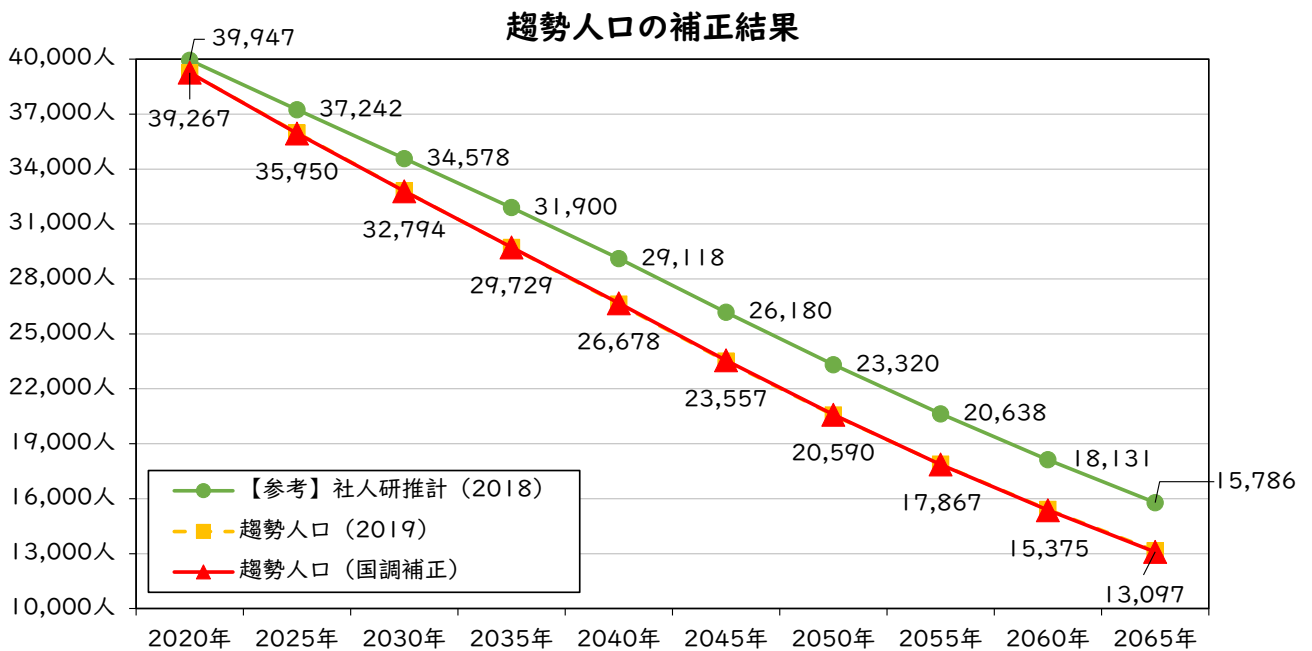
※2020年の国勢調査における年齢不詳594人は年齢構造に応じて按分

(2) 趨勢人口と目標人口の補正

- 将来推計人口の検証結果を踏まえ、将来推計人口の出生や移動等の設定については、これまでの設定を踏襲することとします。
- 一方で、2020年以降の将来推計人口の正確性を高める観点から、2020年の人口は、国勢調査に基づく人口に置き換える補正を行う必要があります。

① 趨勢人口の補正結果

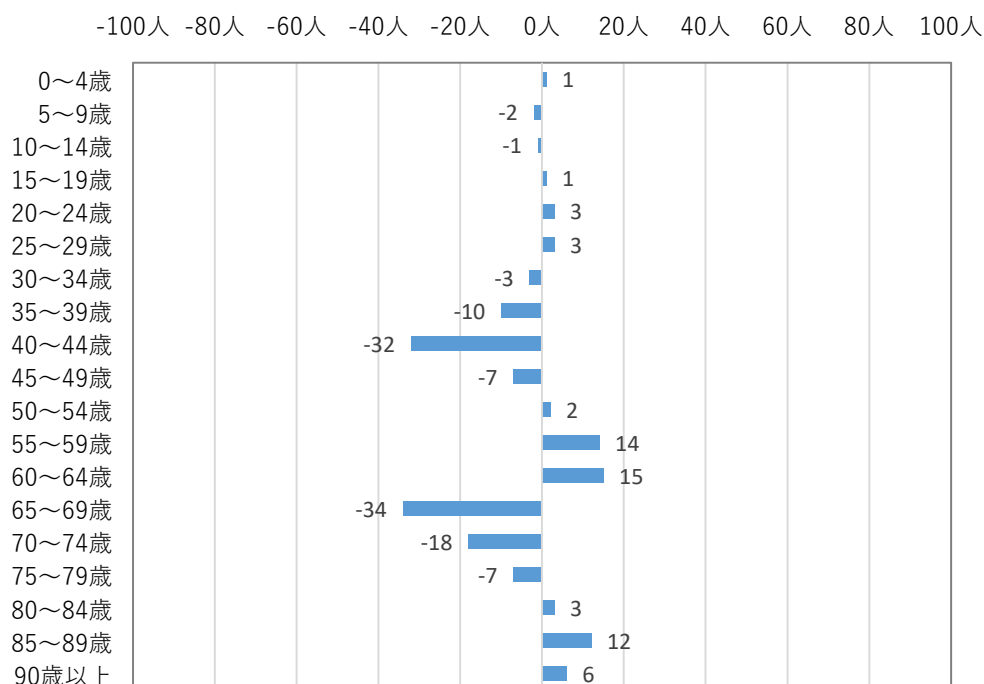
○趨勢人口の2020年の国勢調査に基づく補正結果を総人口で見ると、中・長期的にみても、現人口ビジョンと大きな差は生じていないことがわかります。



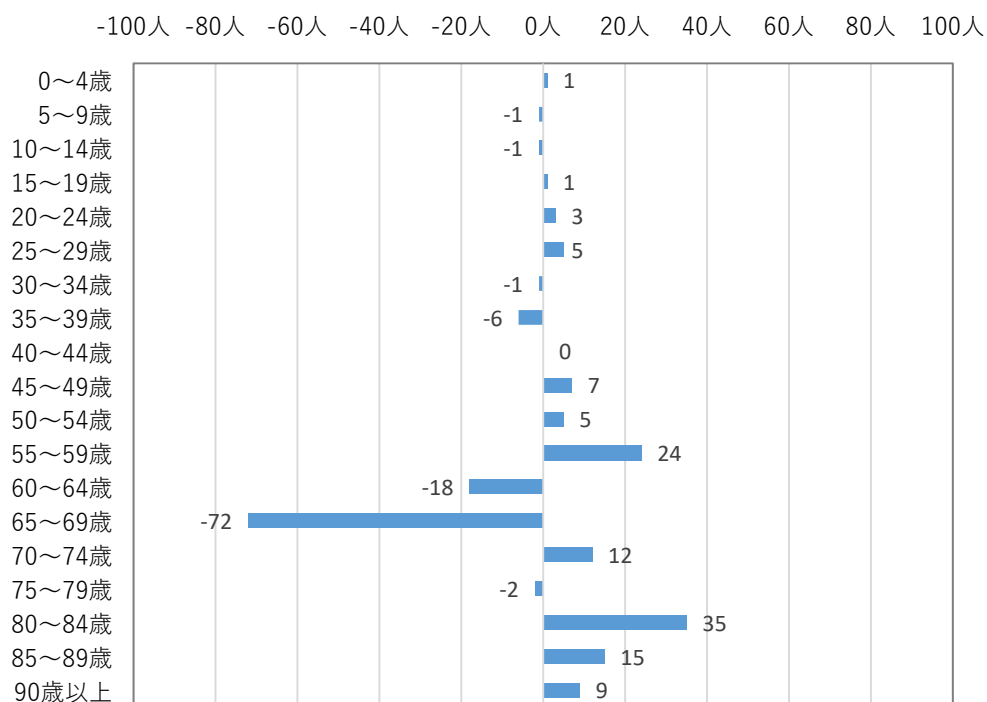
(単位：人)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
【参考】社人研推計(2018)	39,947	37,242	34,578	31,900	29,118	26,180	23,320	20,638	18,131	15,786
趨勢人口(2019)	39,260	35,981	32,815	29,716	26,633	23,512	20,569	17,881	15,413	13,155
趨勢人口(国調補正)	39,267	35,950	32,794	29,729	26,678	23,557	20,590	17,867	15,375	13,097
趨勢人口の補正前後の差	7	-31	-21	13	45	45	21	-14	-38	-58

【参考】趨勢人口の補正による 2060 年の差分（性別、年齢別）

【2060年／男性】の趨勢人口の補正による差分

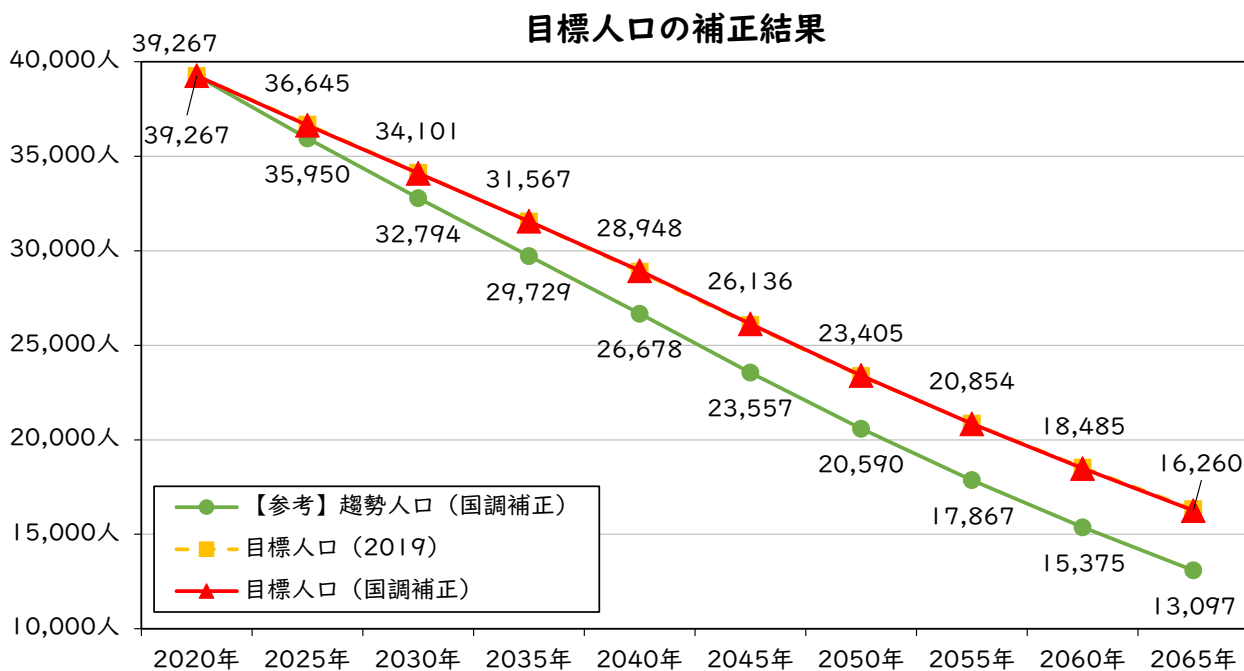


【2060年／女性】の趨勢人口の補正による差分



②目標人口の補正結果

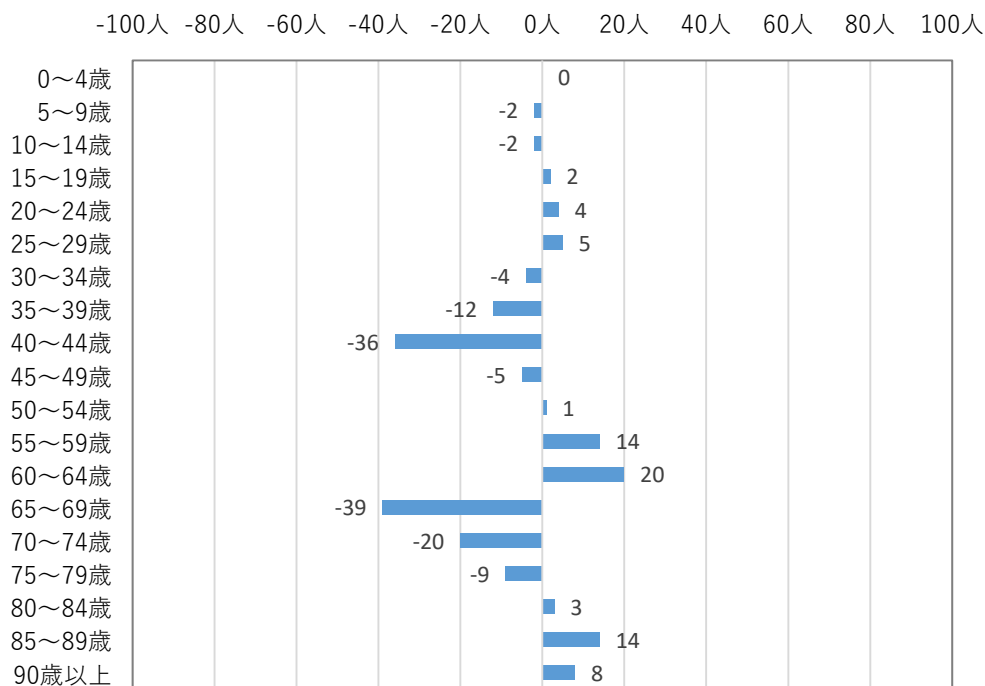
○目標人口の2020年の国勢調査に基づく補正結果を総人口で見ると、中・長期的にみても、現人口ビジョンと大きな差は生じていないことがわかります。



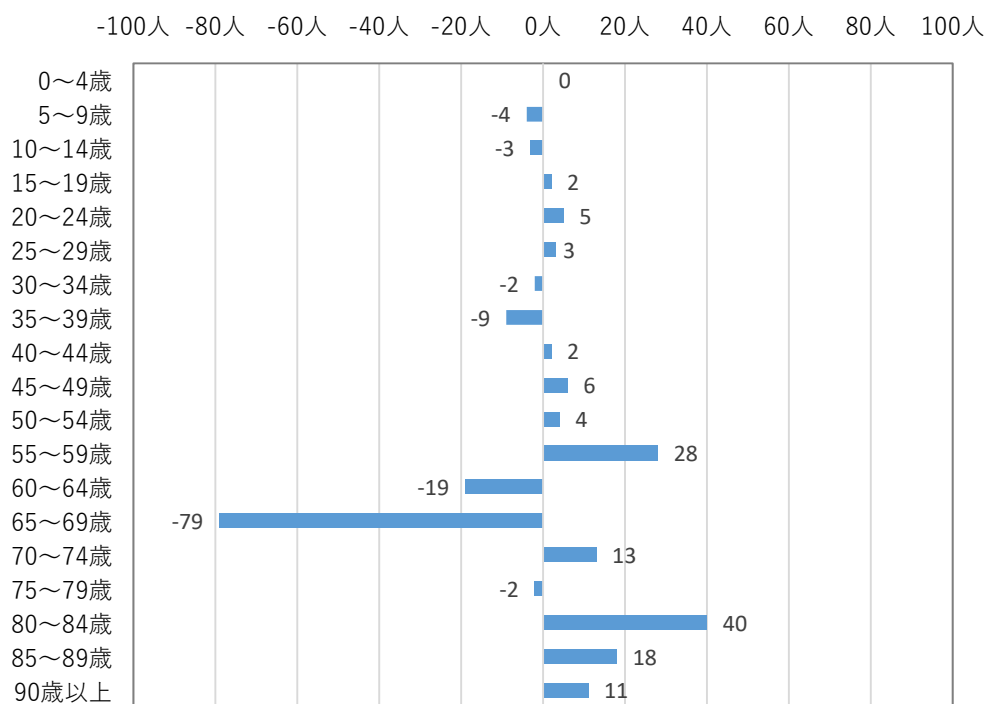
(単位：人)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
【参考】趨勢人口 (国調補正)	39,267	35,950	32,794	29,729	26,678	23,557	20,590	17,867	15,375	13,097
目標人口 (2019)	39,260	36,679	34,126	31,558	28,898	26,082	23,375	20,866	18,529	16,326
目標人口 (国調補正)	39,267	36,645	34,101	31,567	28,948	26,136	23,405	20,854	18,485	16,260
目標人口の補正前後の差	7	-34	-25	9	50	54	30	-12	-44	-66

【参考】目標人口の補正による2060年の差分（性別、年齢別）

【2060年／男性】の目標人口の補正による差分

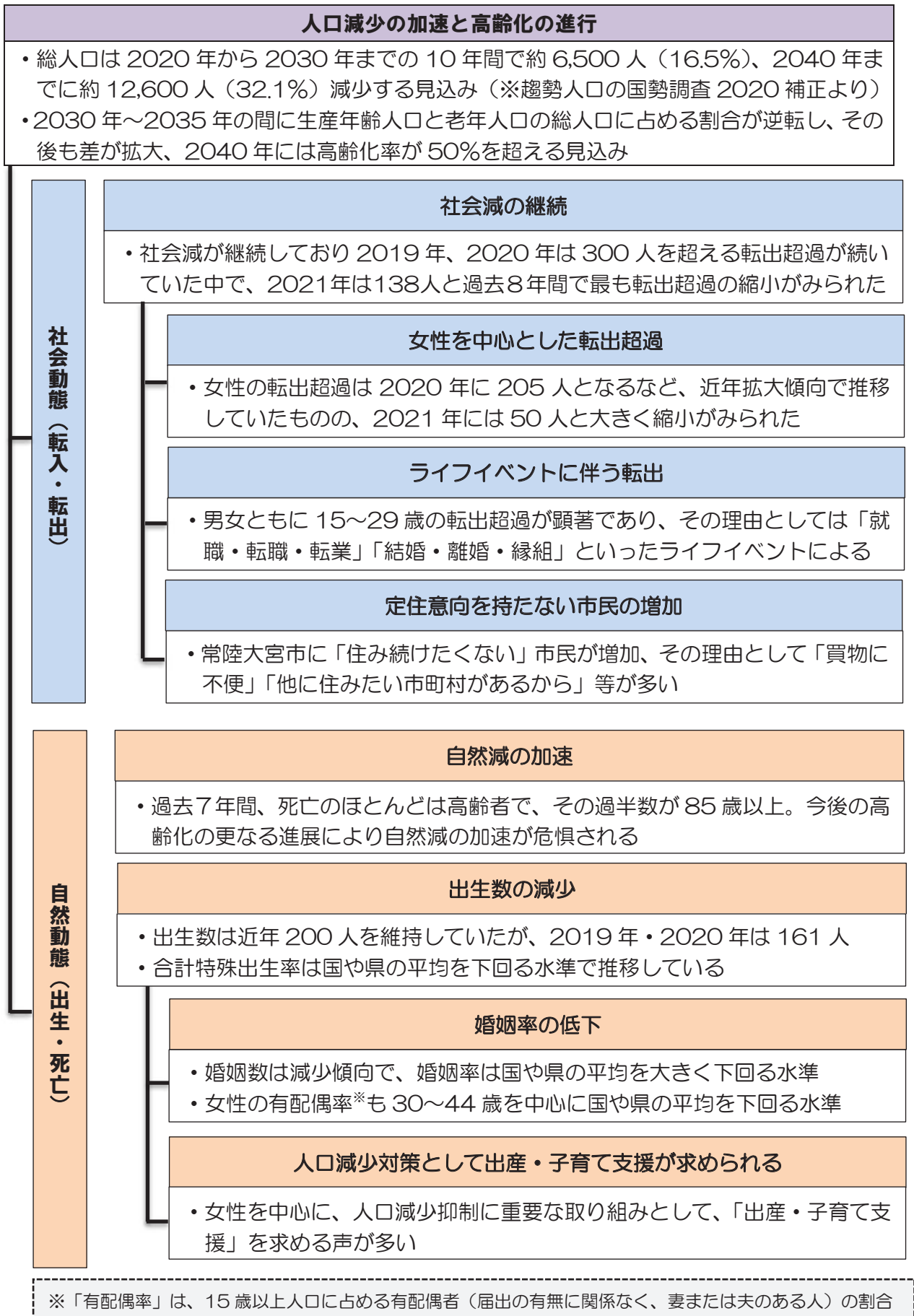


【2060年／女性】の目標人口の補正による差分



3. 人口問題に対する課題等の整理

人口をはじめとする各種統計データの分析、市民を対象としたアンケート調査等からみる課題等について、次に整理します。



4. 目指すべき将来の方向性

「人口問題に対する課題等の整理」を踏まえ、人口に関する目指すべき将来の方向性を、次に整理します。

【全体の方向性】 人口構造のバランスを整える

〈方向性 ①〉 進学・就職で転出する（した）人材のUターン促進

進学・就職等のライフイベントに伴い転出した若い世代が、そのまま戻ってこないことが、本市の人口減少の要因の一つとなっています。

こうした若者と本市がつながりを維持し、将来的に本市に戻ってきたいと思えるように、郷土愛の醸成、結婚・出産・子育て環境の向上、雇用環境や定住環境の向上、情報発信を図ることが必要です。

〈方向性 ②〉 女性を中心とした結婚・子育て世代の移住・定住促進

高齢化が進み、結婚・子育て世代の移住・定住促進が重要となる中で、こうした世代に選ばれるよう、本市の手厚い子育て支援や独自の教育等についてさらなる充実を目指すとともに、他の自治体と比較して優れた点等を広くPRしていくことが重要です。

とりわけ本市では、出産が期待される若い女性の転出超過が顕著であることから、長期的な年少人口の確保の視点からも、女性が活躍できる等、若い女性が定住したくなるようなイメージアップの取り組み等を進めることが求められます。

〈方向性 ③〉 合計特殊出生率の向上と出生数減少の抑制

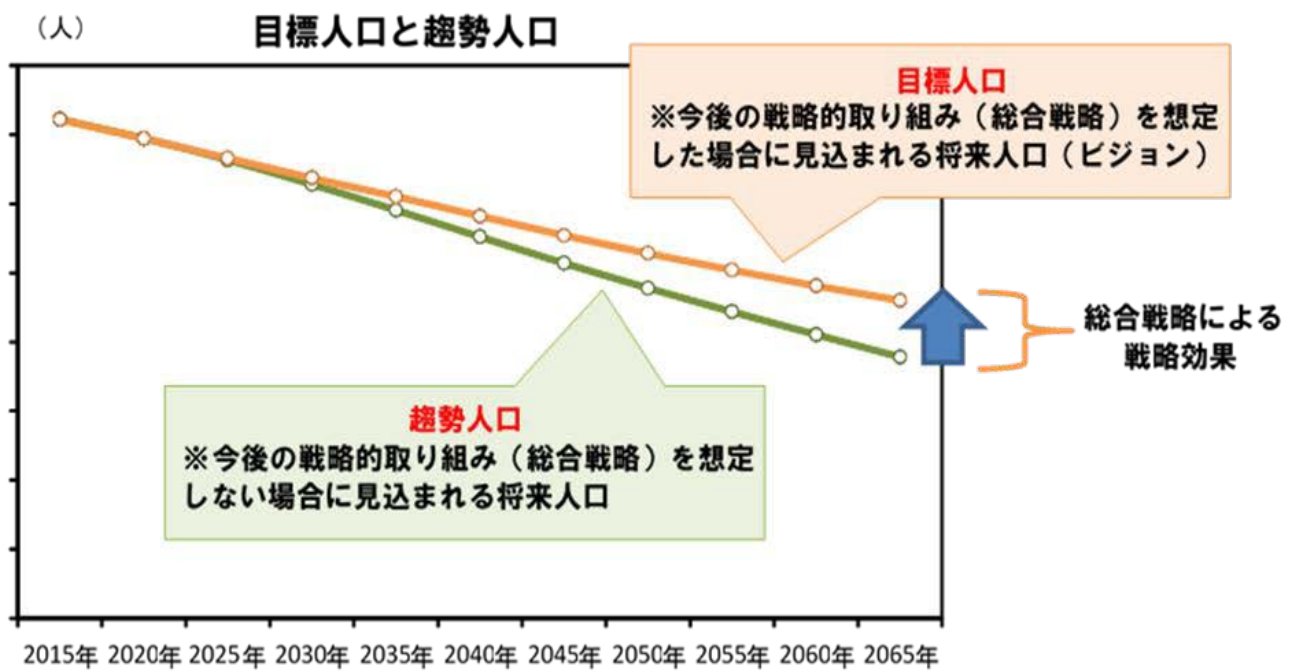
本市の合計特殊出生率は国や県の水準を下回っており、出生数も年々減少傾向にある中で、若い女性を中心に子どもを産み・育てたいと思えるように、引き続き出産・育児にかかる経済的な負担の軽減や出産・育児と仕事の両立を支えるための環境整備等を進め、合計特殊出生率の向上と出生数の減少抑制を目指すことが必要です。

Ⅲ. 人口の将来展望

1. 人口の将来展望の検討・設定の考え方

- 人口ビジョンにおいて設定される将来の「**目標人口**」は、総合戦略による人口減少対策の取り組みの結果として達成が見込まれる将来人口です。
- 一方、「**趨勢（すうせい）人口**」は、人口減少対策の取り組み等による効果を想定せず、このままの流れで進んだ場合の将来人口です。
- 目標人口、趨勢人口を設定することで、戦略の効果を確認することが可能となります。また、趨勢人口の設定においては、より実態に近い人口を見込むことが重要となります。

【図：総合戦略による効果（イメージ）】



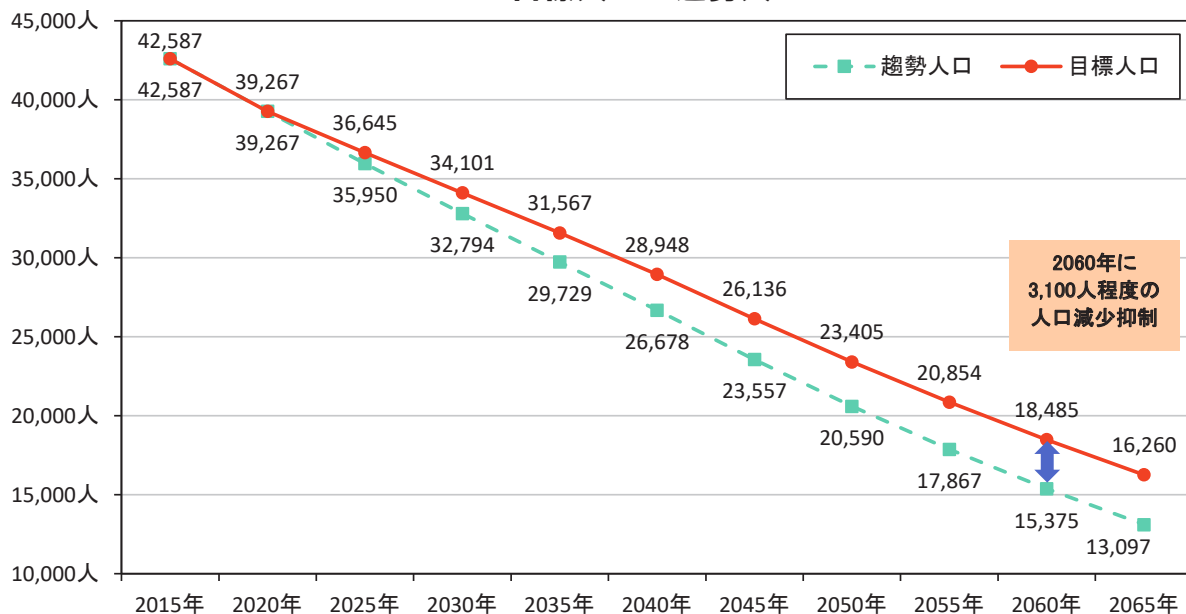
2. 目標人口

(1) 目標人口

○合計特殊出生率の向上や人口流入の促進、人口流出の抑制に取り組むことにより、趨勢人口に対して、2040年において2,300人程度、2060年において3,100人程度の人口減少抑制効果を見込んだ目標人口を設定します。

目標人口：約18,500人（2060年・令和42年）

目標人口と趨勢人口



単位：人	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	42,587	39,267	35,950	32,794	29,729	26,678	23,557	20,590	17,867	15,375	13,097
目標人口	42,587	39,267	36,645	34,101	31,567	28,948	26,136	23,405	20,854	18,485	16,260

戦略効果（目標人口-趨勢人口）	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
			695	1,307	1,838	2,270	2,579	2,815	2,987	3,110	3,163

※目標人口における合計特殊出生率及び社会動態については、次のように仮定しています。

[合計特殊出生率]

- ・2060年までに合計特殊出生率が2.07まで上昇、以降は2.07を維持。

単位：人	西 暦(年)									
	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	
合計特殊出生率	1.53	1.61	1.69	1.76	1.84	1.92	1.99	2.07	2.07	
【参考】出生数	938	850	759	669	591	538	497	462	411	

[社会動態]

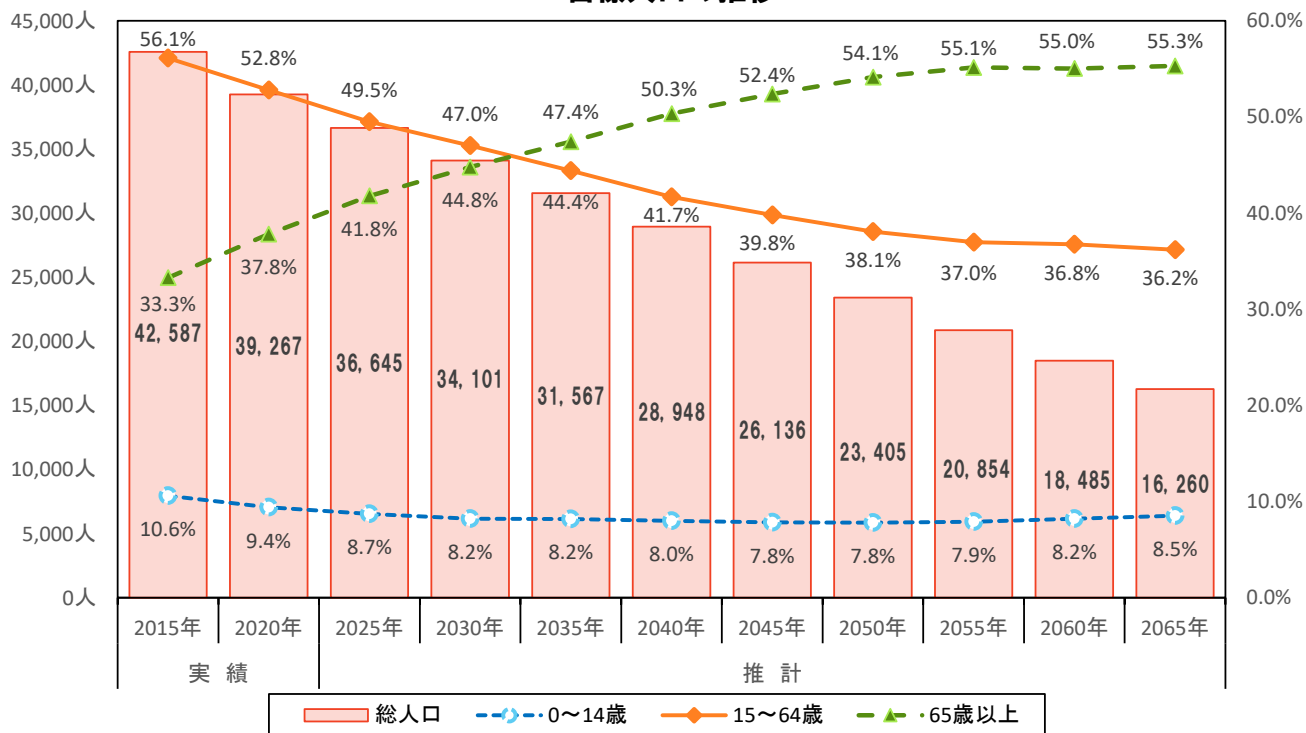
- ・2035年以降転入超過、2040年以降は「100人/5年」並みの転入超過が継続。

単位：人	西 暦(年)									
	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	
社会増減数	-170	-60	49	191	115	126	117	109	101	

(2) 目標人口の推計結果

〇2019年に設定した目標人口について、2020年の国勢調査の人口を反映し補正した推計は次のとおりです。

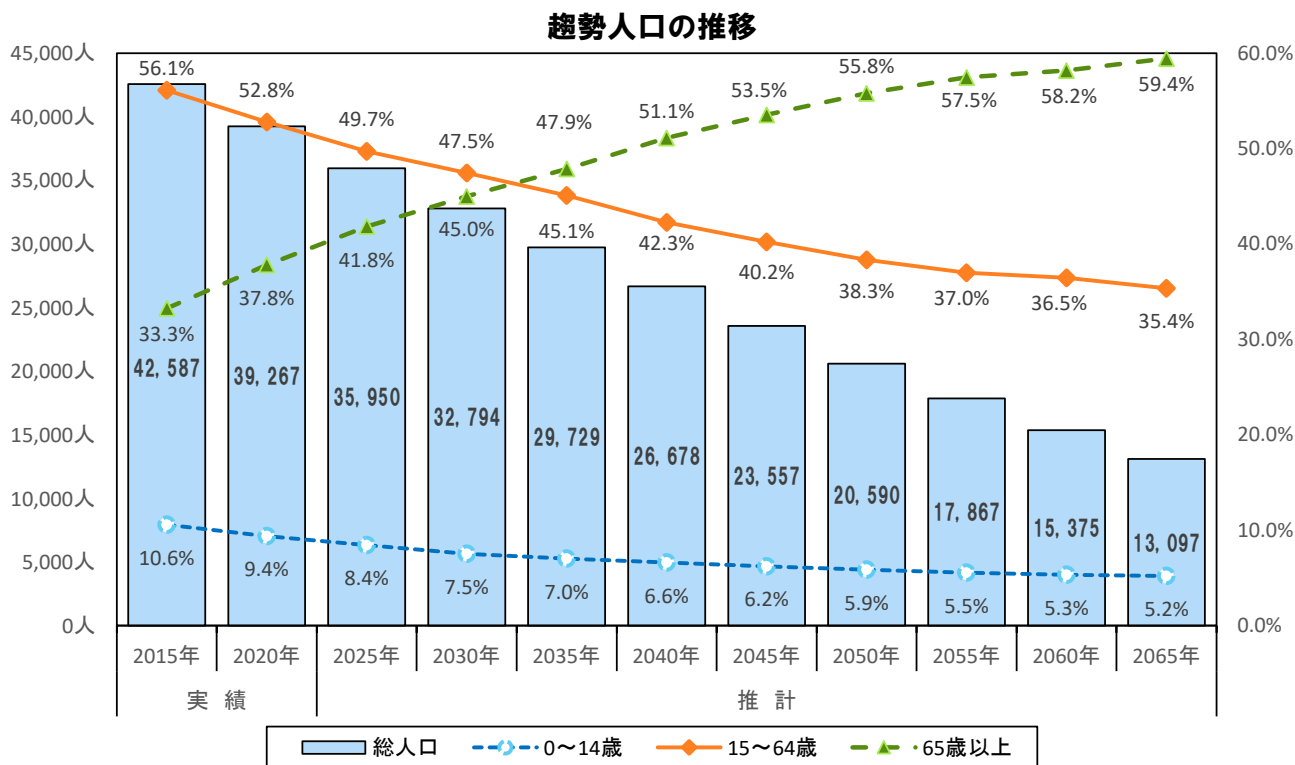
目標人口の推移



目標人口 単位：人	実績		推計								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	42,587	39,267	36,645	34,101	31,567	28,948	26,136	23,405	20,854	18,485	16,260
0～4歳	1,261	977	938	850	759	669	591	538	497	462	411
5～9歳	1,473	1,275	1,002	963	874	780	687	608	553	510	474
10～14歳	1,779	1,436	1,250	982	945	857	765	674	596	543	500
15～19歳	1,876	1,635	1,282	1,115	876	844	765	683	602	532	485
20～24歳	1,535	1,350	1,199	937	815	641	616	559	499	439	389
25～29歳	1,767	1,356	1,338	1,182	925	800	628	605	549	490	431
30～34歳	2,025	1,604	1,259	1,244	1,093	857	739	579	559	507	452
35～39歳	2,149	1,923	1,570	1,233	1,217	1,067	835	720	564	545	495
40～44歳	2,452	2,114	1,878	1,541	1,210	1,194	1,045	819	706	553	534
45～49歳	2,469	2,433	2,092	1,862	1,529	1,200	1,184	1,036	812	700	548
50～54歳	2,682	2,436	2,429	2,091	1,864	1,532	1,202	1,185	1,038	814	702
55～59歳	3,203	2,688	2,417	2,412	2,077	1,855	1,526	1,197	1,180	1,034	811
60～64歳	3,748	3,190	2,681	2,417	2,412	2,078	1,860	1,530	1,199	1,181	1,036
65～69歳	3,472	3,646	3,153	2,675	2,421	2,417	2,085	1,866	1,535	1,202	1,184
70～74歳	2,674	3,295	3,543	3,078	2,640	2,400	2,398	2,068	1,851	1,523	1,192
75～79歳	2,501	2,408	3,084	3,317	2,899	2,507	2,287	2,283	1,969	1,761	1,450
80～84歳	2,443	2,136	2,126	2,749	2,977	2,629	2,291	2,090	2,084	1,795	1,604
85～89歳	1,912	1,834	1,665	1,681	2,206	2,418	2,170	1,894	1,728	1,719	1,478
90歳以上	1,166	1,531	1,739	1,772	1,828	2,203	2,462	2,471	2,333	2,175	2,084
構成比											
0～14歳	10.6%	9.4%	8.7%	8.2%	8.2%	8.0%	7.8%	7.8%	7.9%	8.2%	8.5%
15～64歳	56.1%	52.8%	49.5%	47.0%	44.4%	41.7%	39.8%	38.1%	37.0%	36.8%	36.2%
65～74歳	14.4%	17.7%	18.3%	16.9%	16.0%	16.6%	17.2%	16.8%	16.2%	14.7%	14.6%
75歳以上	18.8%	20.1%	23.5%	27.9%	31.4%	33.7%	35.2%	37.3%	38.9%	40.3%	40.7%
高齢化率	33.3%	37.8%	41.8%	44.8%	47.4%	50.3%	52.4%	54.1%	55.1%	55.0%	55.3%

(3) 趨勢人口の推計結果

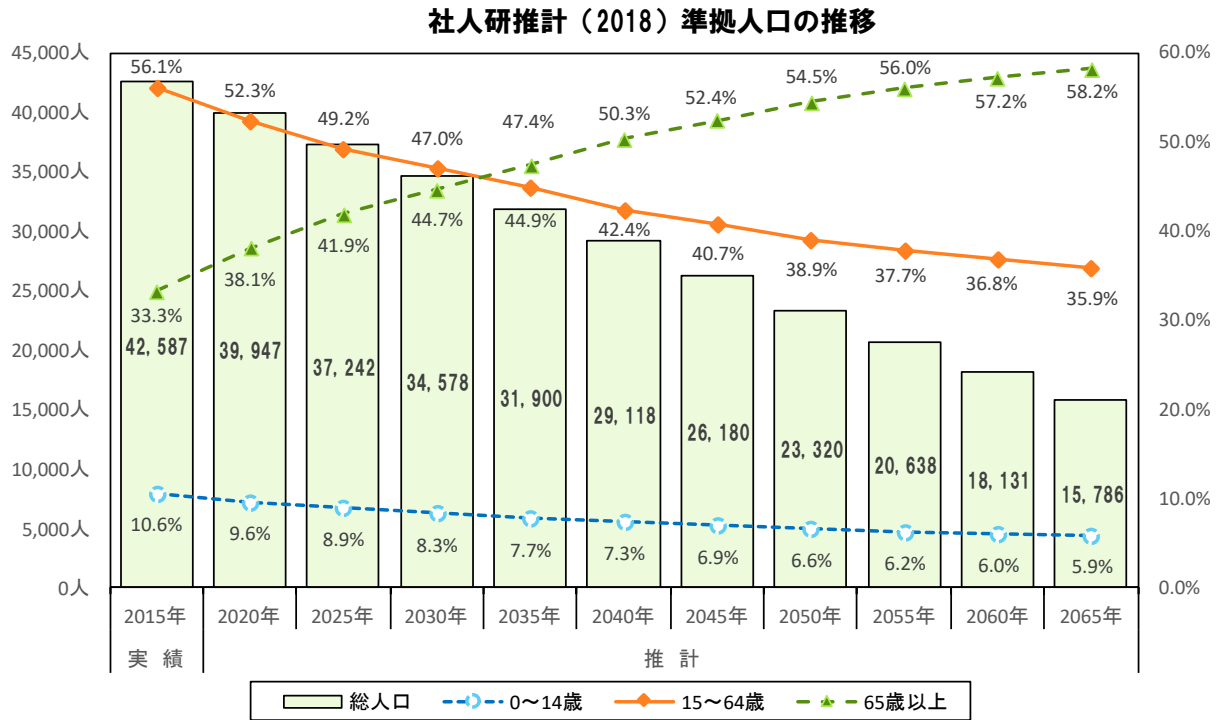
〇2019年に設定した趨勢人口について、2020年の国勢調査の人口を反映し補正した推計は次のとおりです。



趨勢人口 単位：人	実績		推計								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	42,587	39,267	35,950	32,794	29,729	26,678	23,557	20,590	17,867	15,375	13,097
0~4歳	1,261	977	813	697	586	488	399	328	270	226	188
5~9歳	1,473	1,275	987	823	706	593	494	403	332	273	229
10~14歳	1,779	1,436	1,231	953	795	683	573	477	389	321	264
15~19歳	1,876	1,635	1,264	1,083	838	699	601	504	419	342	283
20~24歳	1,535	1,350	1,182	911	780	603	503	432	363	302	246
25~29歳	1,767	1,356	1,318	1,148	886	754	582	487	419	352	292
30~34歳	2,025	1,604	1,241	1,207	1,047	809	686	529	444	382	320
35~39歳	2,149	1,923	1,547	1,198	1,163	1,007	778	659	507	426	367
40~44歳	2,452	2,114	1,851	1,496	1,159	1,124	973	752	637	489	411
45~49歳	2,469	2,433	2,061	1,807	1,462	1,133	1,098	950	735	622	478
50~54歳	2,682	2,436	2,393	2,030	1,781	1,443	1,118	1,084	938	725	614
55~59歳	3,203	2,688	2,381	2,341	1,987	1,746	1,416	1,097	1,063	920	712
60~64歳	3,748	3,190	2,641	2,345	2,306	1,959	1,724	1,399	1,083	1,048	908
65~69歳	3,472	3,646	3,106	2,596	2,314	2,276	1,937	1,704	1,383	1,069	1,035
70~74歳	2,674	3,295	3,488	2,985	2,522	2,260	2,223	1,892	1,665	1,351	1,043
75~79歳	2,501	2,408	3,035	3,215	2,767	2,358	2,120	2,084	1,773	1,560	1,266
80~84歳	2,443	2,136	2,090	2,660	2,838	2,468	2,119	1,906	1,871	1,590	1,398
85~89歳	1,912	1,834	1,633	1,621	2,096	2,262	1,999	1,719	1,548	1,515	1,286
90歳以上	1,166	1,531	1,688	1,678	1,696	2,013	2,214	2,184	2,028	1,862	1,757
構成比											
0~14歳	10.6%	9.4%	8.4%	7.5%	7.0%	6.6%	6.2%	5.9%	5.5%	5.3%	5.2%
15~64歳	56.1%	52.8%	49.7%	47.5%	45.1%	42.3%	40.2%	38.3%	37.0%	36.5%	35.4%
65~74歳	14.4%	17.7%	18.3%	17.0%	16.3%	17.0%	17.7%	17.5%	17.1%	15.7%	15.9%
75歳以上	18.8%	20.1%	23.5%	28.0%	31.6%	34.1%	35.9%	38.3%	40.4%	42.5%	43.6%
高齢化率	33.3%	37.8%	41.8%	45.0%	47.9%	51.1%	53.5%	55.8%	57.5%	58.2%	59.4%

【参考】社人研設定準拠による推計結果

○社人研推計（2018年）の設定に準拠した将来推計人口は次のとおりです。

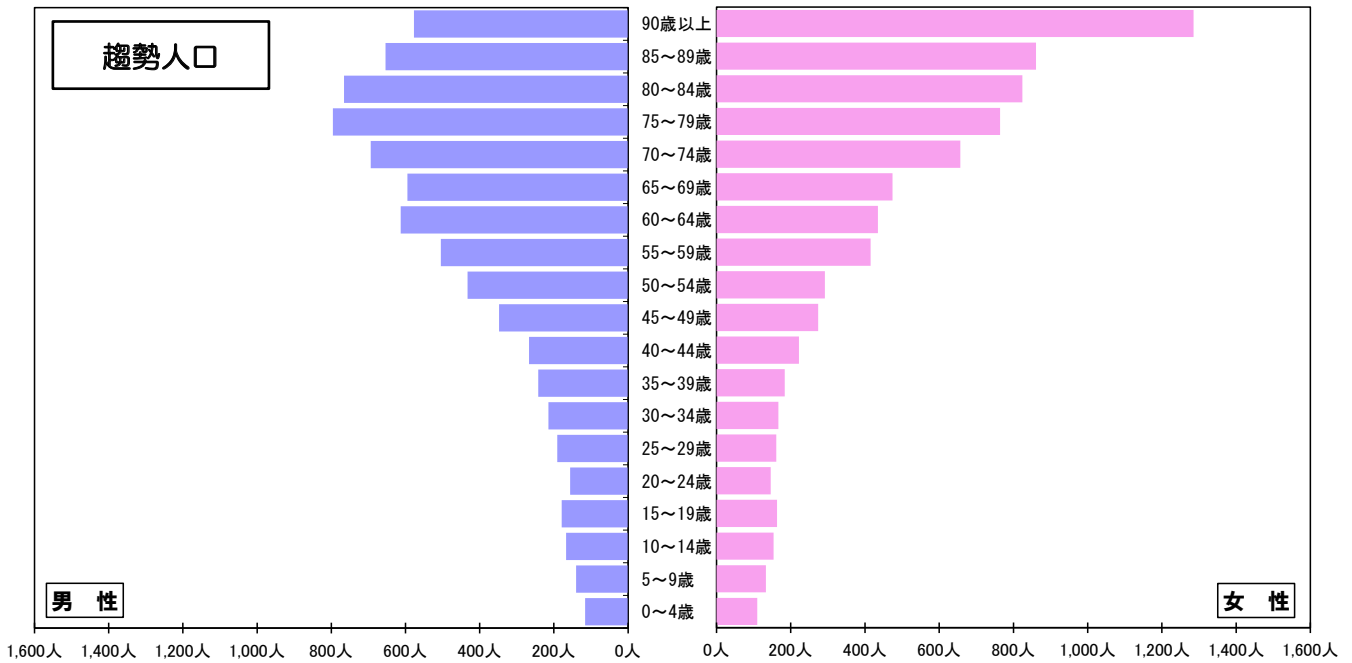


単位：人	実績	推計									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	42,587	39,947	37,242	34,578	31,900	29,118	26,180	23,320	20,638	18,131	15,786
0～4歳	1,261	1,102	921	815	700	593	498	421	351	304	262
5～9歳	1,473	1,292	1,131	946	837	719	610	511	433	361	312
10～14歳	1,779	1,445	1,267	1,109	928	821	705	598	501	425	354
15～19歳	1,876	1,589	1,290	1,131	990	828	733	629	534	447	379
20～24歳	1,535	1,377	1,166	943	827	723	605	535	460	390	326
25～29歳	1,767	1,513	1,363	1,150	931	812	710	595	526	453	383
30～34歳	2,025	1,636	1,403	1,265	1,065	863	750	656	550	486	418
35～39歳	2,149	1,965	1,601	1,373	1,237	1,040	841	730	639	536	474
40～44歳	2,452	2,097	1,919	1,572	1,348	1,213	1,019	825	715	626	526
45～49歳	2,469	2,422	2,075	1,901	1,559	1,337	1,202	1,010	818	709	620
50～54歳	2,682	2,464	2,418	2,073	1,903	1,562	1,339	1,204	1,012	820	711
55～59歳	3,203	2,658	2,445	2,401	2,059	1,894	1,556	1,333	1,199	1,008	817
60～64歳	3,748	3,186	2,651	2,444	2,401	2,060	1,898	1,560	1,336	1,201	1,010
65～69歳	3,472	3,692	3,150	2,645	2,448	2,406	2,067	1,904	1,565	1,340	1,204
70～74歳	2,674	3,386	3,588	3,074	2,610	2,427	2,387	2,050	1,888	1,552	1,329
75～79歳	2,501	2,488	3,169	3,360	2,895	2,479	2,313	2,273	1,951	1,797	1,477
80～84歳	2,443	2,188	2,195	2,824	3,017	2,626	2,265	2,113	2,075	1,777	1,637
85～89歳	1,912	1,874	1,705	1,734	2,266	2,452	2,169	1,873	1,746	1,711	1,461
90歳以上	1,166	1,573	1,785	1,818	1,879	2,263	2,513	2,500	2,339	2,188	2,086
構成比											
0～14歳	10.6%	9.6%	8.9%	8.3%	7.7%	7.3%	6.9%	6.6%	6.2%	6.0%	5.9%
15～64歳	56.1%	52.3%	49.2%	47.0%	44.9%	42.4%	40.7%	38.9%	37.7%	36.8%	35.9%
65～74歳	14.4%	17.7%	18.1%	16.5%	15.9%	16.6%	17.0%	17.0%	16.7%	16.0%	16.0%
75歳以上	18.8%	20.3%	23.8%	28.2%	31.5%	33.7%	35.4%	37.6%	39.3%	41.2%	42.2%
高齢化率	33.3%	38.1%	41.9%	44.7%	47.4%	50.3%	52.4%	54.5%	56.0%	57.2%	58.2%

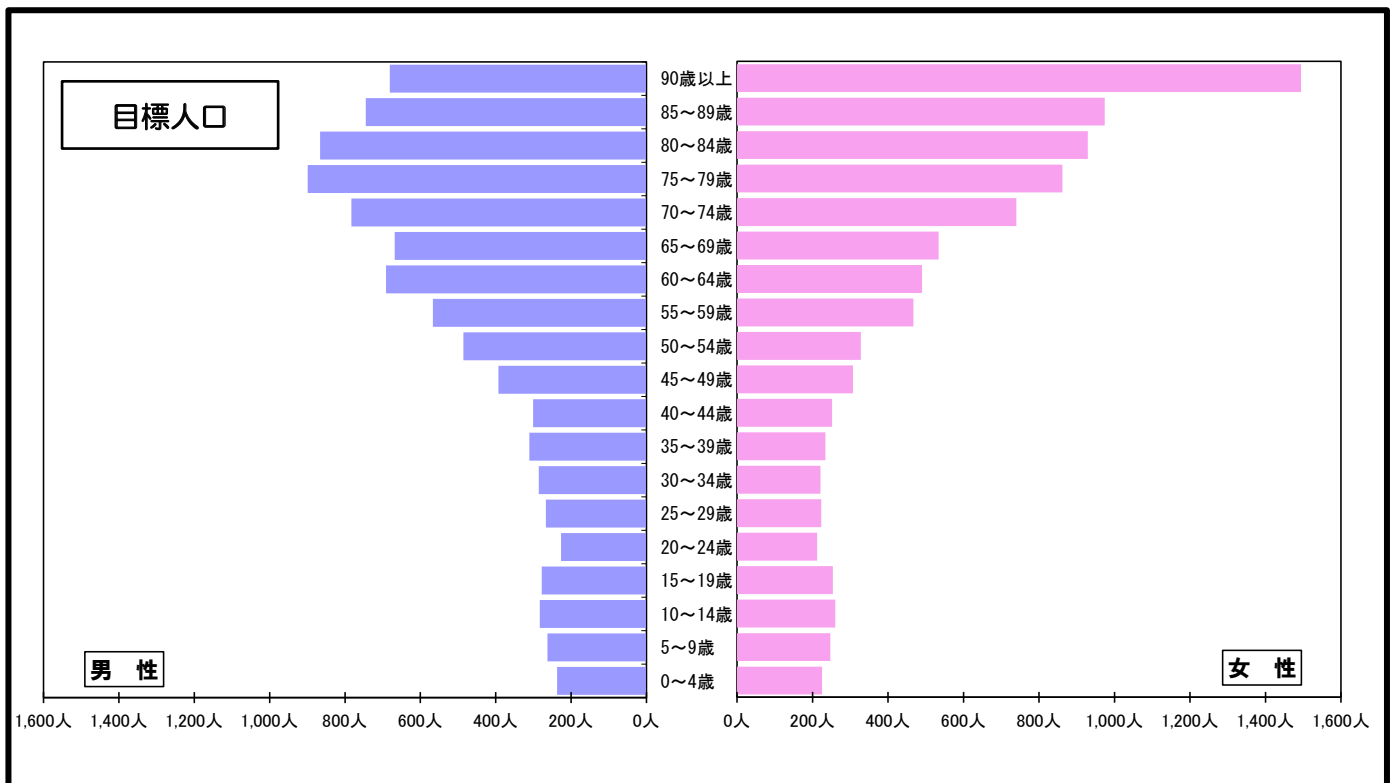
【参考】2060年の目標人口と趨勢人口の比較

○合計特殊出生率の向上や人口流入の促進、人口流出の抑制により、人口規模だけでなく、人口構造についても、年少人口・生産年齢人口を中心に、次のような効果が見込まれます。

趨勢人口と目標人口比較（2060年）



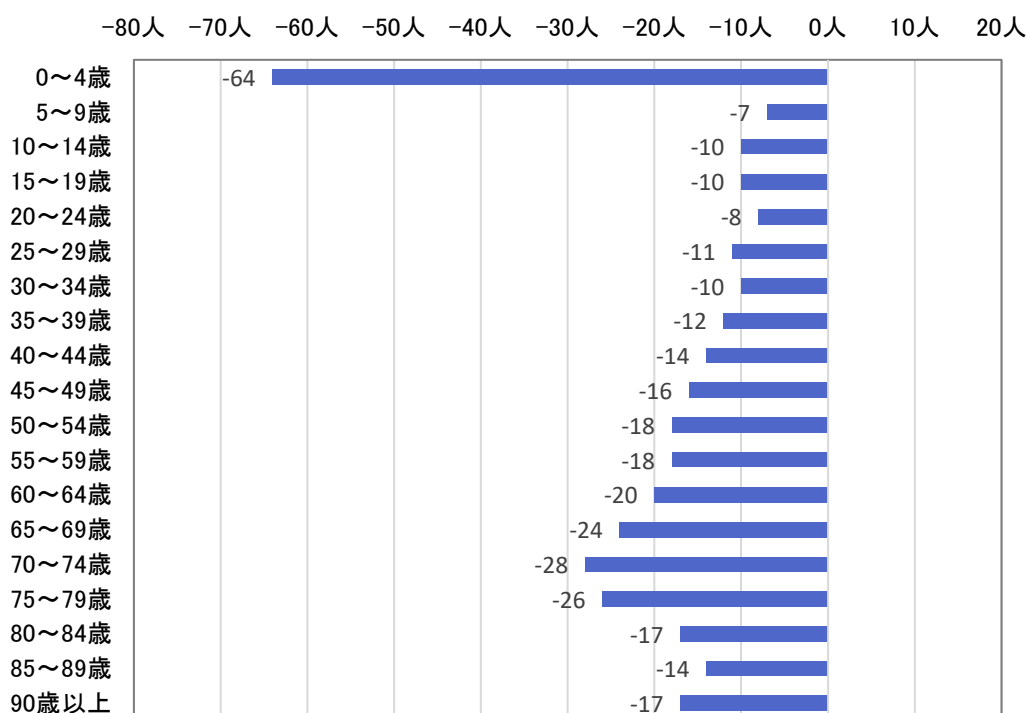
減少を抑制



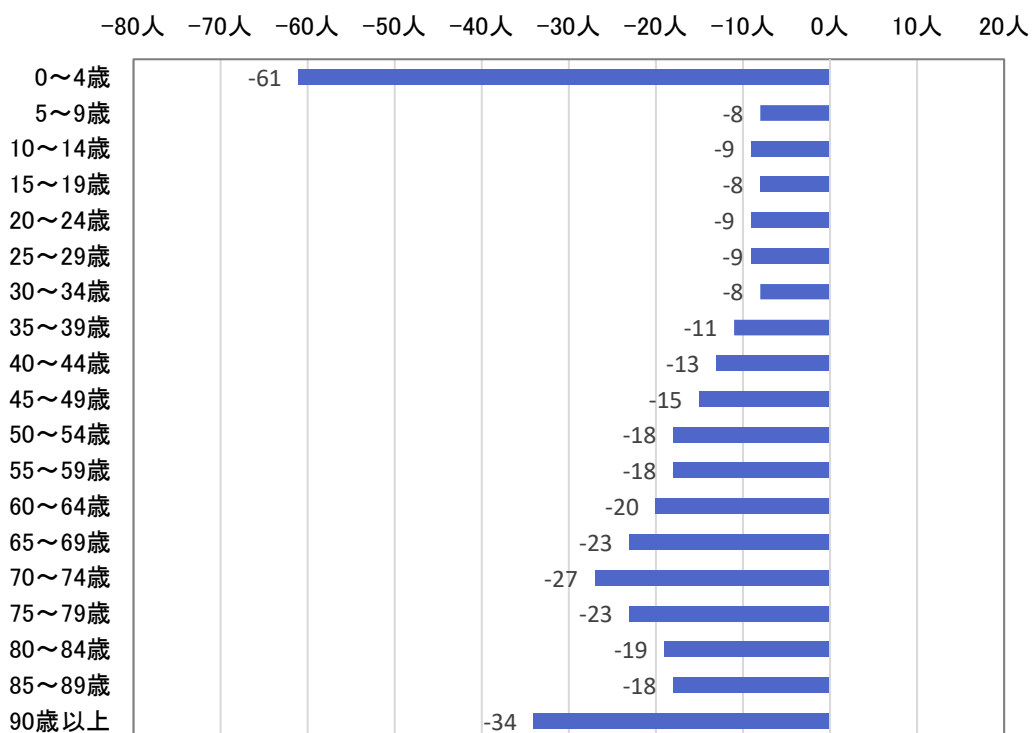
【参考】2025年の目標人口と趨勢人口の乖離の詳細

○目標人口の実現に向けた総合戦略の取り組みの検討・設定においては、目標人口と趨勢人口の性別・年齢別の人口のギャップについても意識した視点が必要です。

【2025年／男性】の目標人口と趨勢人口の差分



【2025年／女性】の目標人口と趨勢人口の差分



2025年の目標人口と趨勢人口を性別・年齢区分別に比較すると、
※全体としては 男性 344人、女性 351人不足

資料編

1. 常陸大宮市の人口等の現状分析

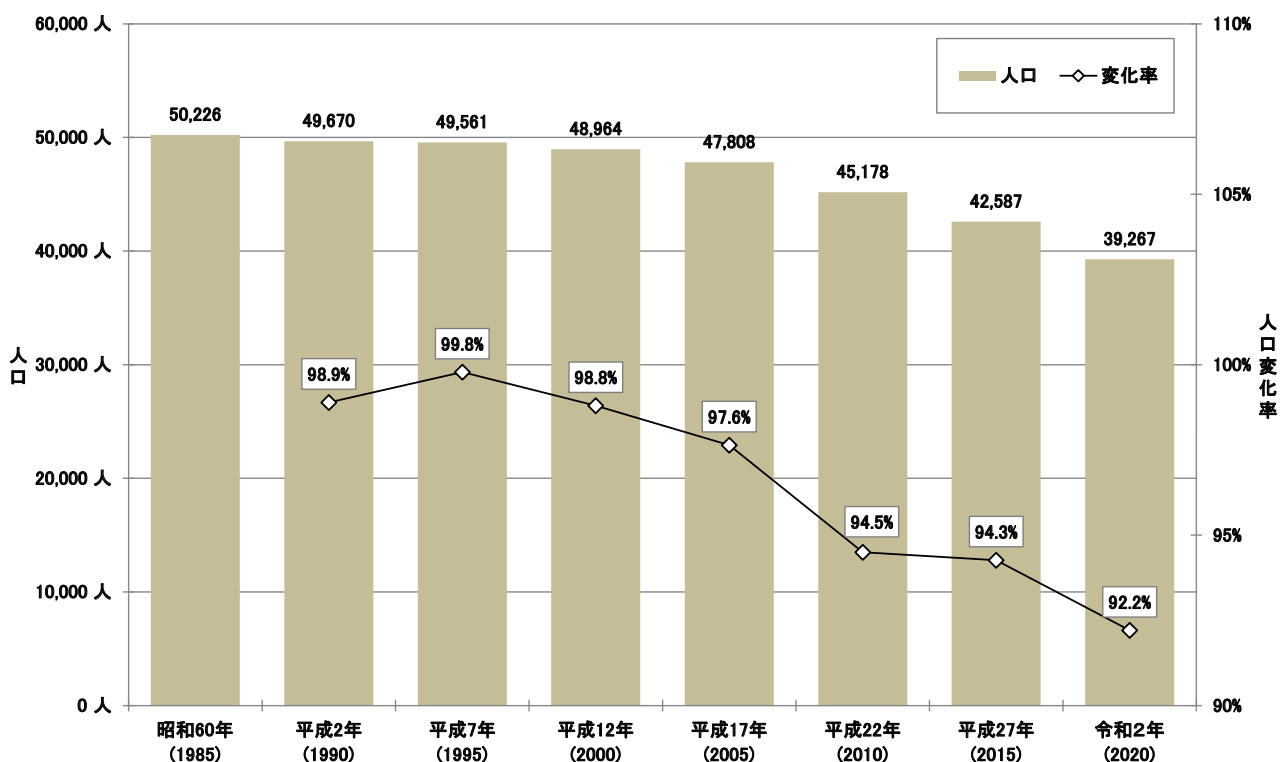
(1) 人口の推移

① 長期的な人口の推移【再掲】

○常陸大宮市の総人口は減少傾向で推移しており、昭和60年の50,226人から、令和2年には39,267人となり、35年間で約11,000人減少しています。

○人口変化率についても、平成7年以降、低下傾向となっています。

人口と人口変化率の推移



(総務省「国勢調査(昭和60年～令和2年)」)

※人口変化率は各年の5年前の人口に対する変化率

(単位:人,世帯)

	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
総人口	50,226	49,670	49,561	48,964	47,808	45,178	42,587	39,267
年少人口 (0～14歳)	9,940 19.8%	8,954 18.0%	8,139 16.4%	7,121 14.5%	6,237 13.0%	5,340 11.8%	4,483 10.6%	3,632 9.4%
生産年齢人口 (15～64歳)	32,409 64.5%	31,474 63.4%	30,391 61.3%	29,552 60.4%	28,612 59.8%	26,476 58.7%	23,685 56.2%	20,414 52.8%
老年人口 (65歳以上)	7,877 15.7%	9,229 18.6%	11,031 22.3%	12,291 25.1%	12,959 27.1%	13,321 29.5%	14,005 33.2%	14,627 37.8%
年齢不詳	0	13	0	0	0	41	414	594
人口変化率	—	98.9%	99.8%	98.8%	97.6%	94.5%	94.3%	92.2%
世帯数	13,782	14,120	14,905	15,566	16,029	16,087	16,005	15,643
一般世帯数	13,680	14,104	14,891	15,553	16,005	16,044	15,963	15,596

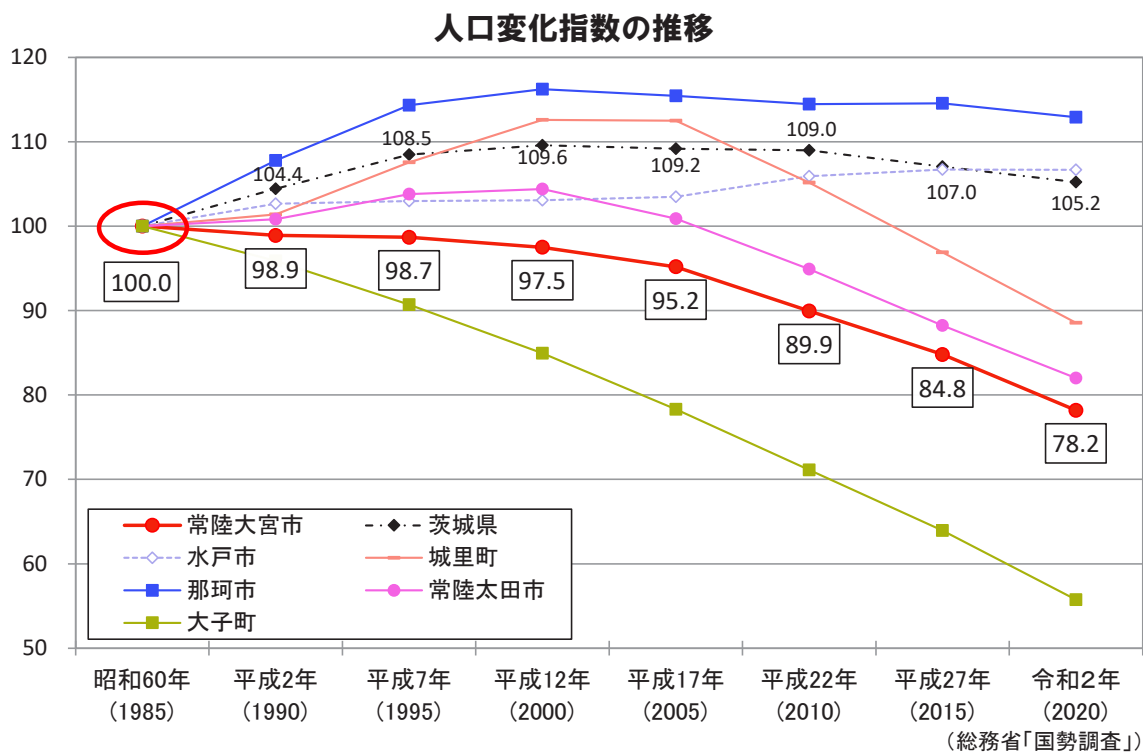
(総務省「国勢調査(昭和60年～令和2年)」)

※年齢3区分別の割合は総人口から年齢不詳を除いた数の割合

②人口の変化の都市比較

○昭和60年の人口を100とした場合の変化指数を、茨城県、近隣都市と比較すると、茨城県では平成12年がピークとなっているのに対し、常陸大宮市では昭和60年以降一貫して減少しており、令和2年には78.2となっています。

○令和2年の変化指数について、近隣都市の状況を見ると、那珂市が112.9と最も高くなっている一方で、大子町は55.7と最も低くなっています。



	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
常陸大宮市	100.0	98.9	98.7	97.5	95.2	89.9	84.8	78.2
茨城県	100.0	104.4	108.5	109.6	109.2	109.0	107.0	105.2
水戸市	100.0	102.6	103.0	103.1	103.5	105.9	106.7	106.7
城里町	100.0	101.4	107.5	112.6	112.5	105.2	96.9	88.6
那珂市	100.0	107.8	114.3	116.2	115.4	114.5	114.5	112.9
常陸太田市	100.0	100.8	103.8	104.4	100.9	94.9	88.2	82.0
大子町	100.0	95.9	90.7	85.0	78.3	71.1	63.9	55.7

(総務省「国勢調査」)

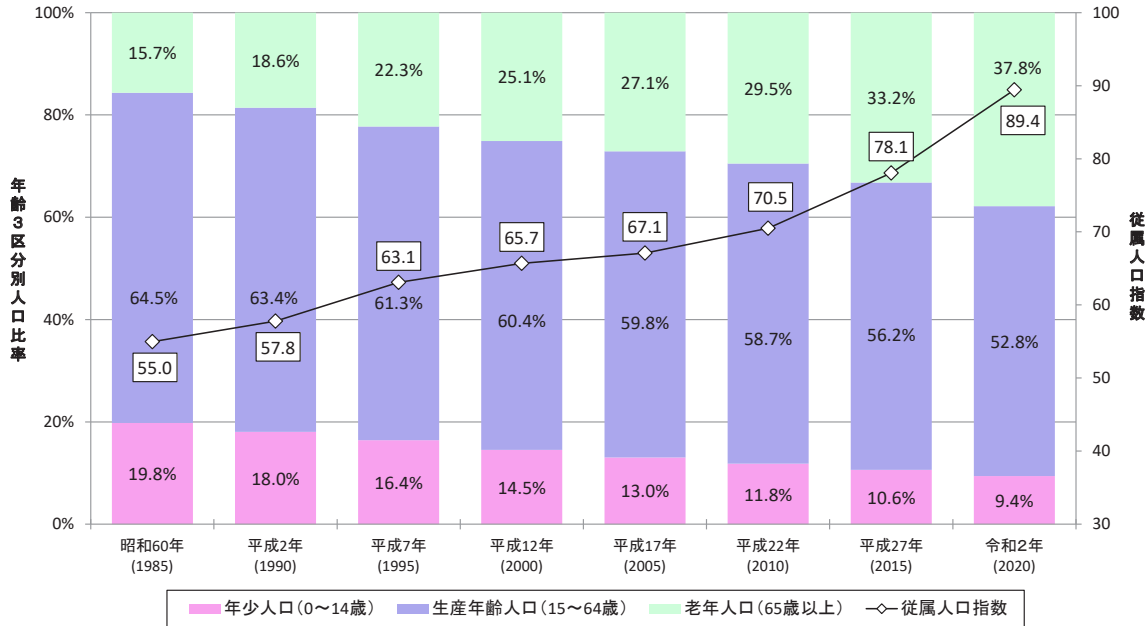
(2) 性別・年齢別人口動向

①年齢3区分別人口の推移

○年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が昭和60年の15.7%から令和2年には37.8%と35年間で22.1ポイント増加している一方で、年少人口は19.8%から9.4%と10.4ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。

○生産年齢人口100人が、年少人口と老年人口を何人支えているかを示す比率である従属人口指数は、昭和60年の55.0から令和2年には89.4まで増加しています。

年齢3区分別人口構造と従属人口指数の推移



(総務省「国勢調査(昭和60年～令和2年)」)
※年齢3区分別の割合は総人口から年齢不詳を除いた数の割合

(人)

		昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	
人 口	年少人口	0~4歳	2,901	2,500	2,151	2,013	1,806	1,433	1,251	962
		5~9歳	3,296	3,103	2,716	2,311	2,092	1,812	1,463	1,256
		10~14歳	3,743	3,351	3,272	2,797	2,339	2,095	1,769	1,414
		計	9,940	8,954	8,139	7,121	6,237	5,340	4,483	3,632
	生産年齢人口	15~19歳	3,277	3,331	3,049	2,934	2,566	2,096	1,865	1,611
		20~24歳	2,509	2,413	2,540	2,351	2,304	1,809	1,520	1,330
		25~29歳	2,893	2,437	2,469	2,643	2,460	2,191	1,751	1,336
		30~34歳	3,468	2,991	2,600	2,469	2,617	2,206	2,009	1,580
		35~39歳	3,443	3,578	3,165	2,776	2,521	2,507	2,133	1,894
		40~44歳	2,863	3,497	3,721	3,265	2,714	2,497	2,430	2,083
		45~49歳	2,984	2,846	3,545	3,767	3,270	2,684	2,447	2,395
		50~64歳	10,972	10,381	9,302	9,347	10,160	10,486	9,530	8,185
	計	32,409	31,474	30,391	29,552	28,612	26,476	23,685	20,414	
	老年人口	65~74歳	4,739	5,491	6,674	6,778	5,962	5,421	6,075	6,833
75歳以上		3,138	3,738	4,357	5,513	6,997	7,900	7,930	7,794	
計		7,877	9,229	11,031	12,291	12,959	13,321	14,005	14,627	
年齢不詳		0	13	0	0	0	41	414	594	
総人口		50,226	49,670	49,561	48,964	47,808	45,178	42,587	39,267	
構 成 比	年少人口	0~14歳	19.8%	18.0%	16.4%	14.5%	13.0%	11.8%	10.6%	9.4%
	生産年齢人口	15~64歳	64.5%	63.4%	61.3%	60.4%	59.8%	58.7%	56.2%	52.8%
	老年人口	65歳以上	15.7%	18.6%	22.3%	25.1%	27.1%	29.5%	33.2%	37.8%

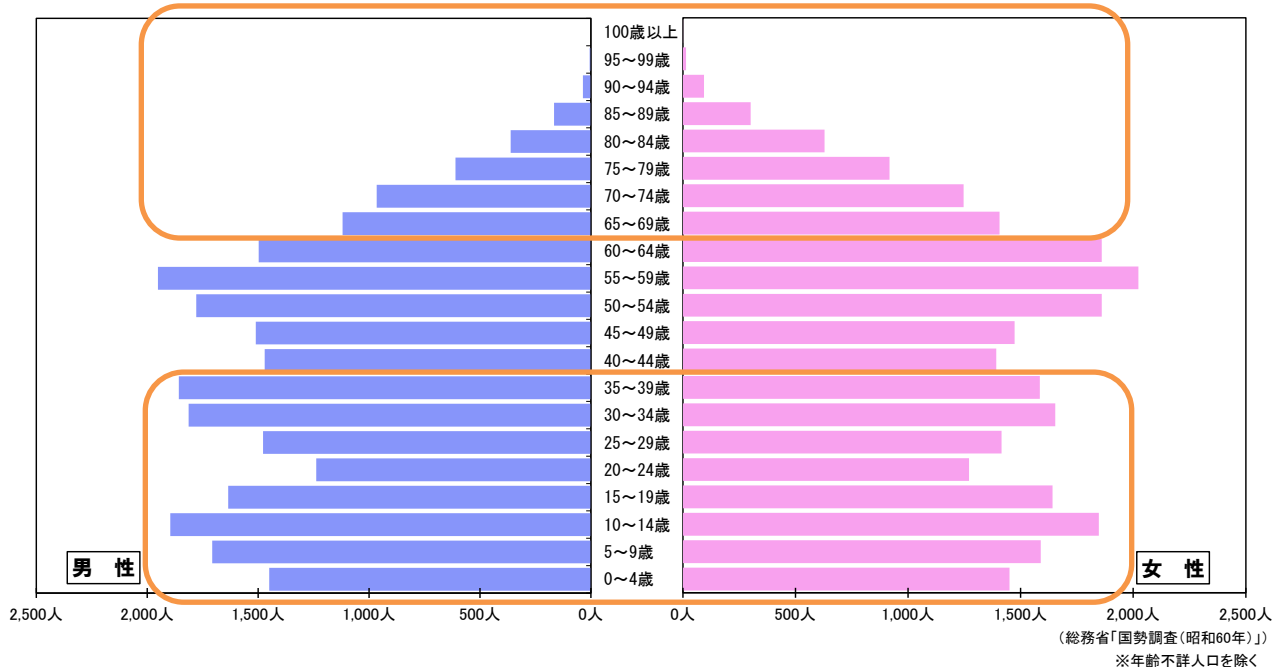
(総務省「国勢調査(昭和60年～令和2年)」)

※年齢3区分別の割合は総人口から年齢不詳を除いた数の割合

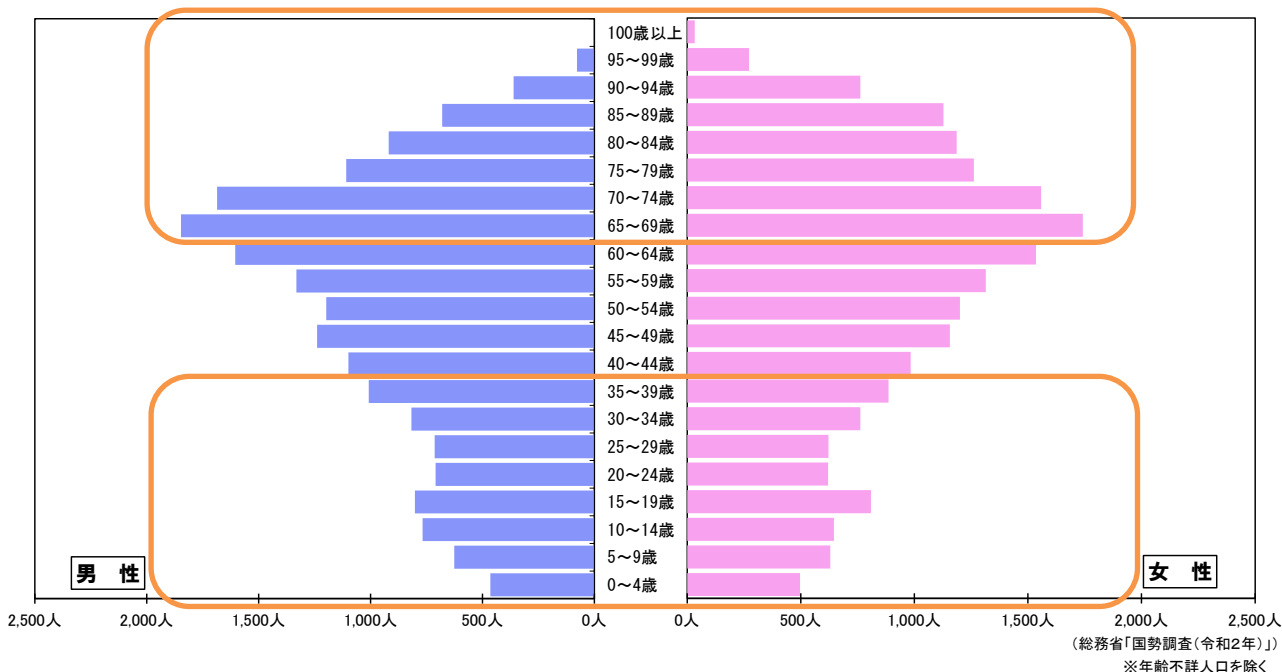
②性別の人口の変化

○昭和60年と令和2年の常陸大宮市の5歳階級別の人口構造を比較すると、65歳以上の人口が大きく増加している一方で、39歳以下の人口は大きく減少しています。

常陸大宮市の5歳階級別人口構造（1985⇒2020）



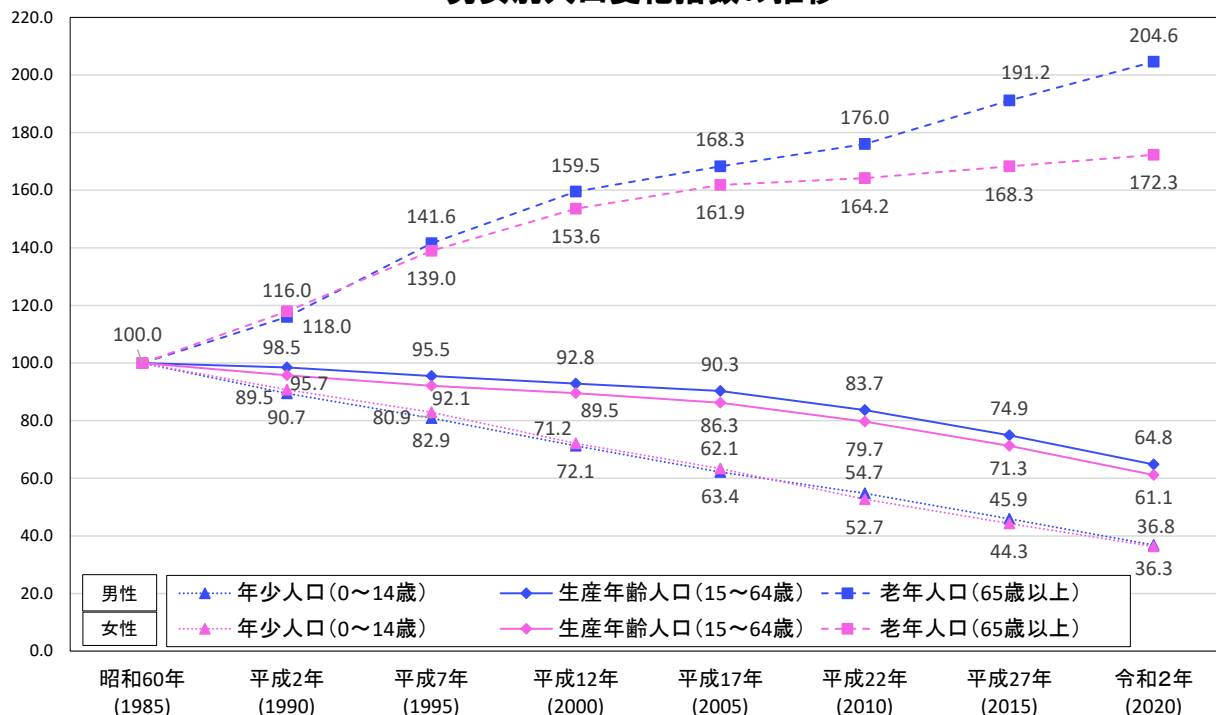
65歳以上の人口が大きく増加し、39歳以下の人口が大きく減少



○昭和60年の人口を100とした場合の男女別の変化指数について、令和2年の状況をそれぞれの総数でみると、男性が77.7、女性が76.4となっています。

○令和2年の老年人口(65歳以上)の変化指数をみると、男性の204.6に対し、女性は172.3と大きく下回っています。また、年少人口・生産年齢人口についても同様に、女性の変化指数が男性の変化指数を下回っている状況です。

男女別人口変化指数の推移



(総務省「国勢調査(昭和60年~令和2年)」)

(単位: 人)

		昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	
男性	人口	総数	24,554	24,298	24,211	23,882	23,297	22,103	20,722	19,068
		0~14歳	5,053	4,520	4,088	3,599	3,140	2,765	2,318	1,859
		15~64歳	16,234	15,988	15,498	15,072	14,660	13,587	12,158	10,525
		65歳以上	3,267	3,790	4,625	5,211	5,497	5,751	6,246	6,684
	変化指数	総数	100.0	99.0	98.6	97.3	94.9	90.0	84.4	77.7
		0~14歳	100.0	89.5	80.9	71.2	62.1	54.7	45.9	36.8
		15~64歳	100.0	98.5	95.5	92.8	90.3	83.7	74.9	64.8
女性	人口	総数	25,672	25,359	25,350	25,082	24,511	23,034	21,451	19,605
		0~14歳	4,887	4,434	4,051	3,522	3,097	2,575	2,165	1,773
		15~64歳	16,175	15,486	14,893	14,480	13,952	12,889	11,527	9,889
		65歳以上	4,610	5,439	6,406	7,080	7,462	7,570	7,759	7,943
	変化指数	総数	100.0	98.8	98.7	97.7	95.5	89.7	83.6	76.4
		0~14歳	100.0	90.7	82.9	72.1	63.4	52.7	44.3	36.3
		15~64歳	100.0	95.7	92.1	89.5	86.3	79.7	71.3	61.1
	65歳以上	100.0	118.0	139.0	153.6	161.9	164.2	168.3	172.3	

(総務省「国勢調査(昭和60年~令和2年)」)

※人口総数には年齢不詳を含まない

(3) 地域別の人口動向

地域の状況を把握するために、次のようなカルテを地域ごとに作成し、次ページ以降に記載しています。

【カルテの概要】

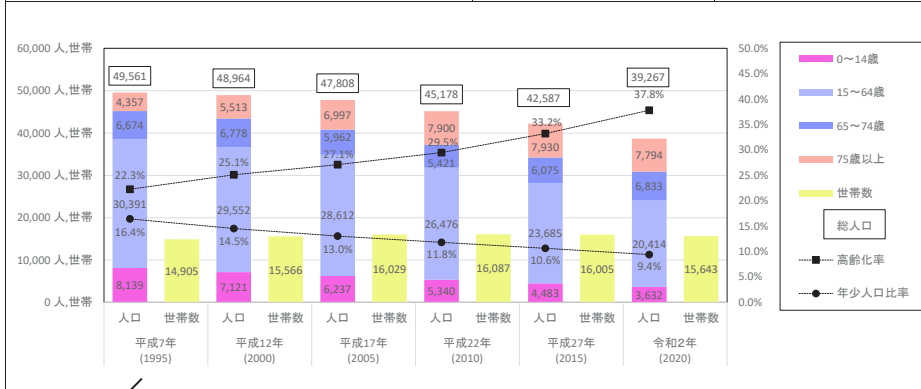
○地域の名称と地区に含まれる小地域を記載

○令和2年度の各種統計データを記載
 <資料>
 ◇総務省「国勢調査（総人口には年齢不詳を含む）」

常陸大宮市（全体）

市全体の概況		総人口	39,267 人
市全体では、総人口は減少傾向で推移しており、年少人口比率は減少、高齢化率は増加している。		高齢化率	37.8%
世帯数については平成22年まで増加傾向で推移し、平成27年に減少に転換、一世帯当たりの人員は令和2年に2.5人となっている。		生産年齢人口比率	52.8%
		年少人口比率	9.4%
		女性比率	50.6%
		一世帯当たり人員	2.5 人

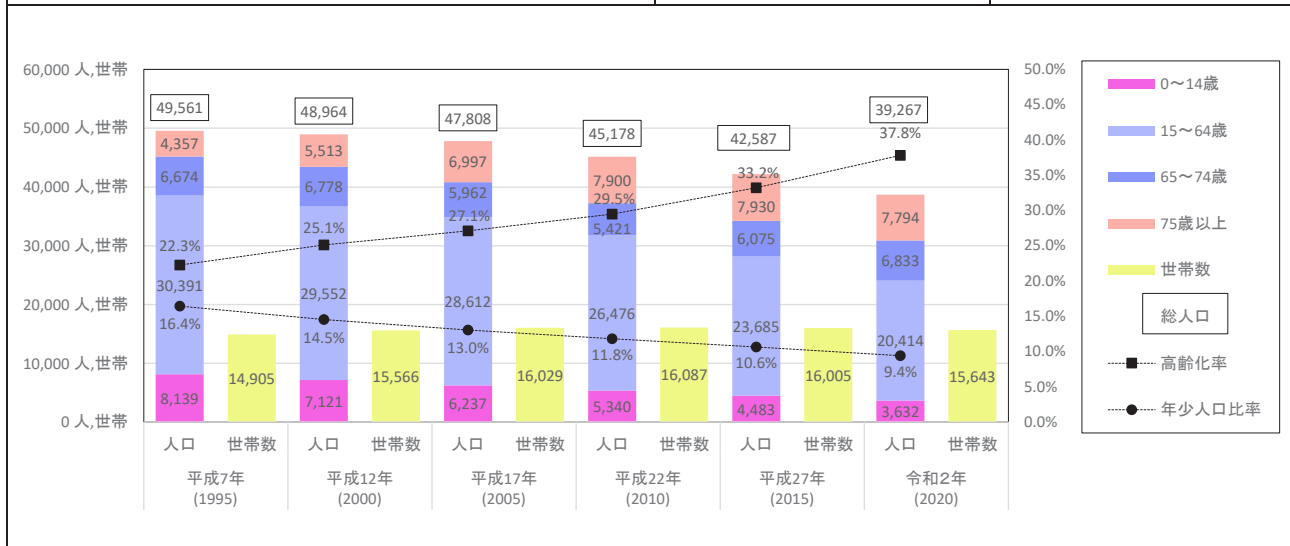
○掲載データからみる地域の概要を記載



○人口（年齢3区分別）・世帯数・高齢化率・年少人口比率の推移のグラフを掲載
 <資料>
 ◇総務省「国勢調査（総人口には年齢不詳を含む）」

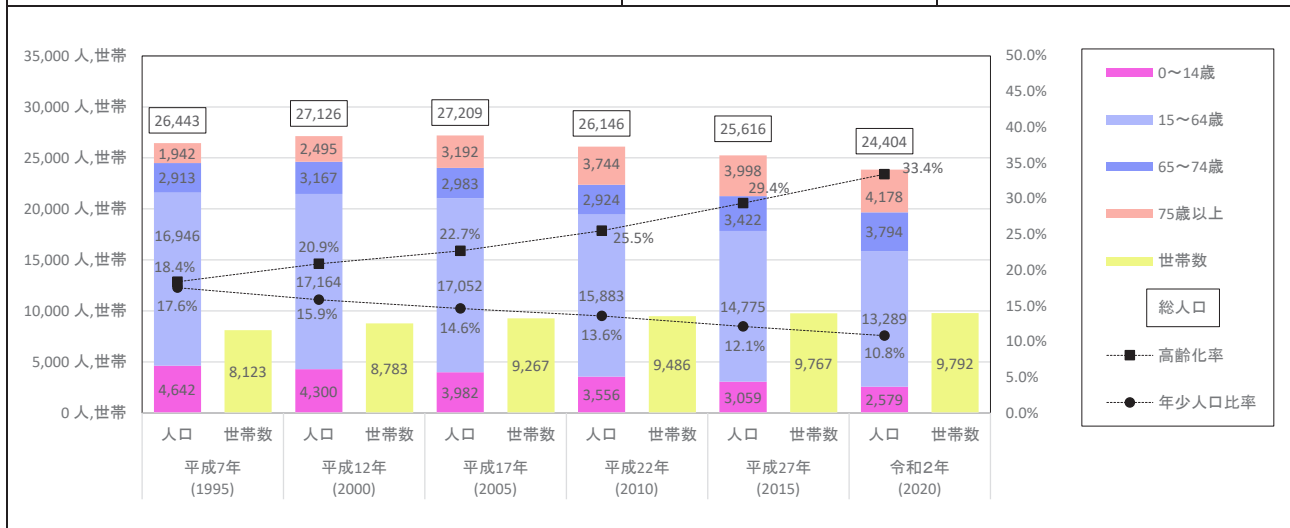
常陸大宮市（全体）

市全体の概況	総人口	39,267 人
<p>市全体では、総人口は減少傾向で推移しており、年少人口比率は減少、高齢化率は増加している。</p> <p>世帯数については平成22年まで増加傾向で推移し、平成27年に減少に転換、一世帯当たりの人員は令和2年に2.5人となっている。</p>	高齢化率	37.8%
	生産年齢人口比率	52.8%
	年少人口比率	9.4%
	女性比率	50.6%
	一世帯当たり人員	2.5 人



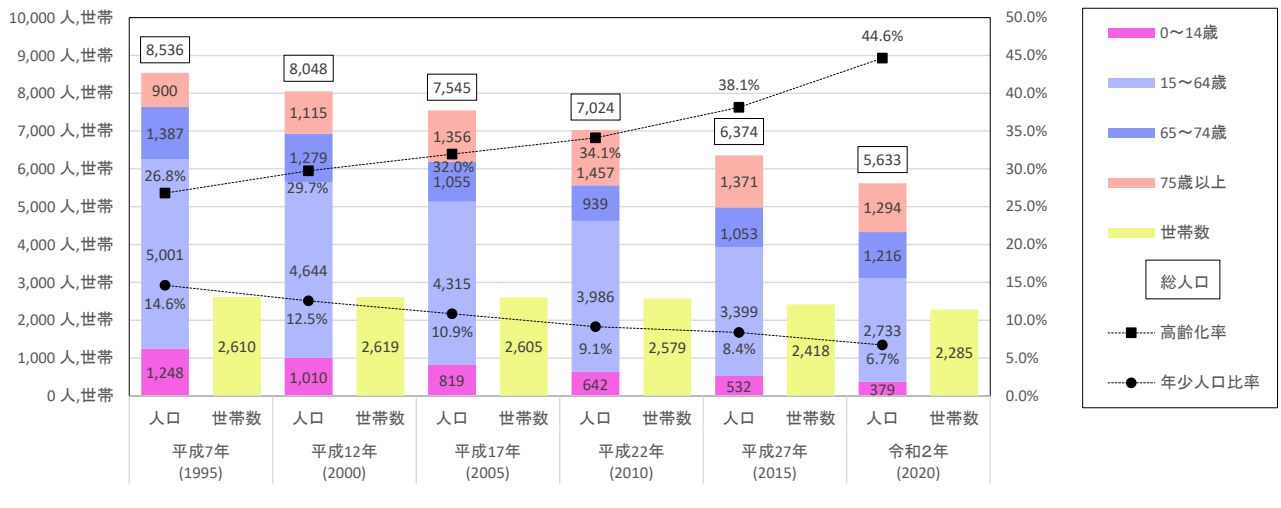
大宮地域

地域の概況	総人口	24,404 人
<p>大宮地域の人口は、平成17年以降減少傾向で推移している。</p> <p>令和2年の年少人口比率は5つの地域で最も高く、高齢化率は最も低くなっている。生産年齢人口比率についても、市全体を上回り、令和2年には55.7%となっている。</p>	高齢化率	33.4%
	生産年齢人口比率	55.7%
	年少人口比率	10.8%
	女性比率	50.9%
	一世帯当たり人員	2.5 人



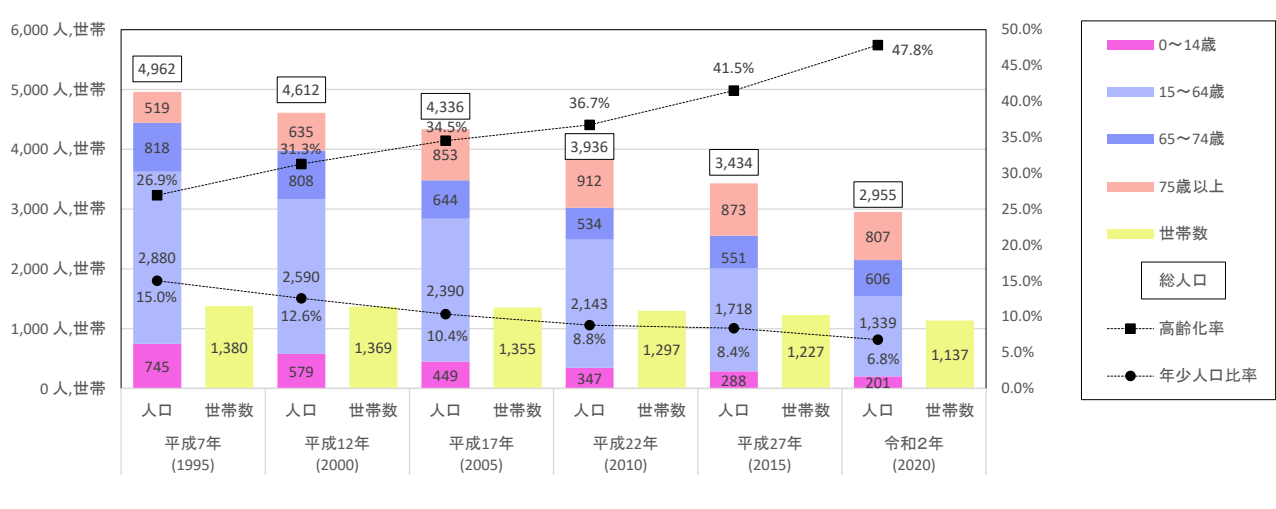
山方地域

地域の概況	総人口	5,633 人
<p>山方地域の人口は、平成7年から令和2年の25年間で2,900人（34%）程度減少しており、令和2年には5,633人となっている。</p> <p>令和2年の年少人口比率は6.7%と、5つの地域の中で最も低くなっている。</p>	高齢化率	44.6%
	生産年齢人口比率	48.6%
	年少人口比率	6.7%
	女性比率	50.4%
	一世帯当たり人員	2.5 人



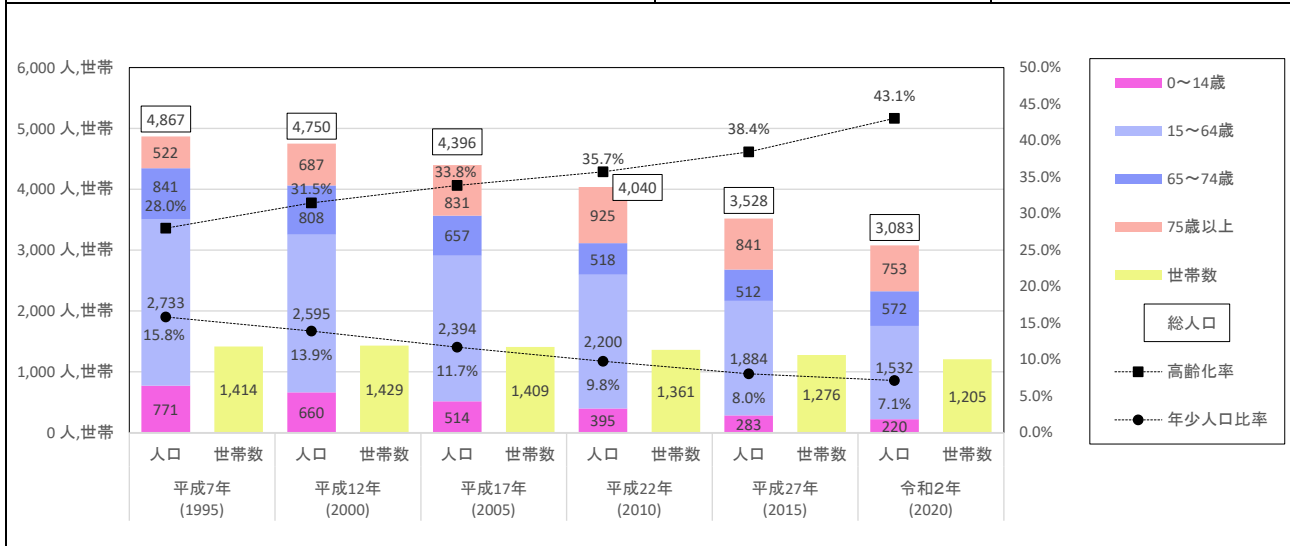
美和地域

地域の概況	総人口	2,955 人
<p>美和地域の人口は、平成7年から令和2年の25年間で2,000人（40%）程度減少しており、減少率は5つの地域で最も高くなっている。</p> <p>高齢化率も最も高く、令和2年には47.8%と、市全体の水準を大きく上回っている。</p>	高齢化率	47.8%
	生産年齢人口比率	45.3%
	年少人口比率	6.8%
	女性比率	48.6%
	一世帯当たり人員	2.6 人



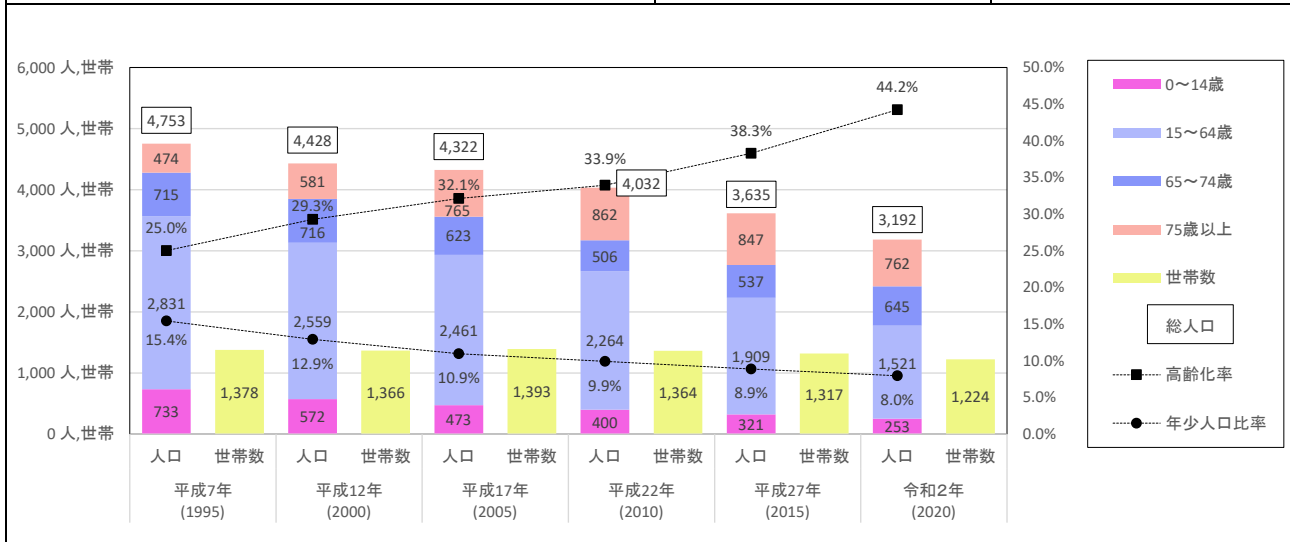
緒川地域

地域の概況	総人口	3,083 人
<p>緒川地域の人口は、平成7年から令和2年の25年間で1,800人(37%)程度減少しており、減少率は5つの地域で美和地域に次いで2番目に高くなっている。</p> <p>令和2年の一世帯当たりの人員については、市全体の水準を上回っている。</p>	高齢化率	43.1%
	生産年齢人口比率	49.8%
	年少人口比率	7.1%
	女性比率	50.1%
	一世帯当たり人員	2.6 人



御前山地域

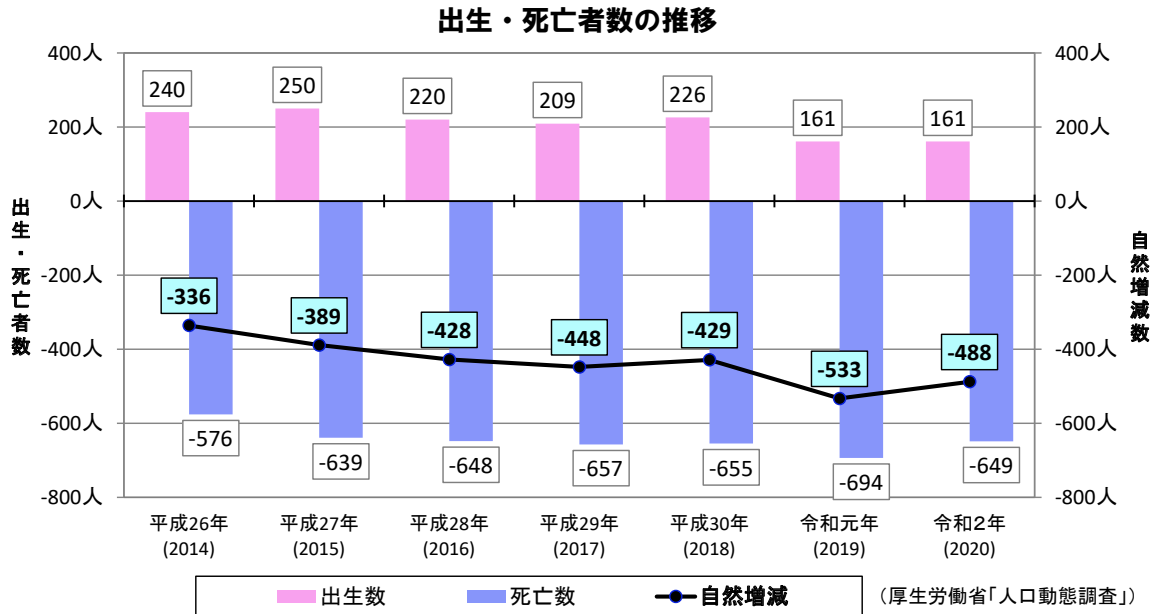
地域の概況	総人口	3,192 人
<p>御前山地域の人口は、平成7年から令和2年の25年間で1,600人(33%)程度減少している。</p> <p>年少人口比率については、市全体の水準は下回るものの、大宮地域に次いで高く、令和2年は8.0%となっている。</p>	高齢化率	44.2%
	生産年齢人口比率	47.8%
	年少人口比率	8.0%
	女性比率	51.0%
	一世帯当たり人員	2.6 人



(4) 自然動態・社会動態の状況

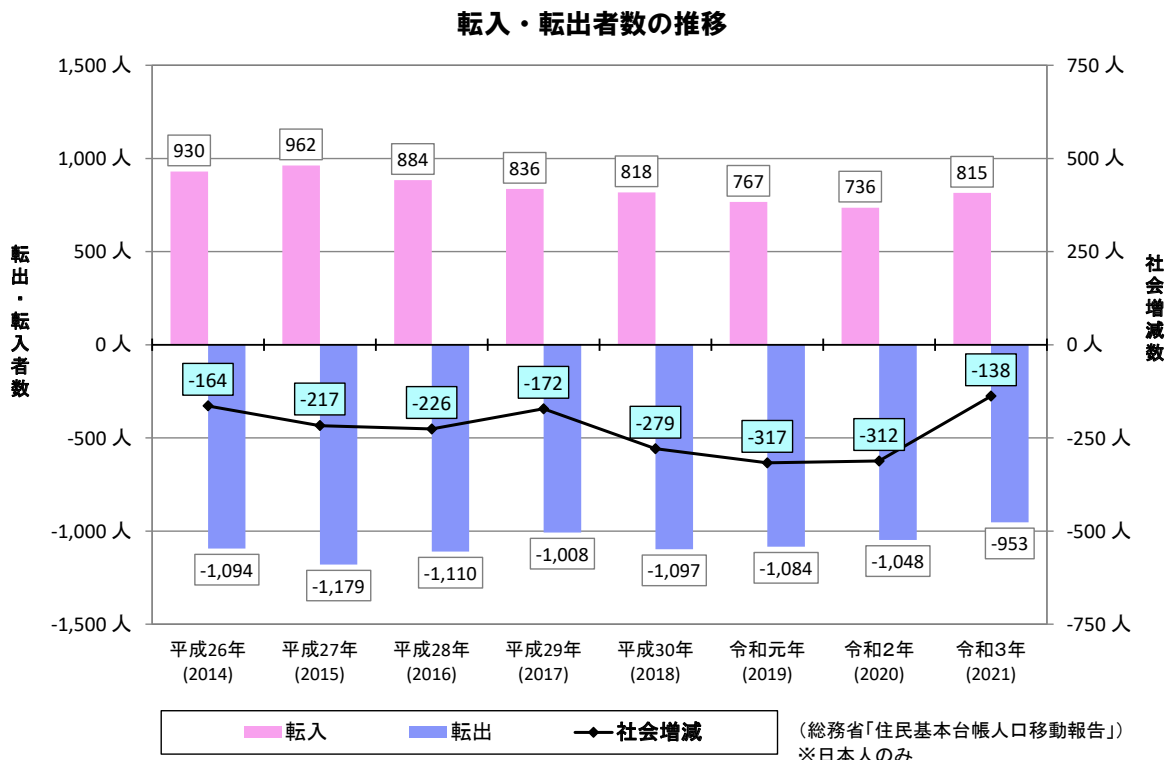
① 自然動態

○平成26年～令和2年の7年間の出生・死亡者数をみると、出生数は令和元年・令和2年に大きく減少している一方で、死亡者数は増加傾向となっており、令和元年・令和2年の自然増減はマイナス500人前後で推移しています。



② 社会動態

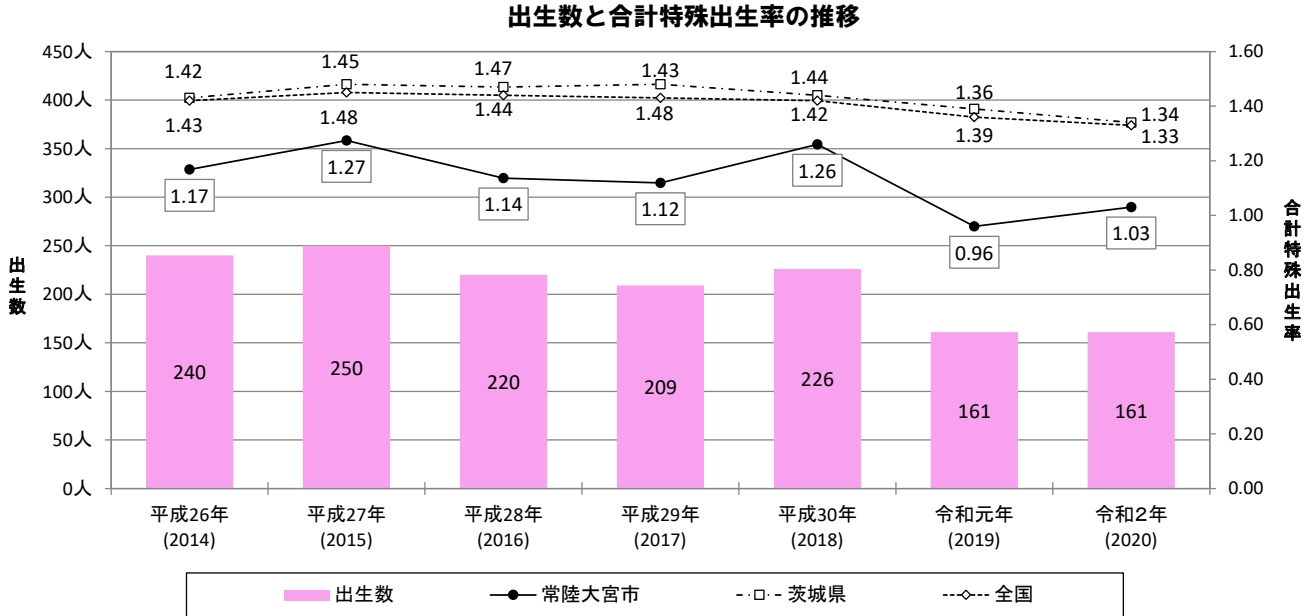
○平成26年～令和3年の8年間の転入・転出者数をみると、増減はあるものの転入者は700～1,000人程度、転出者は900～1,200人程度で推移しています。社会増減は令和元年以降減少し、令和2年にはマイナス138人と過去8年間で最も少なくなっています。



(5) 出生・死亡の状況

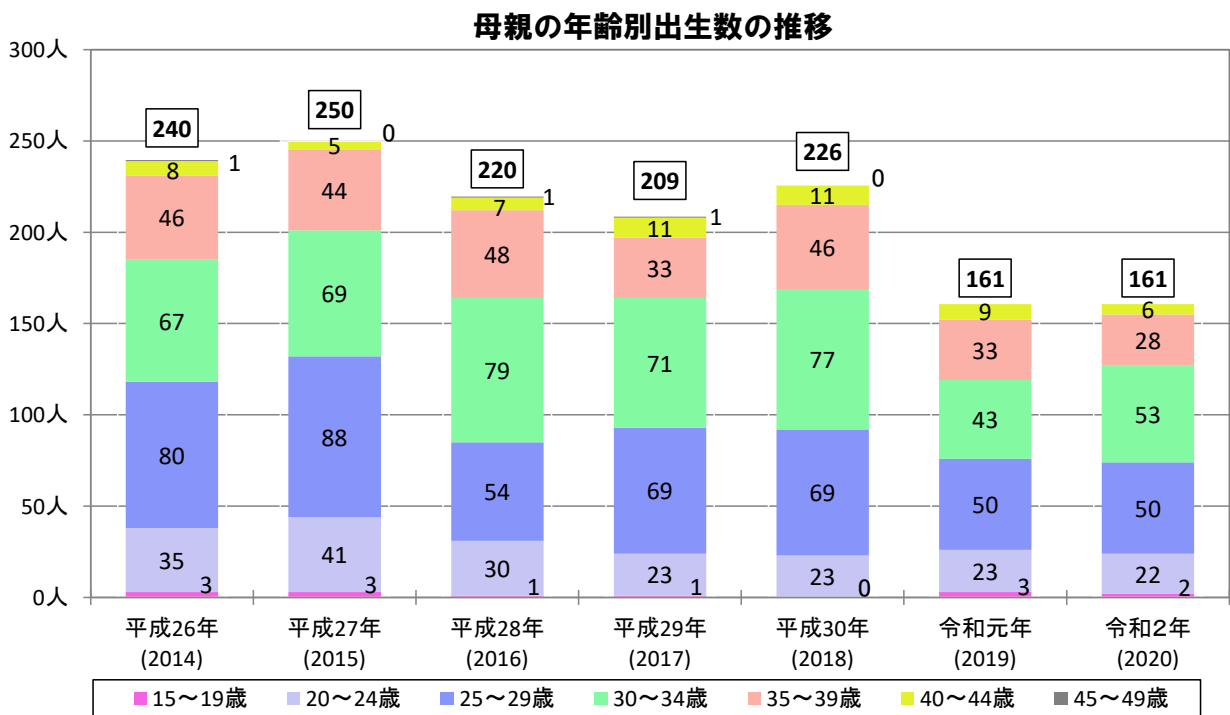
①出生の状況

○一人の女性が生涯に産むことが見込まれる子どもの数となる合計特殊出生率について、平成26年～令和2年の7年間の推移をみると、全国、茨城県が令和元年以降、1.40を下回っている中で、常陸大宮市については令和元年に0.96と、1.00を下回っています。



※出生数(厚生労働省「人口動態調査」)
 ※合計特殊出生率(全国、茨城県は厚生労働省「人口動態調査」、常陸大宮市は厚生労働省「人口動態調査」に基づく出生数、総務省「住民基本台帳人口」の女性人口により算出)

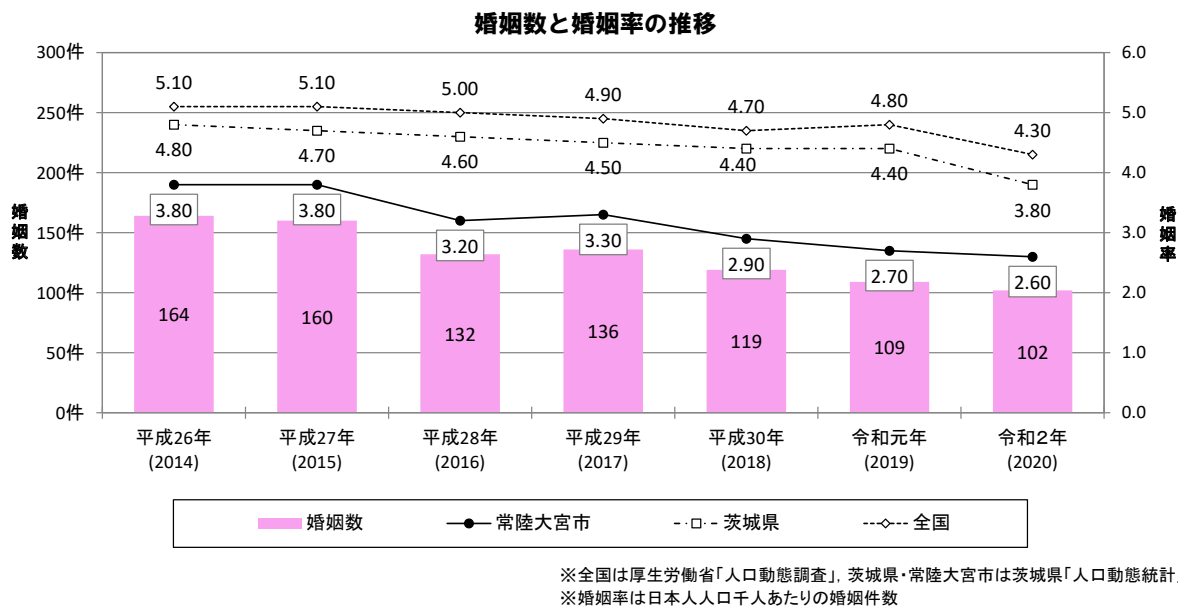
○母親の年齢別出生数の推移をみると、平成30年までと比べ令和元年以降は“25～39歳”の出生数が大きく減少しています。



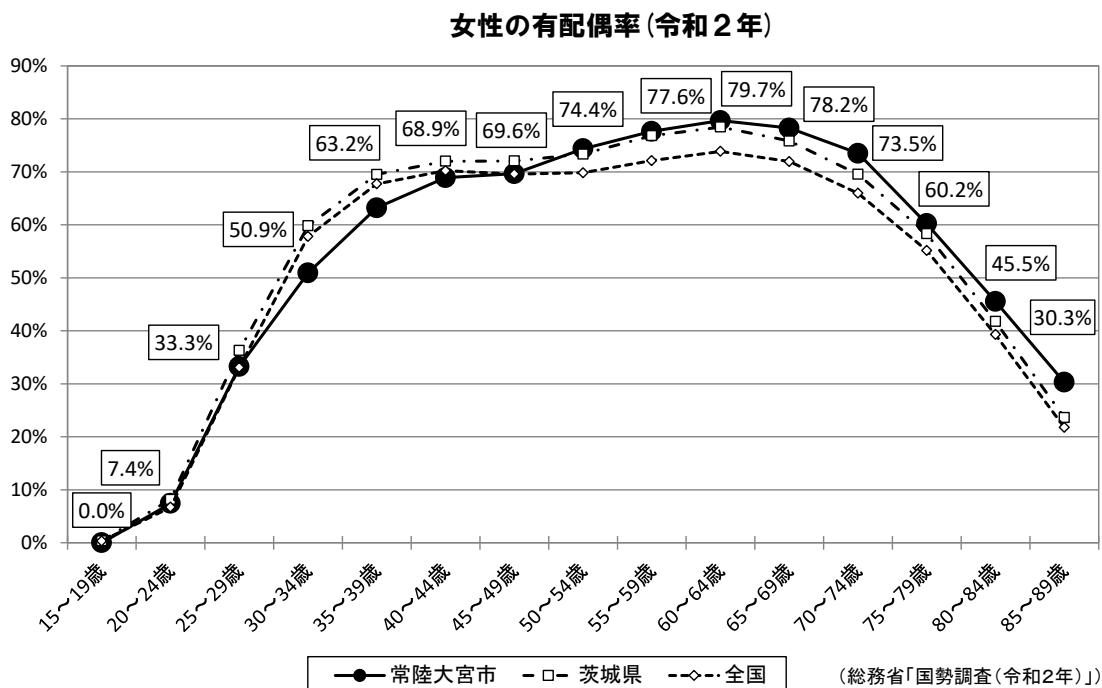
(厚生労働省「人口動態調査」)

②結婚の状況

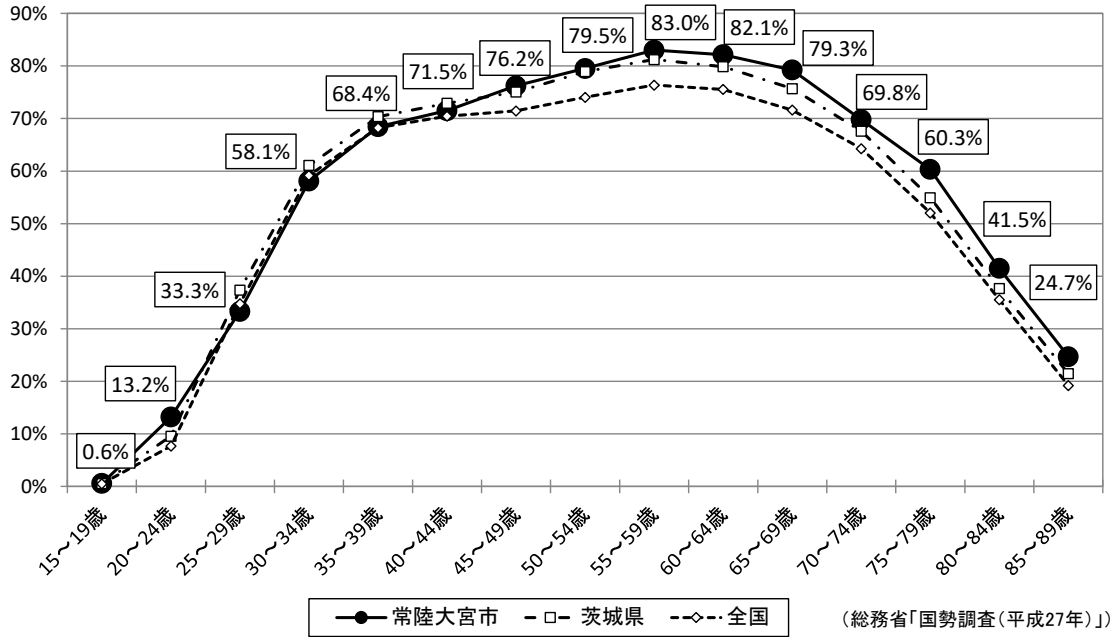
○人口千人に対する婚姻数の割合を示す婚姻率について、平成26年～令和2年の7年間の推移をみると、常陸大宮市は減少傾向で全国、県に比べ低い水準で推移しており、令和2年は2.60となっています。



○15～49歳の女性の有配偶率が高いことが出生数に影響すると考えられる中で、令和2年は常陸大宮市では“30～44歳”の有配偶率が全国、県に比べて低くなっています。



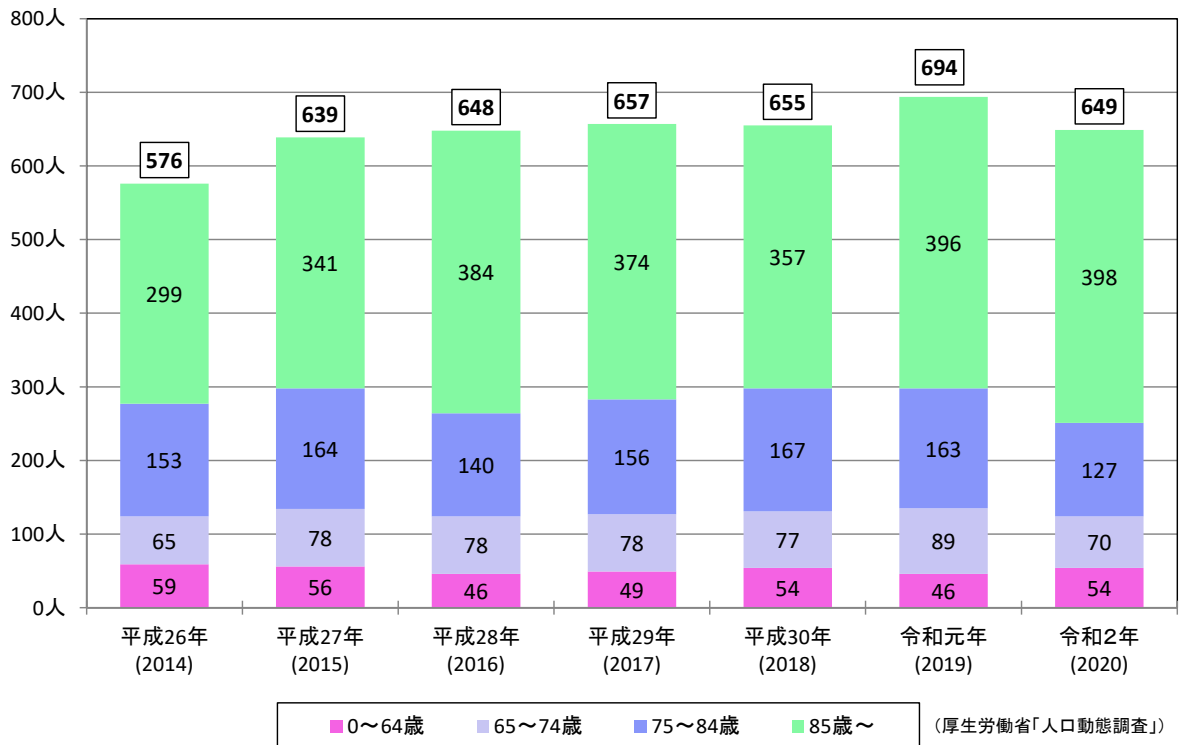
【参考】女性の有配偶率（平成27年）



③死亡の状況

○平成26年～令和2年の7年間の年齢別死亡者数をみると、いずれの年も85歳以上が占める割合が高い状況です。

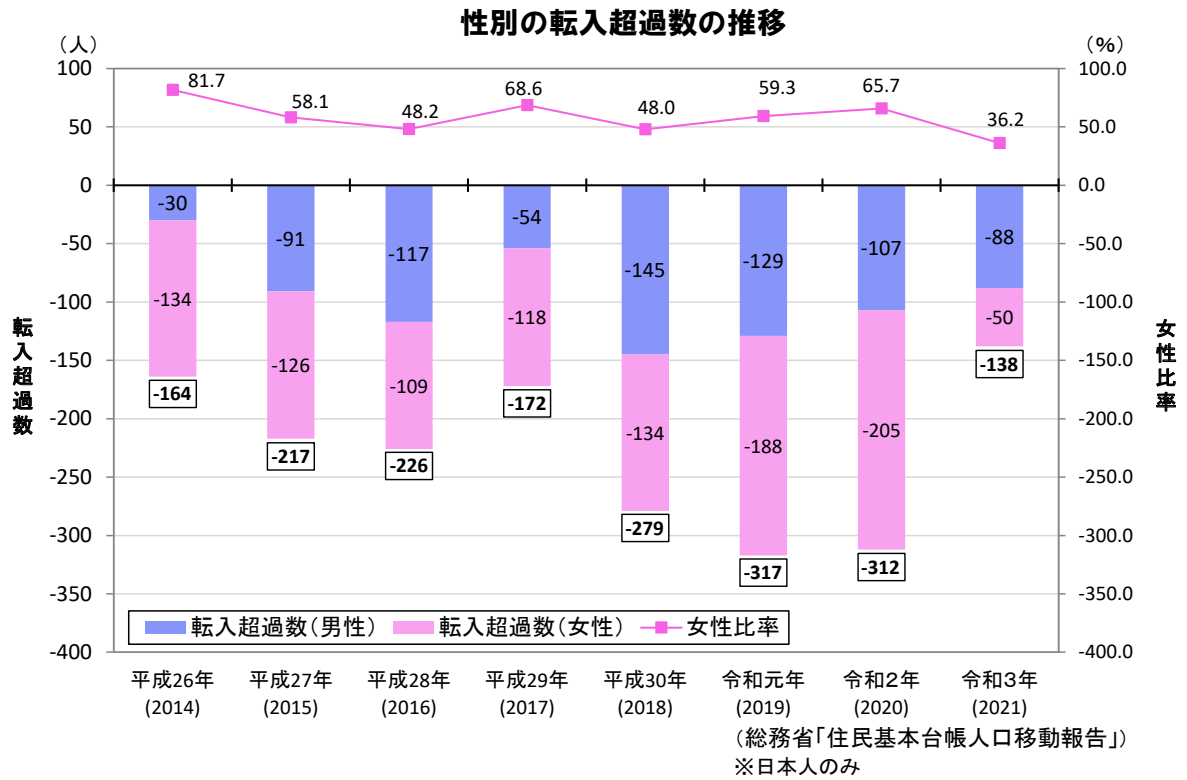
年齢別死亡者数の推移



(6) 移動の状況

①性別の移動の状況

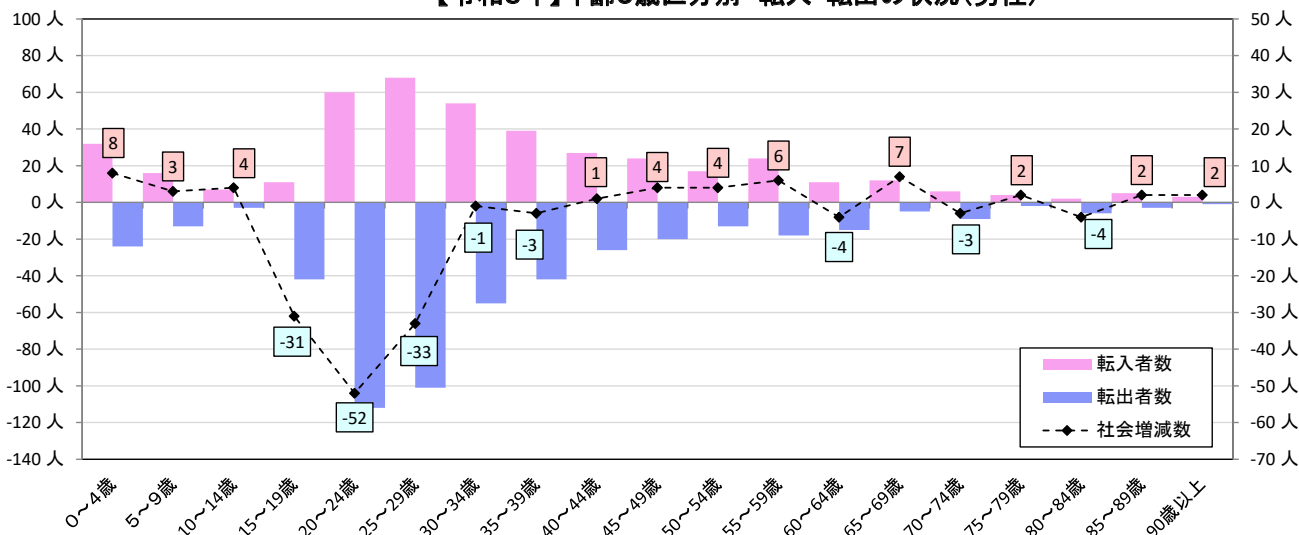
○過去8年間の性別の転入超過数の推移について性別で見ると、男女ともに転出超過である中で、令和3年は令和2年と比べ男女ともに転出超過数が大きく縮小しています。とりわけ、女性は令和2年のマイナス205人から令和3年にはマイナス50人となっています。



○令和3年の男性の転入・転出の状況について年齢5歳区分別にみると、進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因と考えられる20～39歳の移動が特に多くなっており、そのいずれの年代でも転出超過となっています。

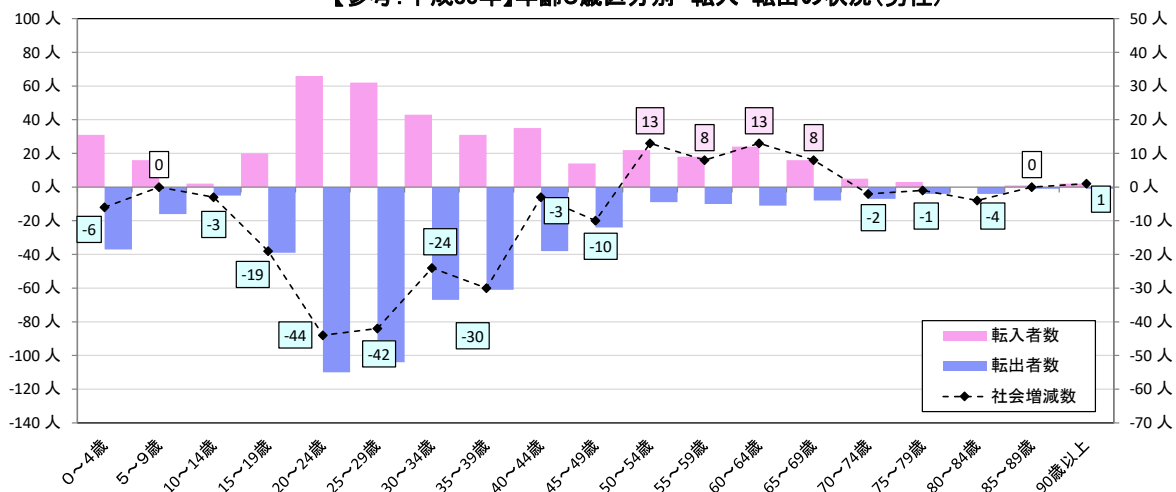
○なお、平成30年と比べると、0～14歳や40～49歳、75～79歳、85～89歳が転入超過に転換しています。

【令和3年】年齢5歳区分別 転入・転出の状況(男性)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(令和3年)」)
※日本人のみ

【参考:平成30年】年齢5歳区分別 転入・転出の状況(男性)

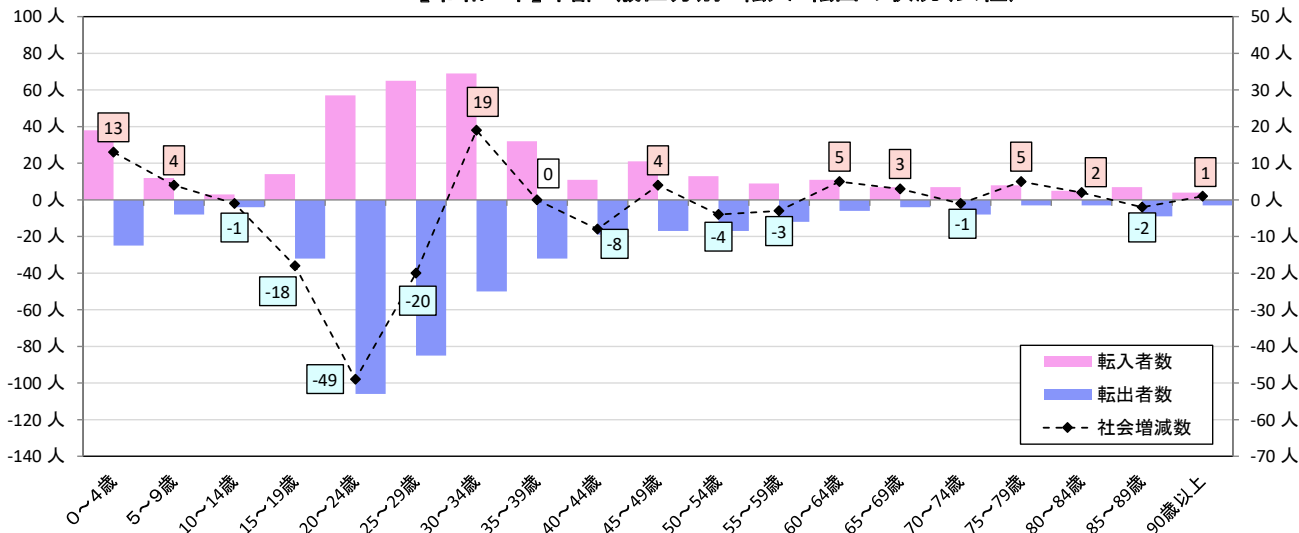


(総務省「住民基本台帳人口移動報告(平成30年)」)
※日本人のみ

○令和3年の女性の転入・転出の状況について年齢5歳区分別にみると、男性と同様に進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因と考えられる20～39歳の移動が多くなっていますが、そのうち30～34歳は転入超過となっています。

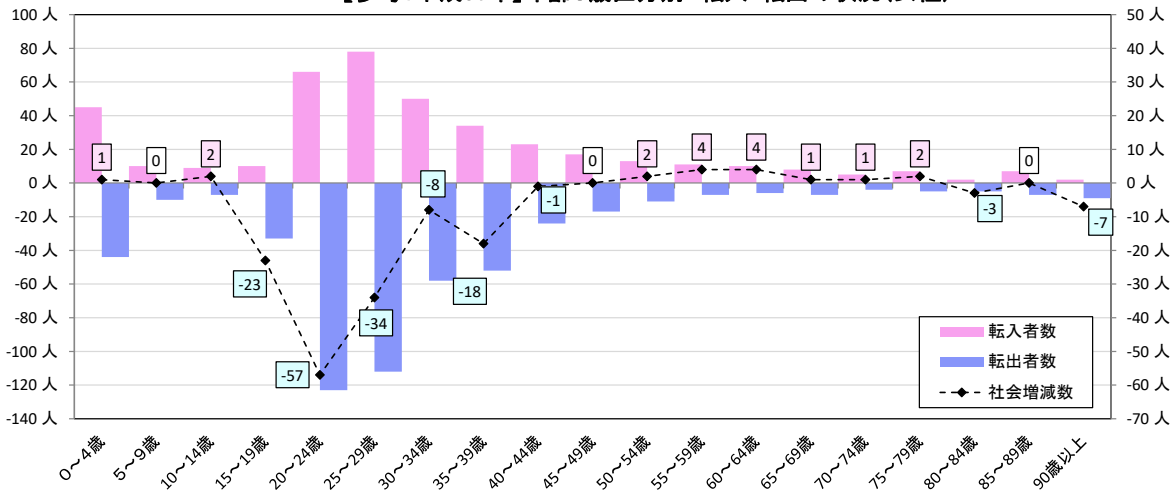
○なお、平成30年と比べると、5～9歳や30～34歳、45～49歳、80～84歳、90歳以上が転入超過に転換しています。

【令和3年】年齢5歳区分別 転入・転出の状況(女性)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(令和3年)」)
※日本人のみ

【参考:平成30年】年齢5歳区分別 転入・転出の状況(女性)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(平成30年)」)
※日本人のみ

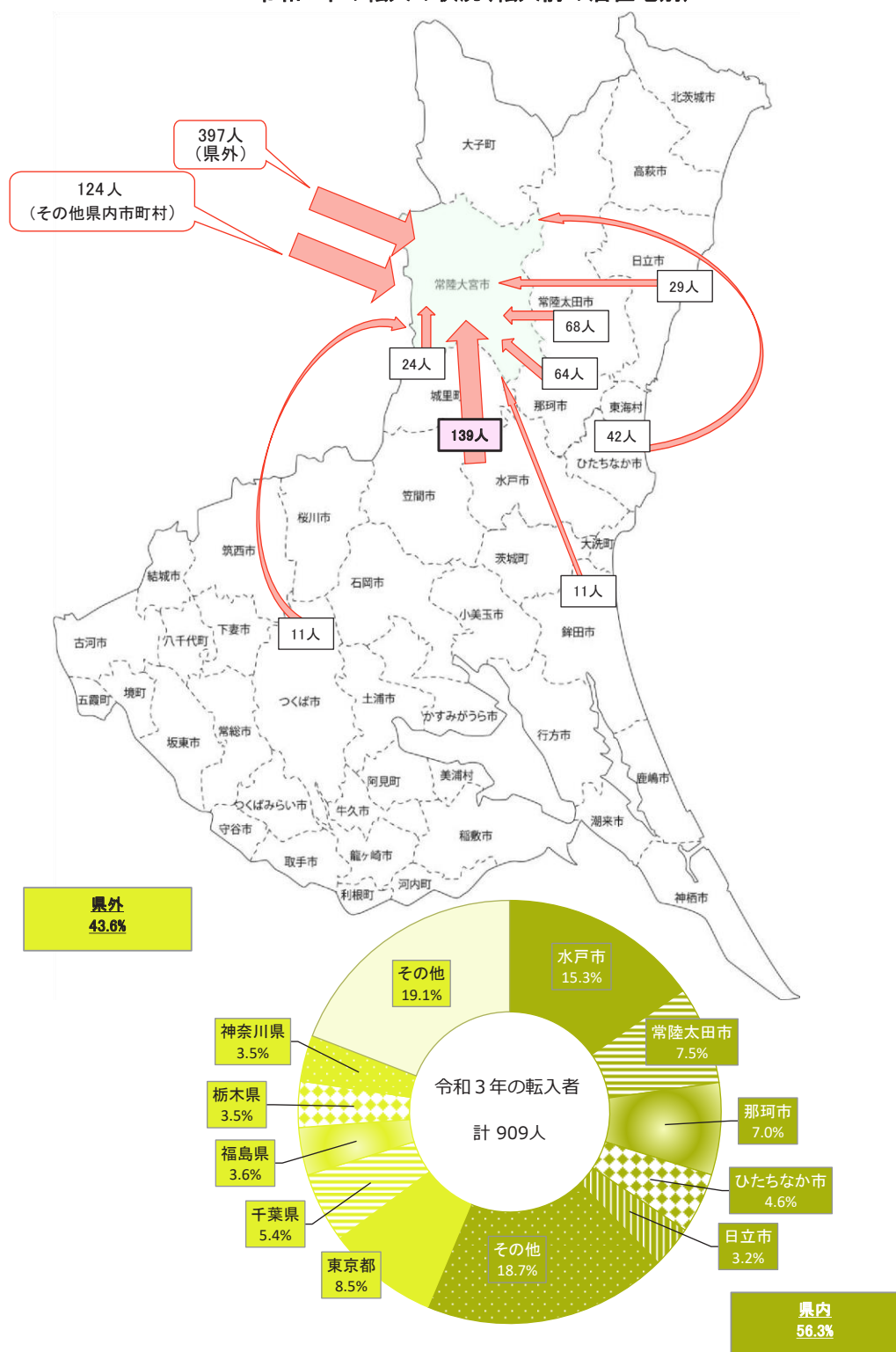
②地域間移動の状況

(1) 転入

○令和3年の常陸大宮市への転入の状況を居住地別にみると、県内では水戸市が139人と最も多く、全体の15.3%を占めています。次いで県内では、常陸太田市、那珂市、ひたちなか市、日立市の順に多くなっています。

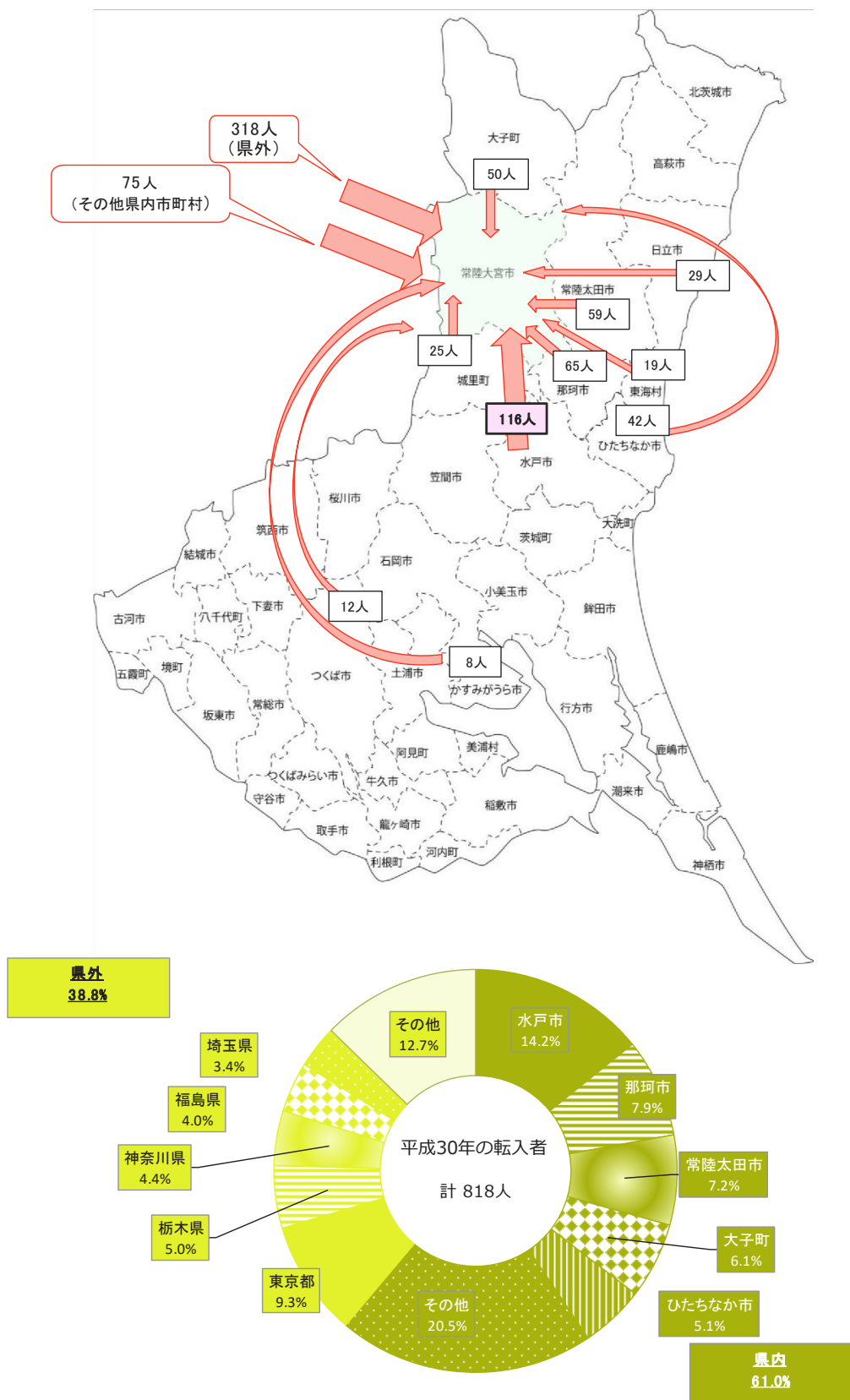
○転入元は約6割が県内、約4割が県外となり、県外では東京都が8.5%と最も割合が高くなっています。

令和3年の転入の状況(転入前の居住地別)



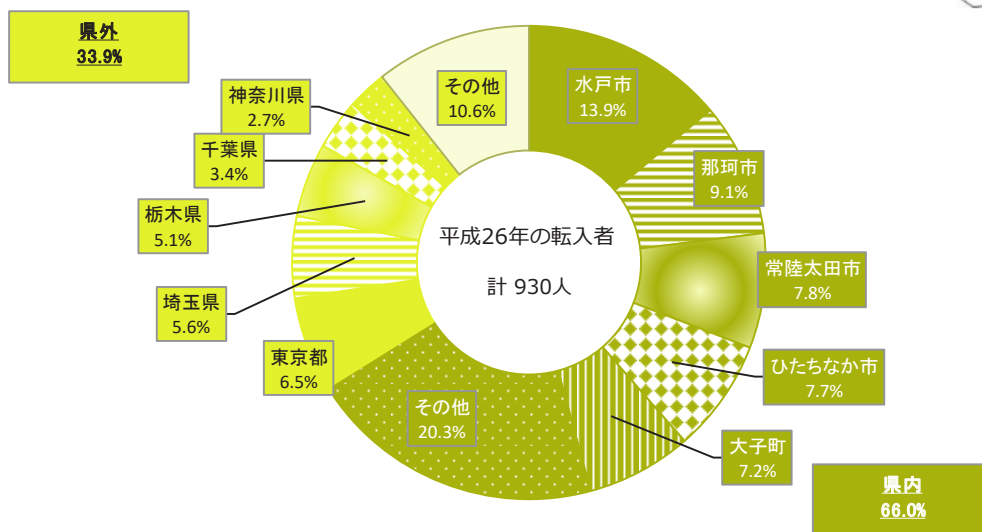
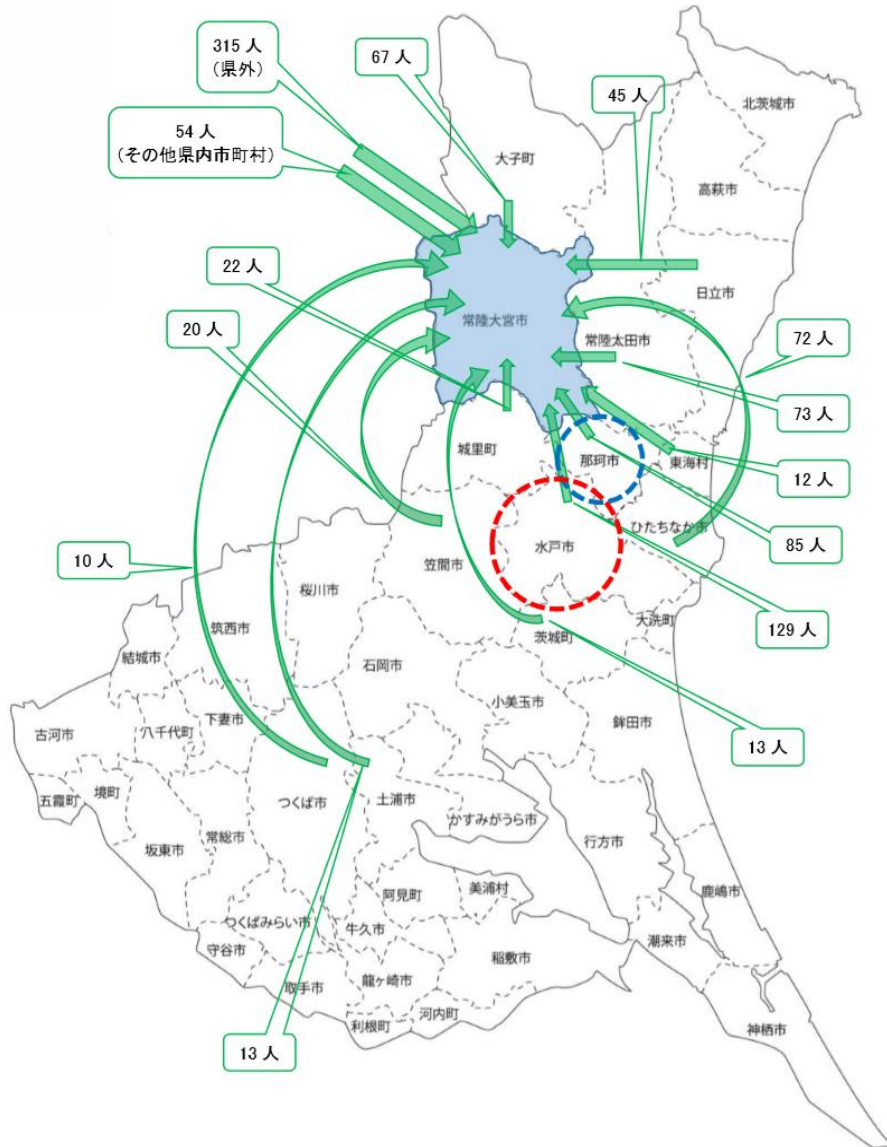
(総務省「住民基本台帳人口移動報告(令和3年)」)
※外国人含む

【参考】平成30年の転入の状況(転入前の居住地別)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(平成30年)」)
※日本人のみ

【参考】平成 26 年の転入の状況（「常陸大宮市人口ビジョン」より）

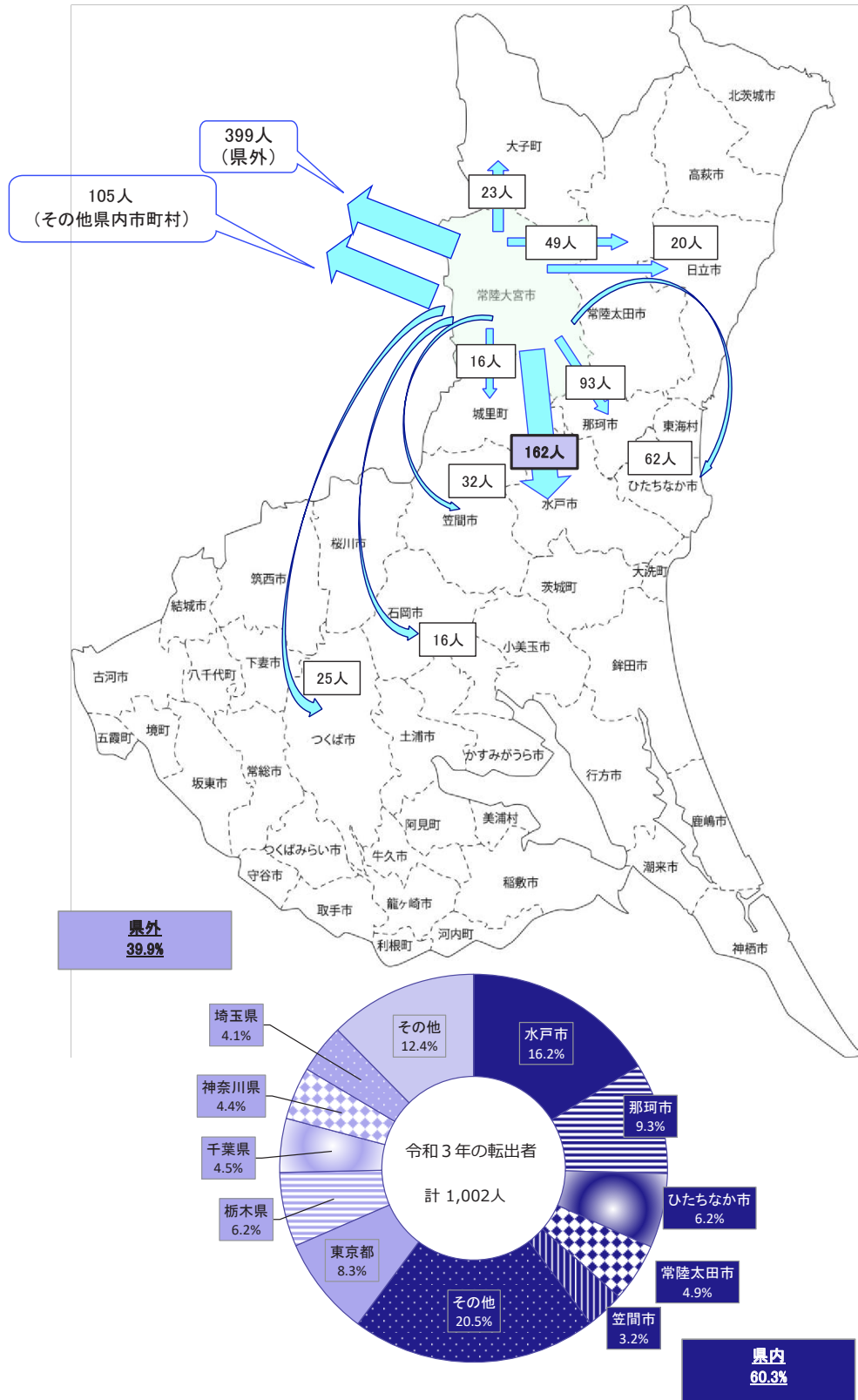


(総務省「住民基本台帳人口移動報告 (平成 26 年)」)
※日本人のみ

(2) 転出

- 令和3年の常陸大宮市からの転出の状況を居住地別にみると、県内では水戸市が162人と最も多く、全体の16.2%を占めています。次いで県内では、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、笠間市の順に多くなっています。
- 転出先は約6割が県内、約4割が県外となり、県外では東京都が8.3%と最も割合が高くなっています。

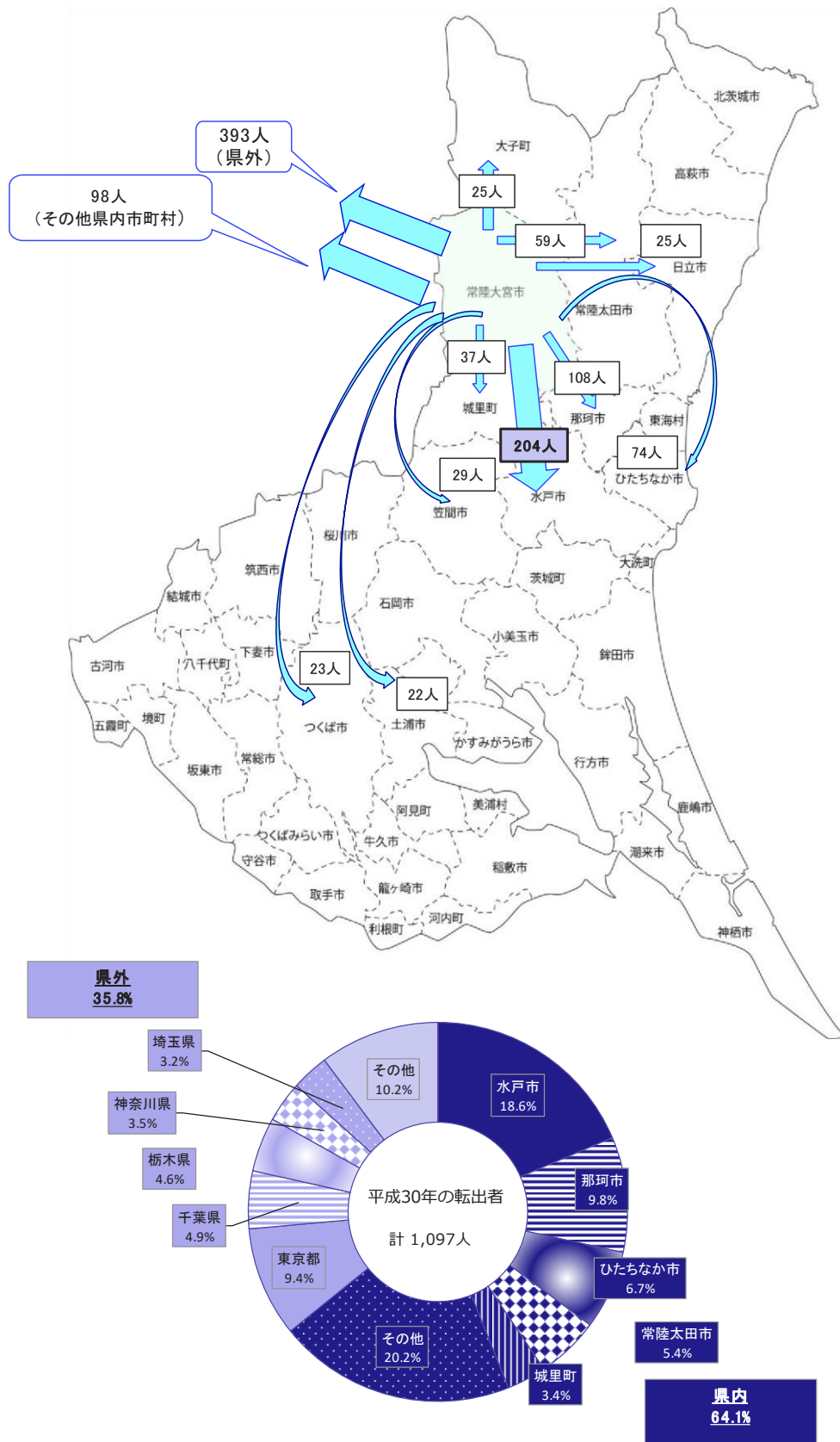
令和3年の転出の状況(転出後の居住地別)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(令和3年)」)

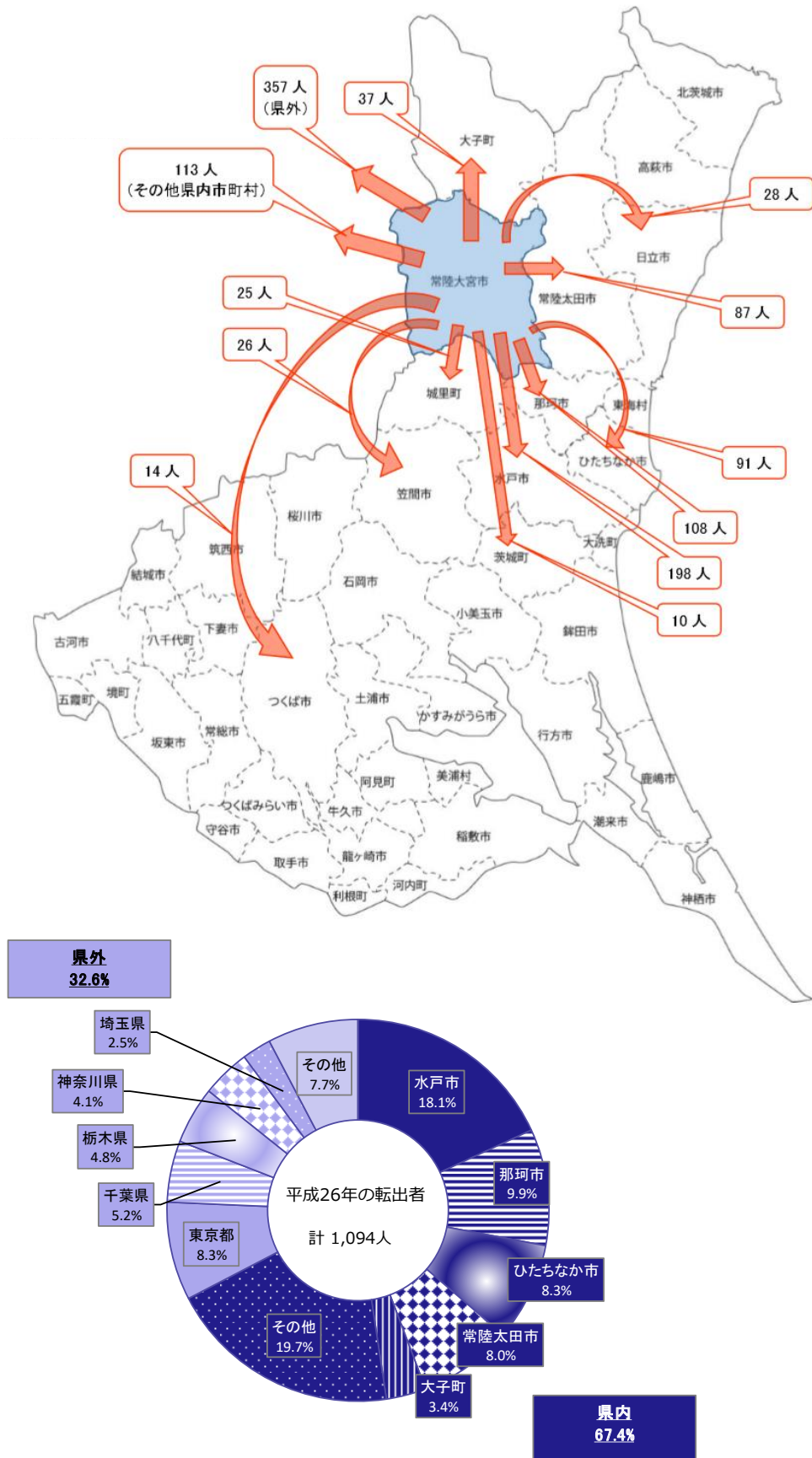
※外国人含む

【参考】平成30年の転出の状況(転出後の居住地別)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(平成30年)」)
※日本人のみ

【参考】平成 26 年の転出の状況(「常陸大宮市人口ビジョン」より)

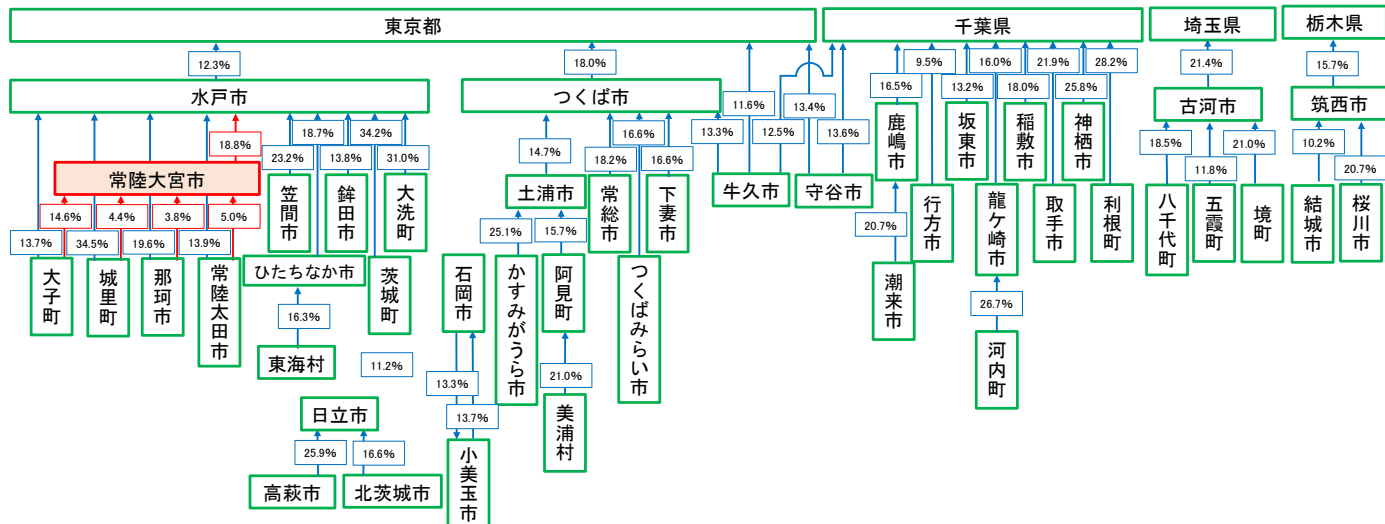


(総務省「住民基本台帳人口移動報告(平成26年)」)
※日本人のみ

【参考】県内自治体の転出者の主要転出先

○県内自治体の転出者の主要転出先についてみると、大きくは常陸大宮市をはじめとして水戸市を主要転出先とする自治体と、つくば市、東京圏（東京都・千葉県・埼玉県）を主要転出先とする自治体に分類されます。

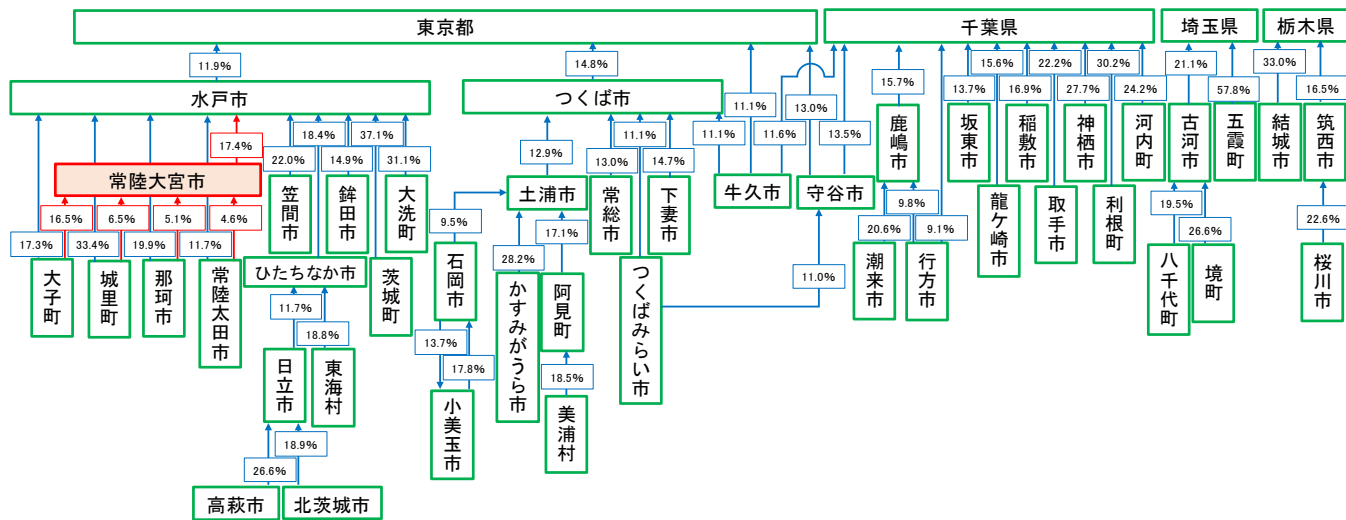
【令和2年国勢調査】県内自治体の転出者の主要転出先と転出者に占める割合(全体)



(総務省「国勢調査(令和2年)」)

※主要転出先は常陸大宮市への転出を除き、転出者数の1割以上を占める自治体の中から抽出

【参考:平成27年国勢調査】県内自治体の転出者の主要転出先と転出者に占める割合(全体)

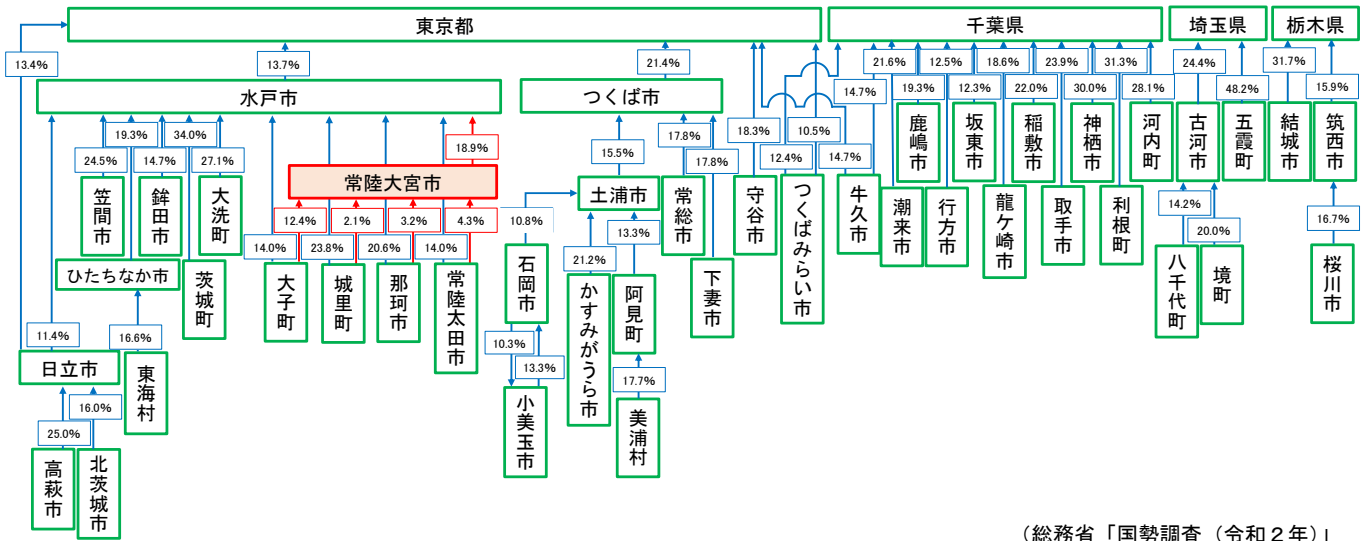


(総務省「国勢調査(平成27年)」)

※主要転出先は常陸大宮市への転出を除き、転出者数の1割以上を占める自治体の中から抽出

○15～49歳の女性の転出者の主要転出先についても、概ね同様の状況となっています。

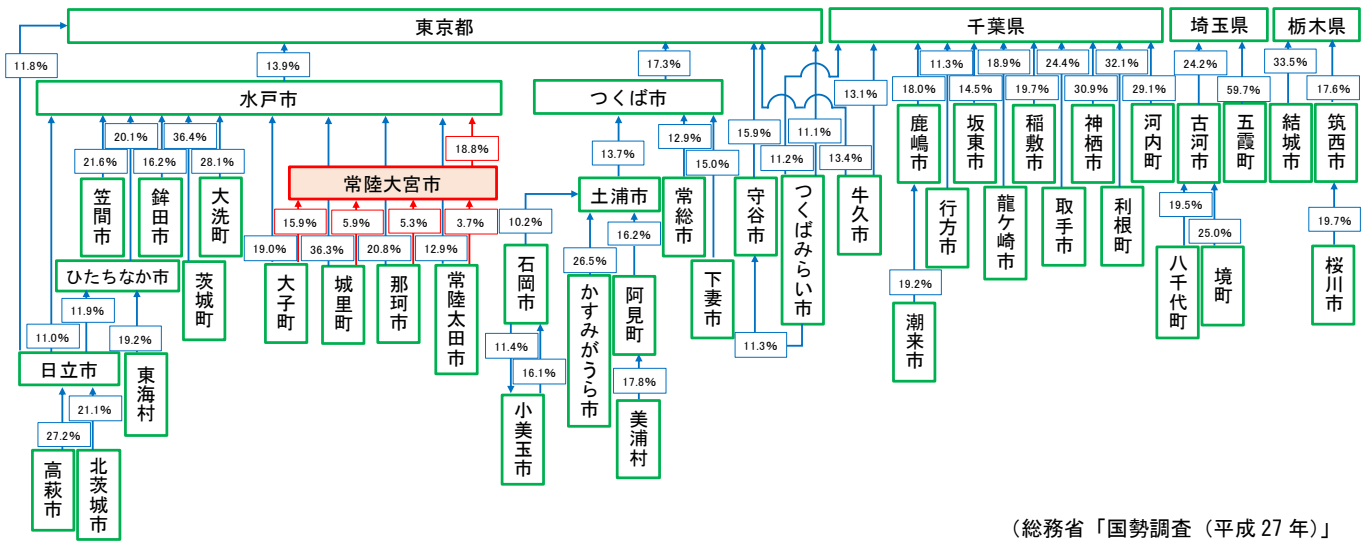
【令和2年国勢調査】県内自治体の転出者の主要転出先と転出者に占める割合（15～49歳の女性）



(総務省「国勢調査（令和2年）」

※主要転出先は常陸大宮市への転出を除き、転出者数の1割以上を占める自治体の中から抽出

【参考：平成27年国勢調査】県内自治体の転出者の主要転出先と転出者に占める割合（15～49歳の女性）



(総務省「国勢調査（平成27年）」

※主要転出先は常陸大宮市への転出を除き、転出者数の1割以上を占める自治体の中から抽出

(7) その他の分析

①通勤・通学の状況

- 令和2年の市内常住の就業者・通学者 19,689 人の従業・通学地についてみると、市内が 11,465 人 (58.2%)、他市町村が 8,224 人 (41.8%) となっています。
- 市内常住の就業者・通学者の他市町村への通勤・通学先は、水戸市が最も多く 2,327 人 (28.3%)、次いで那珂市 1,057 人 (12.9%)、常陸太田市 1,052 人 (12.8%) となっています。
- 他市町村常住の就業者・通学者で、常陸大宮市に通勤・通学している 6,318 人についてみると、常陸太田市から通勤・通学している人が 1,328 人 (21.0%)、次いで那珂市 1,310 人 (20.7%)、水戸市 864 人 (13.7%) となっています。

【令和2年】市内常住の就業者・通学者の従業・通学地(及び他市町村からの通勤・通学状況)

区分	市内		他市町村		計
	自宅で従業・通学	自宅外で従業・通学	県内の他市町村で従業・通学	県外の他市町村で従業・通学	
男	1,657	4,270	4,365	690	10,982
女	1,121	4,417	2,853	316	8,707
小計	2,778	8,687	7,218	1,006	
計	11,465 58.2%		8,224 41.8%		19,689

区分	常陸大宮市から他市町村へ				他市町村から常陸大宮市へ				
	総数	構成比	就業者	通学者	総数	構成比	就業者	通学者	
総数	8,224	100.0%	7,130	1,094	6,318	100.0%	6,105	213	
県内	水戸市	2,327	28.3%	1,799	528	864	13.7%	847	17
	那珂市	1,057	12.9%	938	119	1,310	20.7%	1,261	49
	常陸太田市	1,052	12.8%	863	189	1,328	21.0%	1,289	39
	ひたちなか市	875	10.6%	845	30	387	6.1%	372	15
	日立市	492	6.0%	435	57	167	2.6%	157	10
	城里町	419	5.1%	416	3	677	10.7%	664	13
	大子町	373	4.5%	369	4	679	10.7%	671	8
	東海村	215	2.6%	215	-	113	1.8%	111	2
	笠間市	124	1.5%	122	2	109	1.7%	107	2
	茨城町	67	0.8%	66	1	32	0.5%	30	2
	その他	217	2.6%	196	21	381	6.0%	340	41
	計	7,218	87.8%	6,264	954	6,047	95.7%	5,849	198
	県外	栃木県	505	6.1%	490	15	165	2.6%	150
その他		230	2.8%	144	86	106	1.7%	106	0
計		735	8.9%	634	101	271	4.3%	256	15
不詳	271	3.3%	232	39	0	0.0%	0	0	

(総務省「国勢調査(令和2年)」)

【参考：平成 27 年】市内常住の就業者・通学者の従業・通学地（及び他市町村からの通勤・通学状況）

区分	市内		他市町村		計
	自宅で従業・通学	自宅外で従業・通学	県内の他市町村で 従業・通学	県外の他市町村で 従業・通学	
男	2,066	4,935	4,881	635	12,517
女	1,327	4,816	3,058	277	9,478
小計	3,393	9,751	7,939	912	
計	13,144 59.8%		8,851 40.2%		21,995

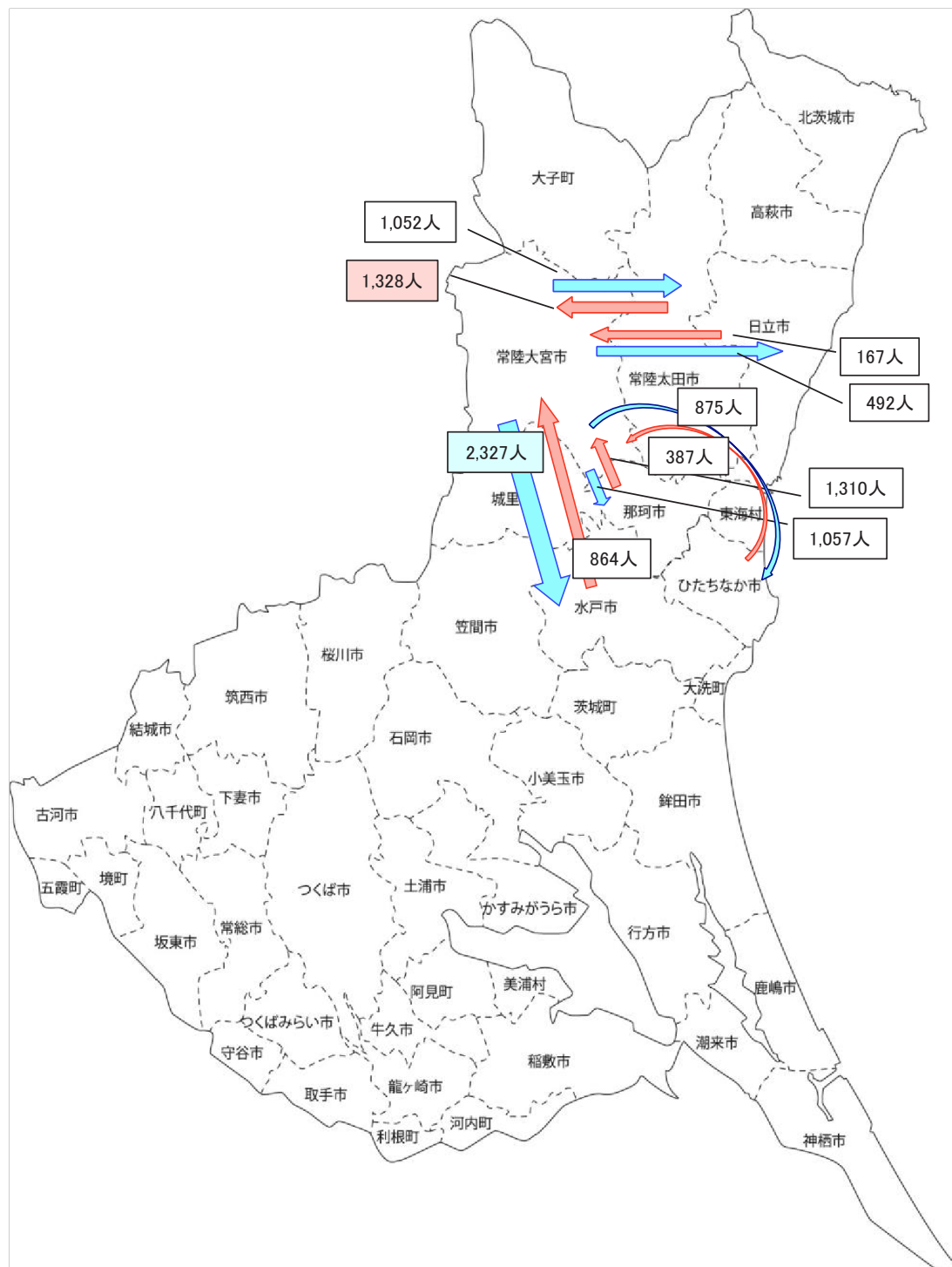
区分	常陸大宮市から他市町村へ				他市町村から常陸大宮市へ				
	総数	構成比	就業者	通学者	総数	構成比	就業者	通学者	
総数	8,851	100.0%	7,675	1,176	6,476	100.0%	6,252	224	
県内	水戸市	2,670	30.2%	2,090	580	894	13.8%	871	23
	那珂市	1,209	13.7%	1,060	149	1,294	20.0%	1,224	70
	常陸太田市	1,095	12.4%	892	203	1,398	21.6%	1,331	67
	ひたちなか市	951	10.7%	922	29	382	5.9%	372	10
	日立市	506	5.7%	449	57	177	2.7%	176	1
	城里町	437	4.9%	437	-	740	11.4%	717	23
	大子町	369	4.2%	361	8	873	13.5%	871	2
	東海村	227	2.6%	223	4	112	1.7%	106	6
	笠間市	134	1.5%	129	5	101	1.6%	98	3
	茨城町	67	0.8%	62	5	32	0.5%	32	-
	その他	274	3.1%	242	32	116	1.8%	114	2
計	7,939	89.7%	6,867	1,072	6,119	94.5%	5,912	207	
県外	栃木県	628	7.1%	589	39	191	2.9%	176	15
	その他	233	2.6%	170	63	166	2.6%	164	2
計	861	9.7%	759	102	357	5.5%	340	17	
不詳	51	0.6%	49	2	0	0.0%	0	0	

（総務省「国勢調査（平成 27 年）」）

○常陸大宮市の就業・通学者の状況について、就業・通学者が多い上位5市町をみると、次のようになります。

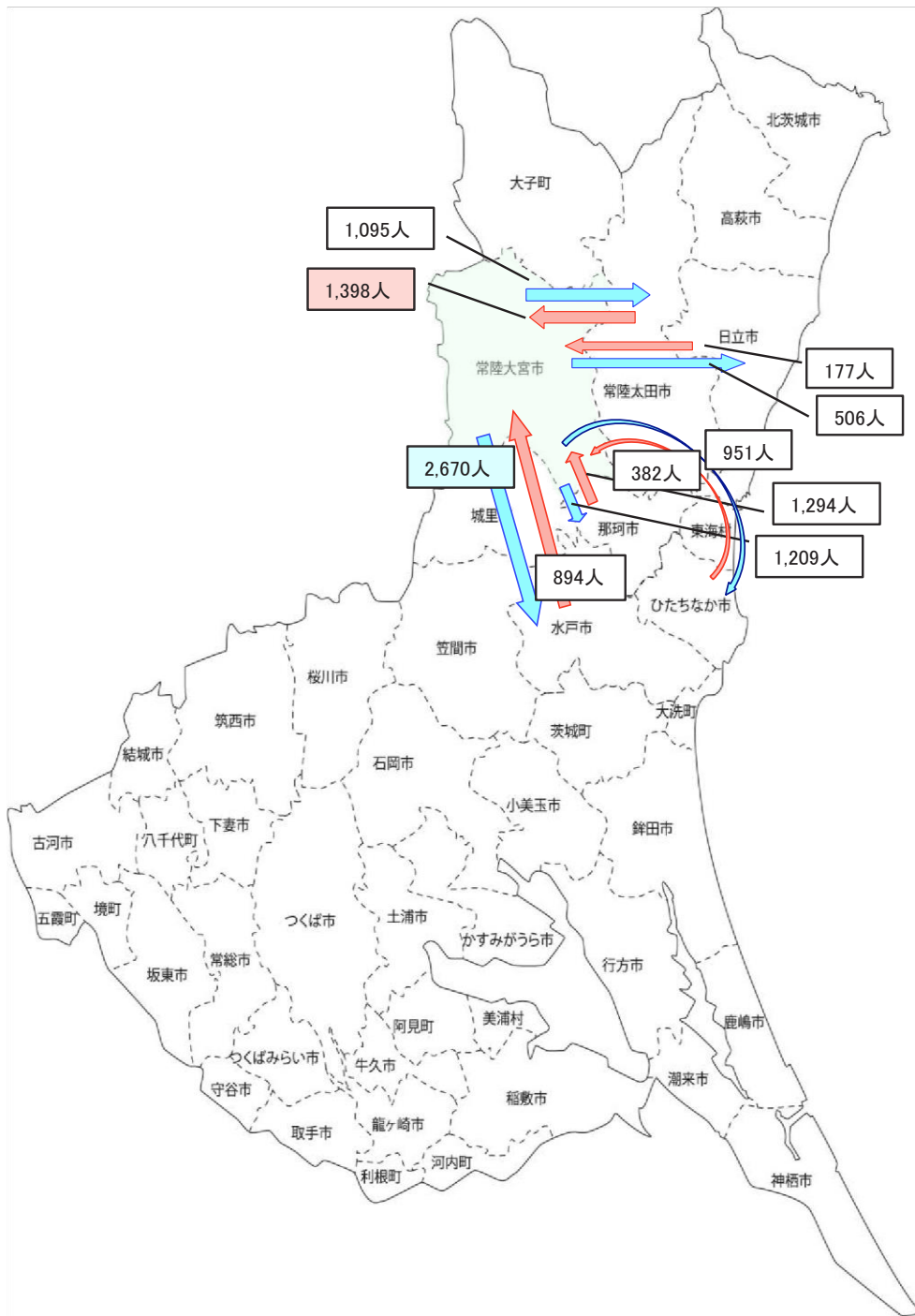
※流出人口、流入人口それぞれ最も多い市を色付けしている

【令和2年】常陸大宮市と近隣市町の就業・通学者の状況(就業・通学者が多い上位5市町)



(総務省「国勢調査(令和2年)」)

【参考：平成 27 年】常陸大宮市と近隣市町の就業・通学者の状況(就業・通学者が多い上位5市町)



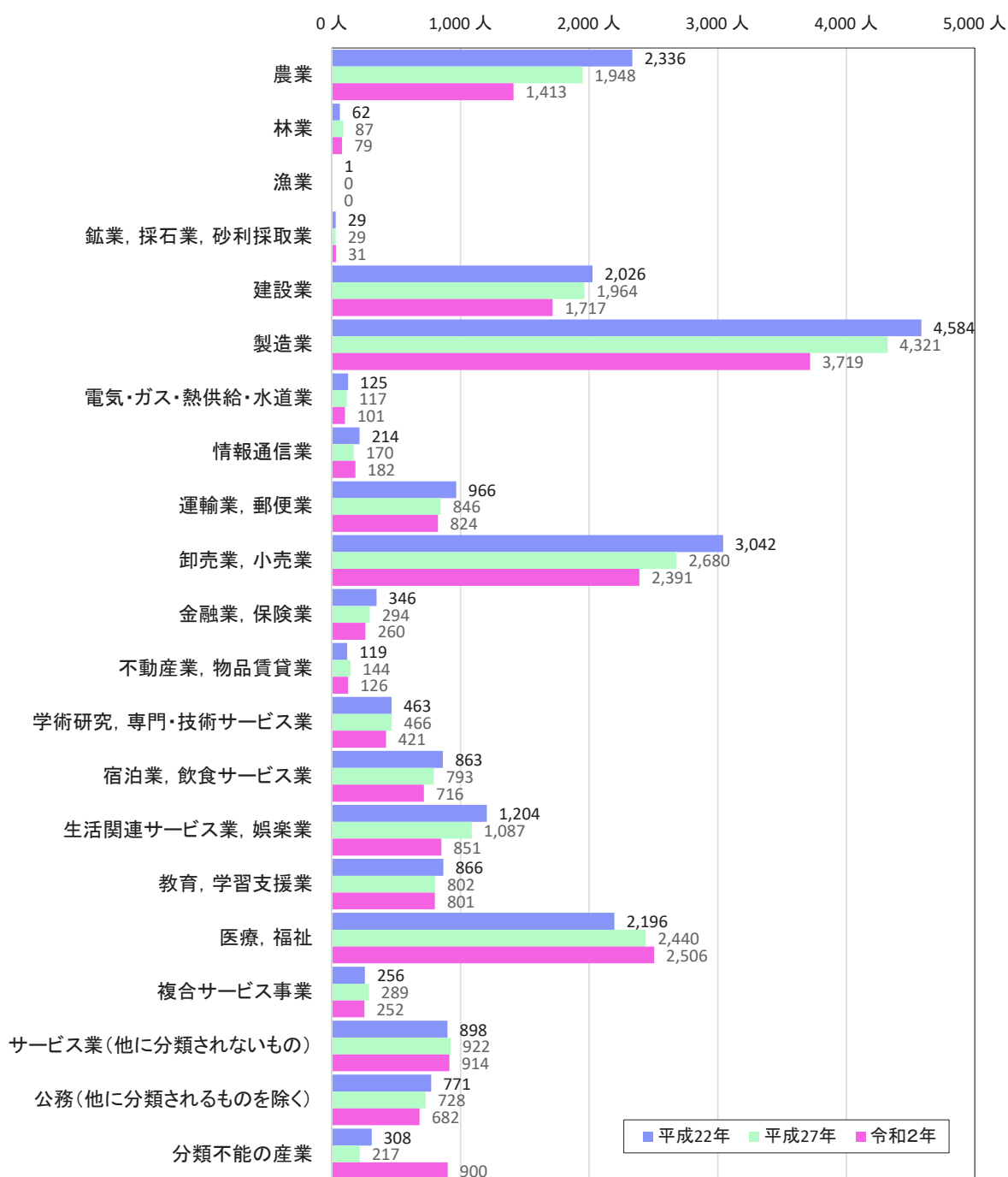
(総務省「国勢調査(平成27年)」)

②産業の状況

○令和2年の産業大分類別就業者人口についてみると、最も就業者人口の多い産業は“製造業”（3,719人）で、次いで“医療、福祉”（2,506人）、“卸売業、小売業”（2,391人）、となっています。

○平成22年からの推移をみると、就業者が減少した産業が多い中、“医療、福祉”は10年間で310人増加しています。

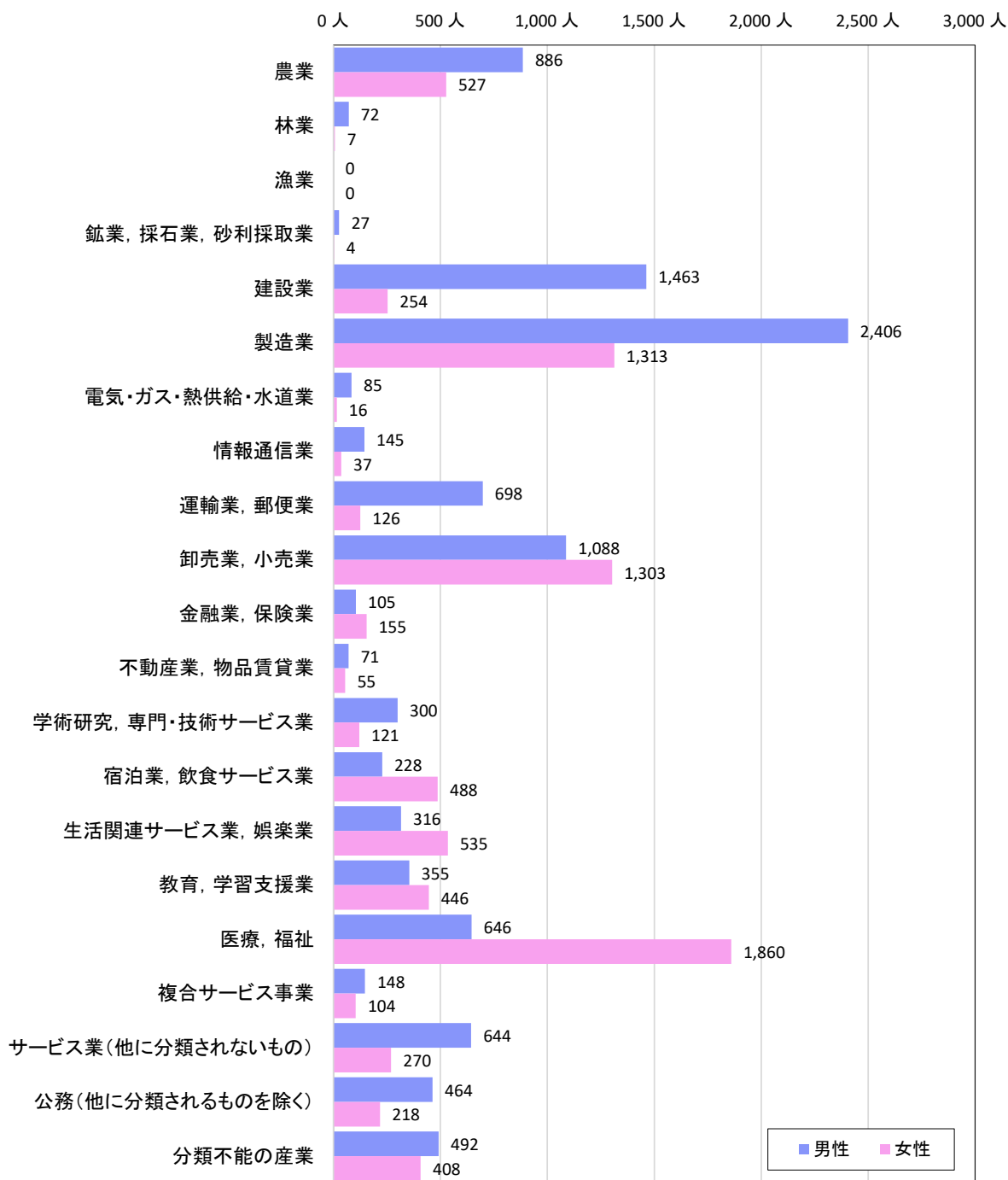
産業大分類別就業者人口の推移



(総務省「国勢調査」)

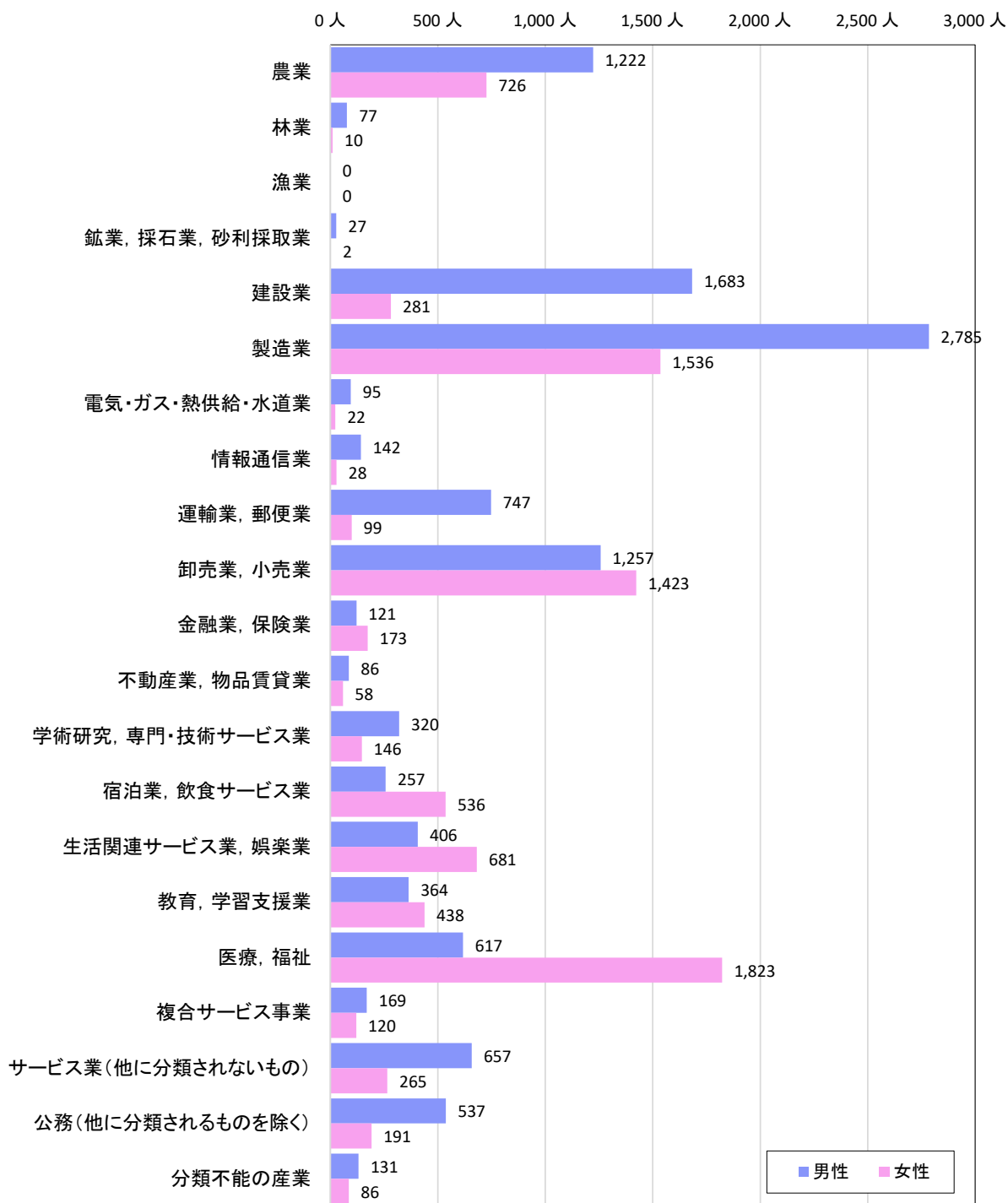
- 令和2年の就業者人口について性別にみると、男性では“製造業”が最も多く、次いで“建設業”“卸売業，小売業”の順となっています。
- 一方、女性では“医療，福祉”が最も多く、次いで“製造業”“卸売業，小売業”の順となっています。

【令和2年】男女別就業者人口



(総務省「国勢調査(令和2年)」)

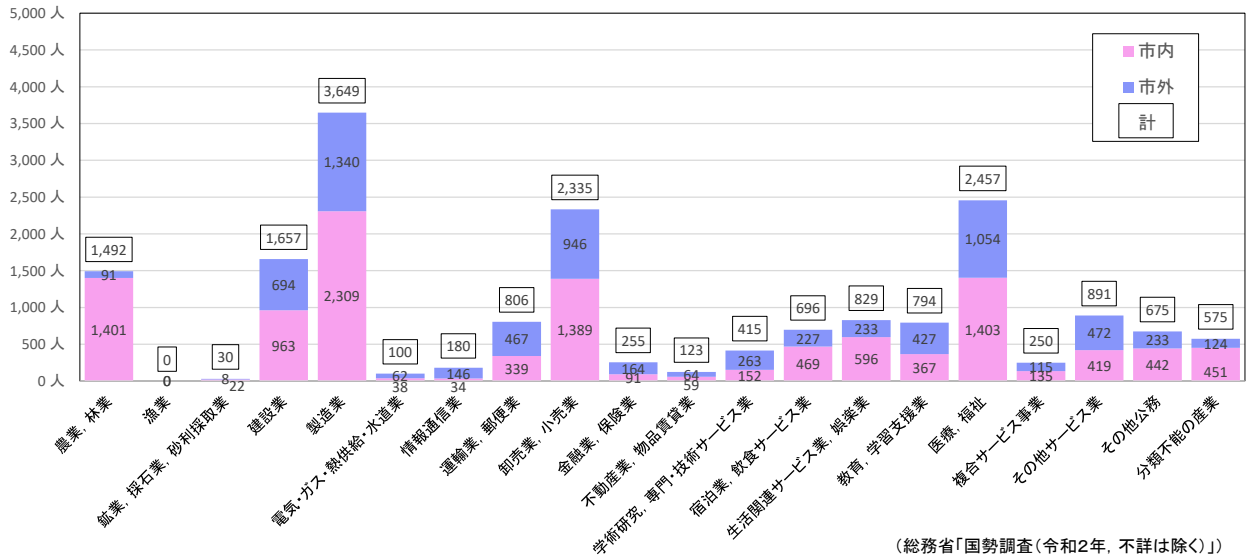
【参考:平成27年】男女別就業者人口



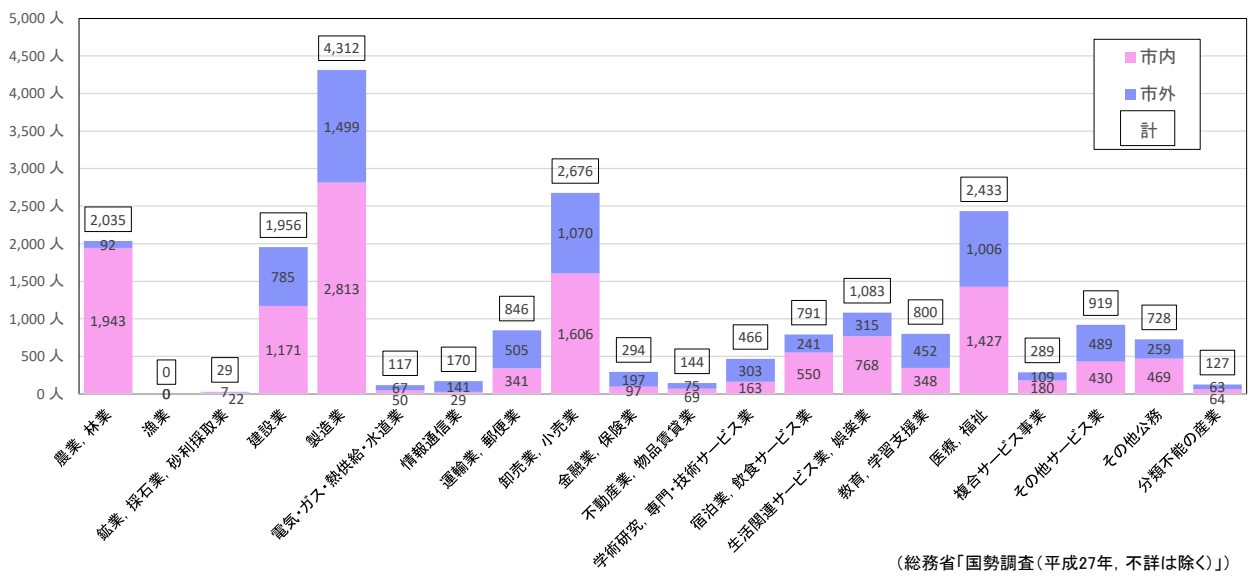
(総務省「国勢調査(平成27年)」)

○市内常住の就業者が多い上位3つの産業“製造業”“卸売業、小売業”“医療、福祉”についてみると、いずれも6割程度が市内で就業しています。

【令和2年】産業大分類別市内常住の就業者

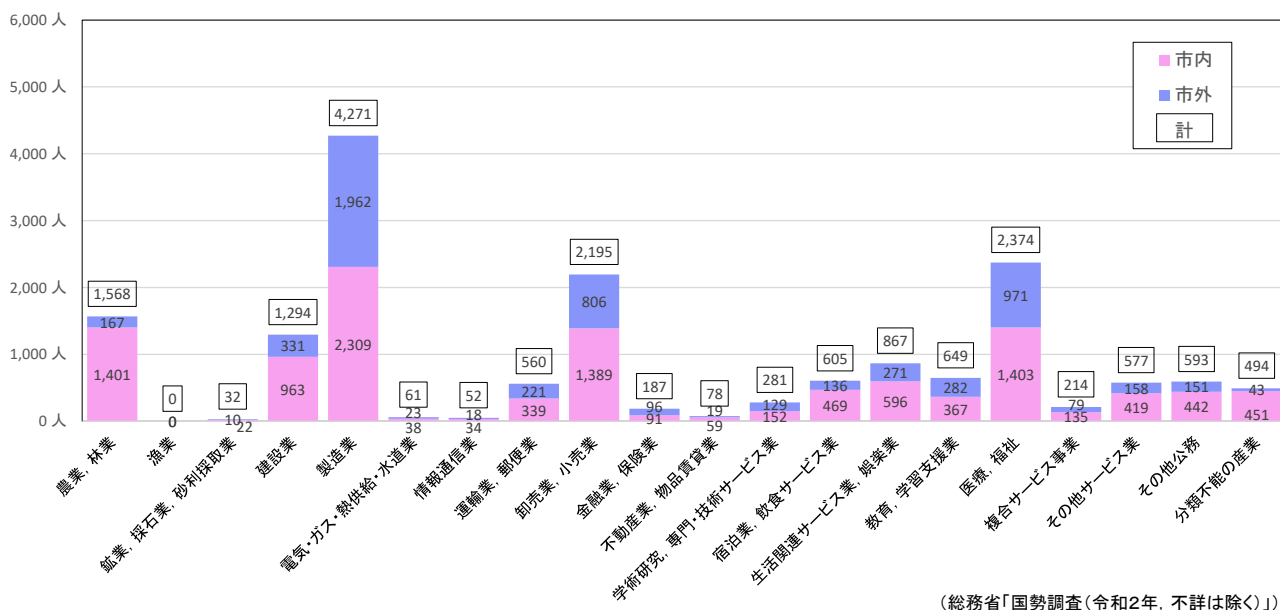


【参考:平成27年】産業大分類別市内常住の就業者



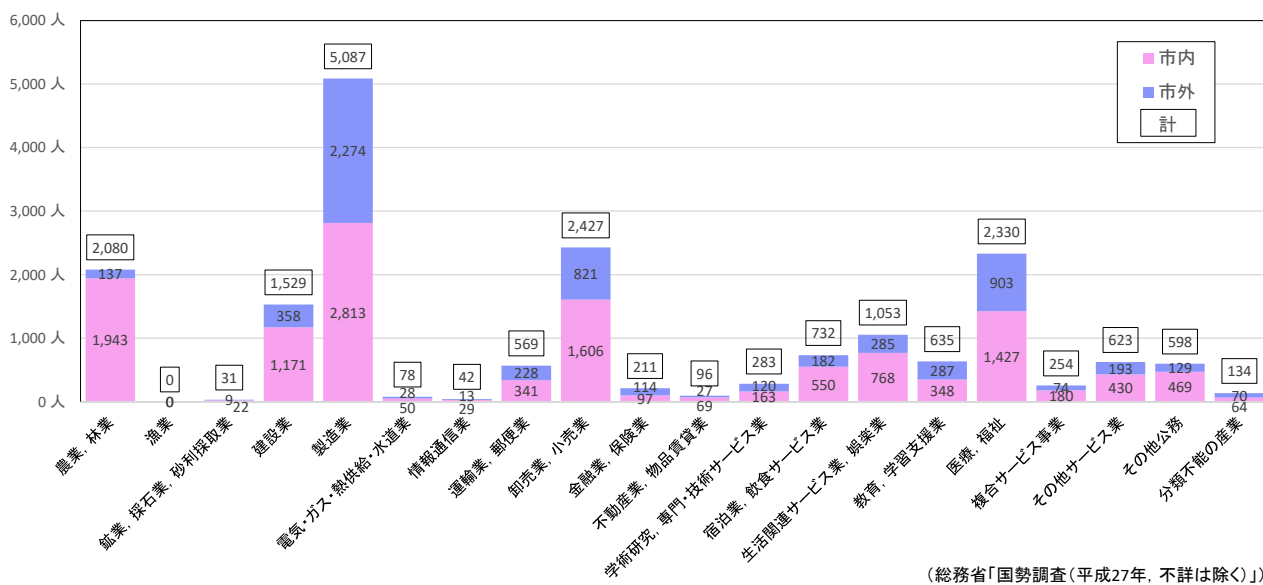
○令和2年の市内で従業する就業者数を産業大分類別にみると、“製造業”が最も多く4,271人、そのうち市外常住の就業者は1,962人（45.9%）となっています。次いで“卸売業・小売業”が2,195人で、そのうち市外常住の就業者は806人（36.7%）となっています。

【令和2年】産業大分類別市内従業の就業者



（総務省「国勢調査（令和2年、不詳は除く）」）

【参考：平成27年】産業大分類別市内従業の就業者



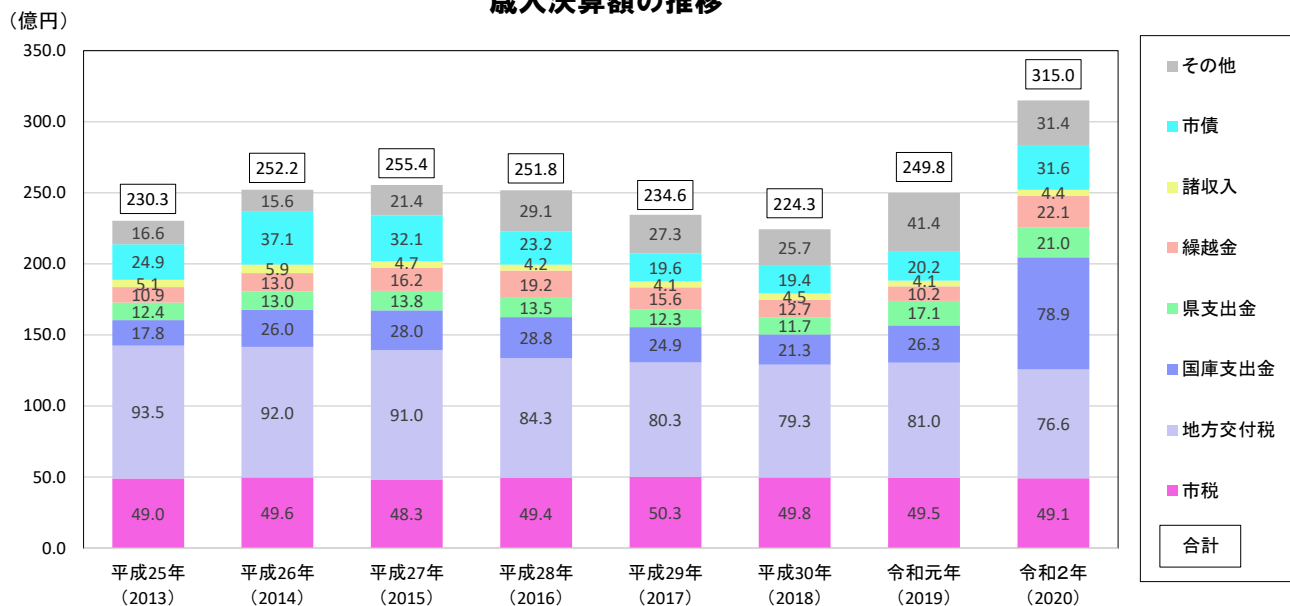
（総務省「国勢調査（平成27年、不詳は除く）」）

③財政

【歳入】

- 歳入決算額の推移をみると、平成27年までは増加傾向で推移し、その後平成30年まで減少していますが、令和元年以降は増加に転じ、令和2年には315.0億円となっています。
- なお、令和2年は、新型コロナウイルス感染症関連の「国庫支出金」が増加したことで、これまで最も多い歳入科目であった「地方交付税」を上回っています。

歳入決算額の推移



単位:億円	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)
合計	230.3	252.2	255.4	251.8	234.6	224.3	249.8	315.0
市税	49.0	49.6	48.3	49.4	50.3	49.8	49.5	49.1
地方交付税	93.5	92.0	91.0	84.3	80.3	79.3	81.0	76.6
国庫支出金	17.8	26.0	28.0	28.8	24.9	21.3	26.3	78.9
県支出金	12.4	13.0	13.8	13.5	12.3	11.7	17.1	21.0
繰越金	10.9	13.0	16.2	19.2	15.6	12.7	10.2	22.1
諸収入	5.1	5.9	4.7	4.2	4.1	4.5	4.1	4.4
市債	24.9	37.1	32.1	23.2	19.6	19.4	20.2	31.6
その他	16.6	15.6	21.4	29.1	27.3	25.7	41.4	31.4

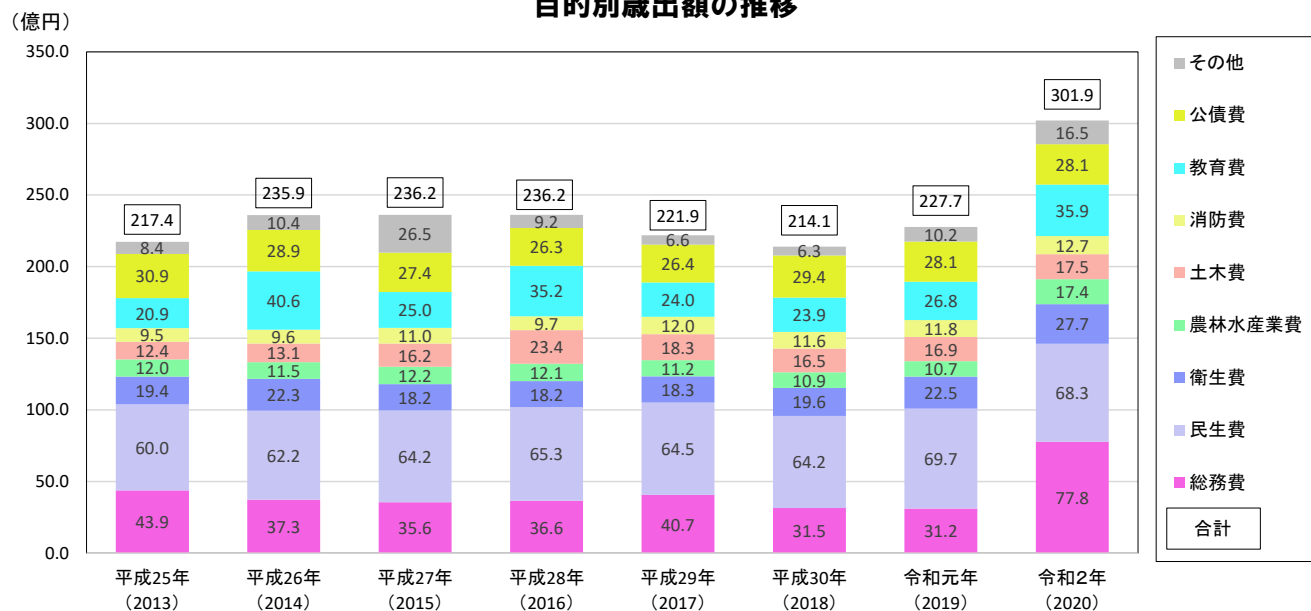
(総務省「市町村決算カード」)

【歳出】

○歳出額の推移をみると、平成27年まで増加傾向で推移し、その後平成30年まで減少していますが、令和元年以降は増加に転じ、令和2年には301.9億円となっています。

○なお、令和2年は、新型コロナウイルス感染症関連の特別定額給付金給付事業等の「総務費」が増加したことで、これまで最も多い歳出科目であった「民生費」を上回っています。

目的別歳出額の推移



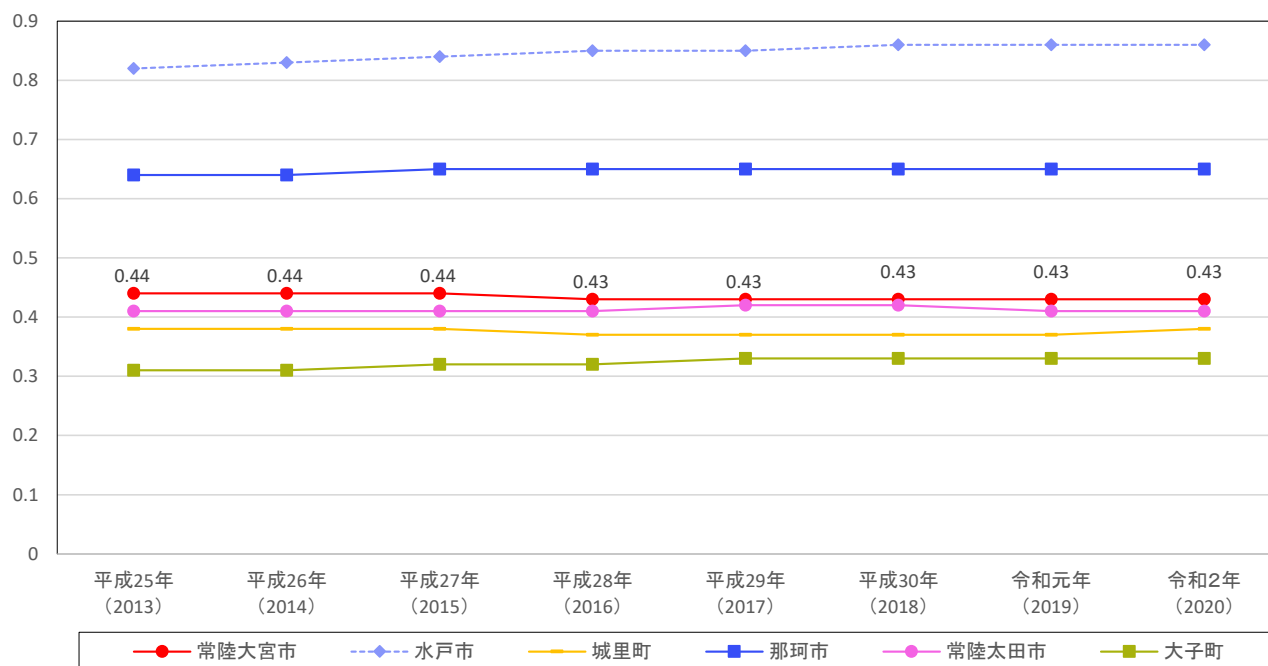
単位: 億円	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)
合計	217.4	235.9	236.2	236.2	221.9	214.1	227.7	301.9
総務費	43.9	37.3	35.6	36.6	40.7	31.5	31.2	77.8
民生費	60.0	62.2	64.2	65.3	64.5	64.2	69.7	68.3
衛生費	19.4	22.3	18.2	18.2	18.3	19.6	22.5	27.7
農林水産業費	12.0	11.5	12.2	12.1	11.2	10.9	10.7	17.4
土木費	12.4	13.1	16.2	23.4	18.3	16.5	16.9	17.5
消防費	9.5	9.6	11.0	9.7	12.0	11.6	11.8	12.7
教育費	20.9	40.6	25.0	35.2	24.0	23.9	26.8	35.9
公債費	30.9	28.9	27.4	26.3	26.4	29.4	28.1	28.1
その他	8.4	10.4	26.5	9.2	6.6	6.3	10.2	16.5

(総務省「市町村決算カード」)

【財政力指数】

- 過去8年間の財政力指数はほぼ横ばいで、水戸市や那珂市に比べて低位で推移しており、令和2年は0.43となっています。
- 令和2年の財政力指数について、近隣市町の中で最も高いのは水戸市で0.86、最も低いのは大子町で0.33となっています。

財政力指数の推移



	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)
常陸大宮市	0.44	0.44	0.44	0.43	0.43	0.43	0.43	0.43
水戸市	0.82	0.83	0.84	0.85	0.85	0.86	0.86	0.86
城里町	0.38	0.38	0.38	0.37	0.37	0.37	0.37	0.38
那珂市	0.64	0.64	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65
常陸太田市	0.41	0.41	0.41	0.41	0.42	0.42	0.41	0.41
大子町	0.31	0.31	0.32	0.32	0.33	0.33	0.33	0.33

(総務省「市町村決算カード」)

※財政力指数

地方公共団体の財政力を示す指標で、基準財政収入額（標準的に収入しうると考えられる地方税等）の基準財政需要額（地方公共団体が妥当かつ合理的な平均水準で行政運営を行った場合に要する財政需要を示す額）に対する割合で過去3年間の平均値。

1に近いほど財源に余裕があるとされ、1を超える団体は普通交付税の不交付団体となります。

2. 市民アンケート調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

○常陸大宮市人口ビジョン及び人口を維持していくための常陸大宮市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略の改定にあたり、小学生・中学生も含めた40歳以下の市民のニーズを把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

②調査の種類と実施方法

○本調査においては、対象者別に次の4種類のアンケート調査を実施しました。

調査の種類	調査の対象 (抽出方法)	調査期間	実施方法
暮らし・結婚・子育て等に関するアンケート調査	18～40歳の市民 (無作為抽出)	令和元年 6月7日～6月21日	郵送による 配布・回収
若者の進路希望状況調査	17歳の市民 (全数)	令和元年 6月7日～6月21日	
これからのまちづくりに関するアンケート	中学2年生 (全数)	令和元年 5月20日～6月10日	学校での 配布・回収
	小学5年生 (全数)	令和元年 5月20日～6月10日	

③配布と回収状況

○調査票の配布と回収の状況は次のとおりです。

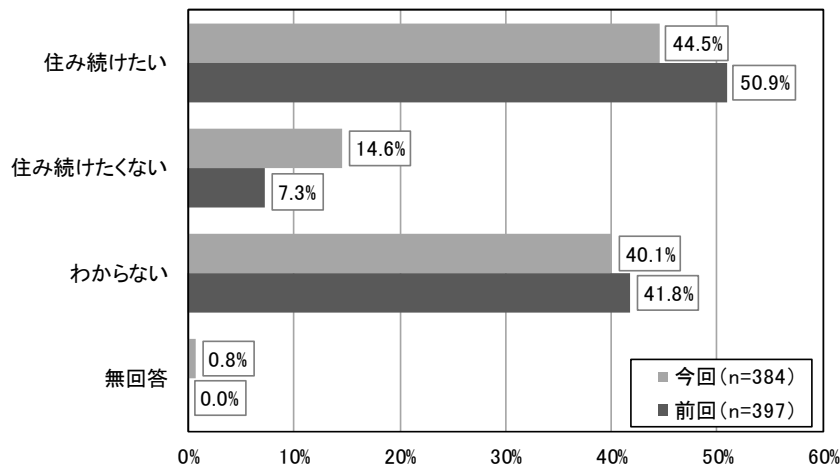
		配布数	回収数	回収率
暮らし・結婚・子育て等に関するアンケート調査	今回	1,500 票	388 票	25.9 %
	【参考】前回	1,500 票	397 票	26.5 %
若者の進路希望状況調査	今回	387 票	109 票	28.2 %
	【参考】前回	422 票	120 票	28.4 %
これからのまちづくりに関するアンケート	中学2年生	—	270 票	—
	小学5年生	—	301 票	—

※各回答項目の割合(%)は、端数処理の関係上、合計が100%にならない場合があります。

(2) 暮らし・結婚・子育て等に関するアンケート調査結果概要

① 将来、常陸大宮市に住み続けたいか

- ・「住み続けたい」が44.5%で最も割合が高く、次いで「住み続けたくない」は14.6%、「わからない」が40.1%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、「住み続けたい」が6.4ポイント減少し、「住み続けたくない」が7.3ポイント増加しています。
- ・「わからない」についてみると、年齢別では“24歳以下”、出身地では“常陸大宮市以外の県内市町村”、結婚の有無では“結婚していない”、子どもの有無では“いない”でそれぞれ最も割合が高くなっています。

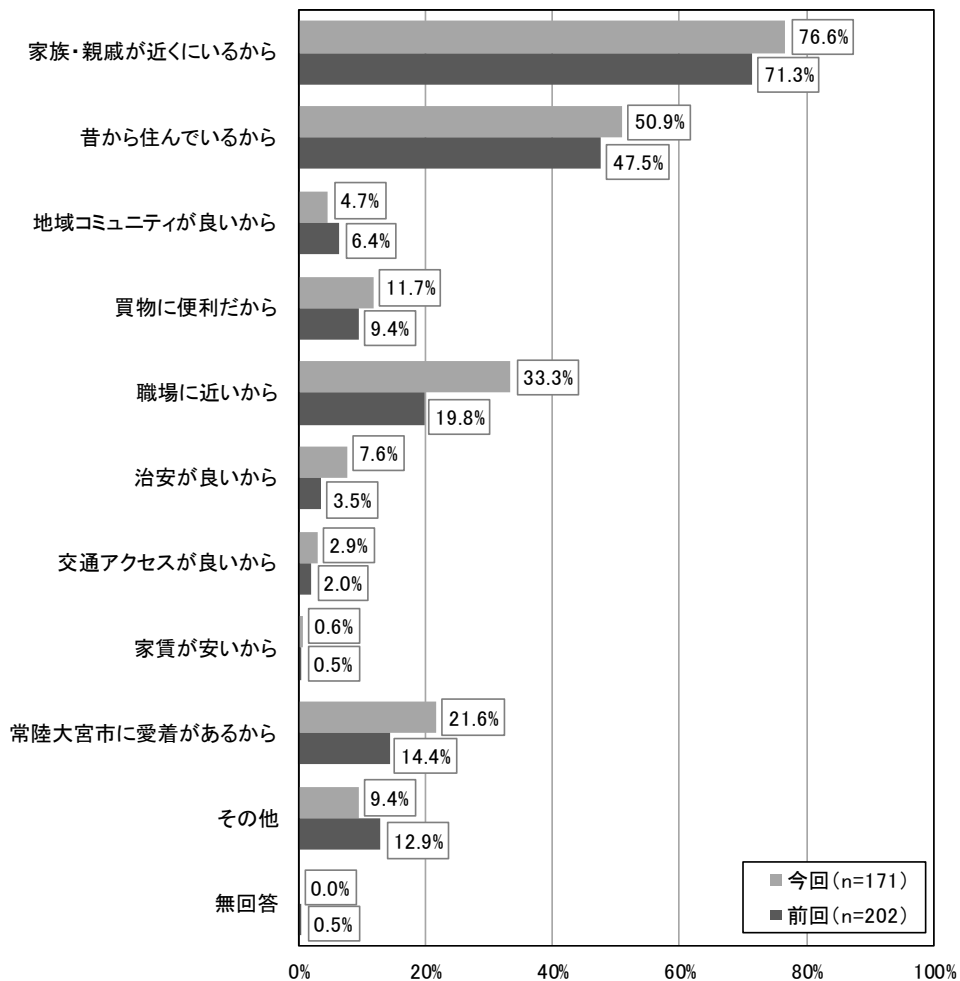


		合計	問2 将来、常陸大宮市に住み続けたいか			
			住み続けたい	住み続けたくない	わからない	無回答
全体		384 100.0	171 44.5	56 14.6	154 40.1	3 0.8
性別	男性	146 100.0	62 42.5	21 14.4	61 41.8	2 1.4
	女性	234 100.0	108 46.2	34 14.5	91 38.9	1 0.4
年齢	19歳以下	25 100.0	9 36.0	5 20.0	10 40.0	1 4.0
	20～24歳	73 100.0	21 28.8	12 16.4	39 53.4	1 1.4
	25～29歳	75 100.0	38 50.7	8 10.7	29 38.7	0 0.0
	30～34歳	87 100.0	44 50.6	15 17.2	27 31.0	1 1.1
	35～40歳	123 100.0	59 48.0	15 12.2	49 39.8	0 0.0
	居住地区	大宮地域	261 100.0	115 44.1	42 16.1	102 39.1
	山方地域	41 100.0	19 46.3	3 7.3	19 46.3	0 0.0
	美和地域	26 100.0	8 30.8	5 19.2	13 50.0	0 0.0
	緒川地域	29 100.0	17 58.6	2 6.9	10 34.5	0 0.0
	御前山地域	24 100.0	10 41.7	3 12.5	10 41.7	1 4.2
出身地	常陸大宮市内	268 100.0	123 45.9	37 13.8	106 39.6	2 0.7
	常陸大宮市以外の 県内市町村	82 100.0	33 40.2	10 12.2	38 46.3	1 1.2
	県外	33 100.0	14 42.4	9 27.3	10 30.3	0 0.0
結婚の有無	結婚している	159 100.0	91 57.2	20 12.6	48 30.2	0 0.0
	結婚していない	224 100.0	80 35.7	36 16.1	106 47.3	2 0.9
子どもの有無	いる	151 100.0	86 57.0	19 12.6	46 30.5	0 0.0
	いない	229 100.0	83 36.2	37 16.2	107 46.7	2 0.9

②住み続けたい理由

①で「住み続けたい」を選択した方限定

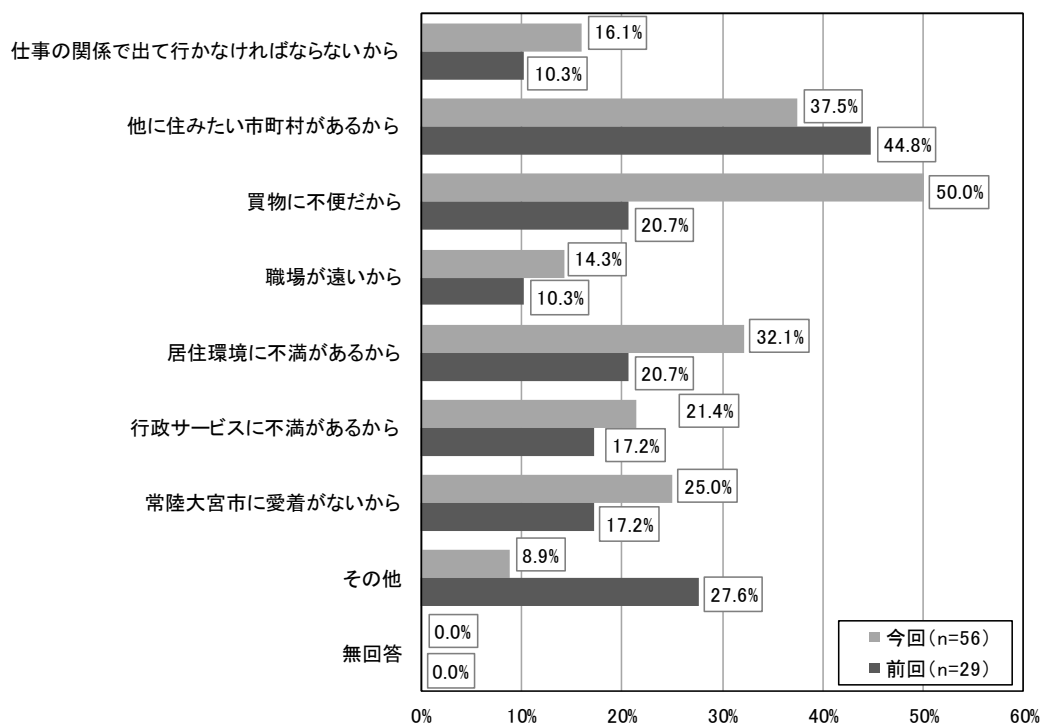
- ・「家族・親戚が近くにいるから」が76.6%と最も割合が高く、次いで「昔から住んでいるから」が50.9%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、「職場に近いから」が13.5ポイントと大きく増加しています。また、「常陸大宮市に愛着があるから」についても7.2ポイント増加しています。



③ 住み続けたくない理由

①で「住み続けたくない」を選択した方限定

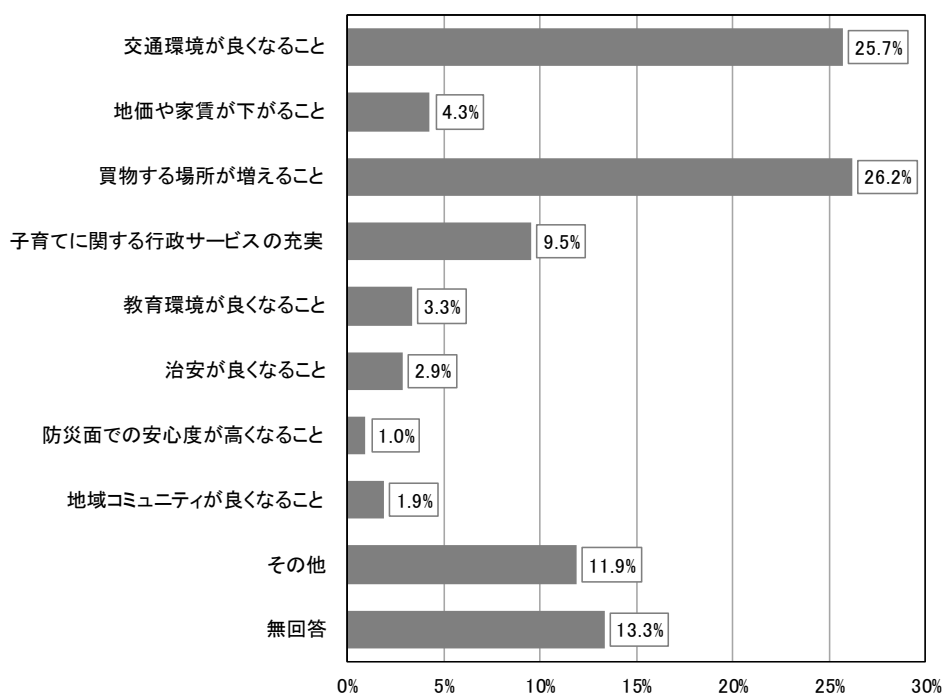
- ・「買物に不便だから」が50.0%と最も割合が高く、次いで「他に住みたい市町村があるから」が37.5%、「居住環境に不満があるから」が32.1%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、「買物に不便だから」が29.3ポイントと大きく増加しています。



④ 常陸大宮市に住み続けるために最も必要な条件

①で「住み続けたくない」「わからない」を選択した方限定

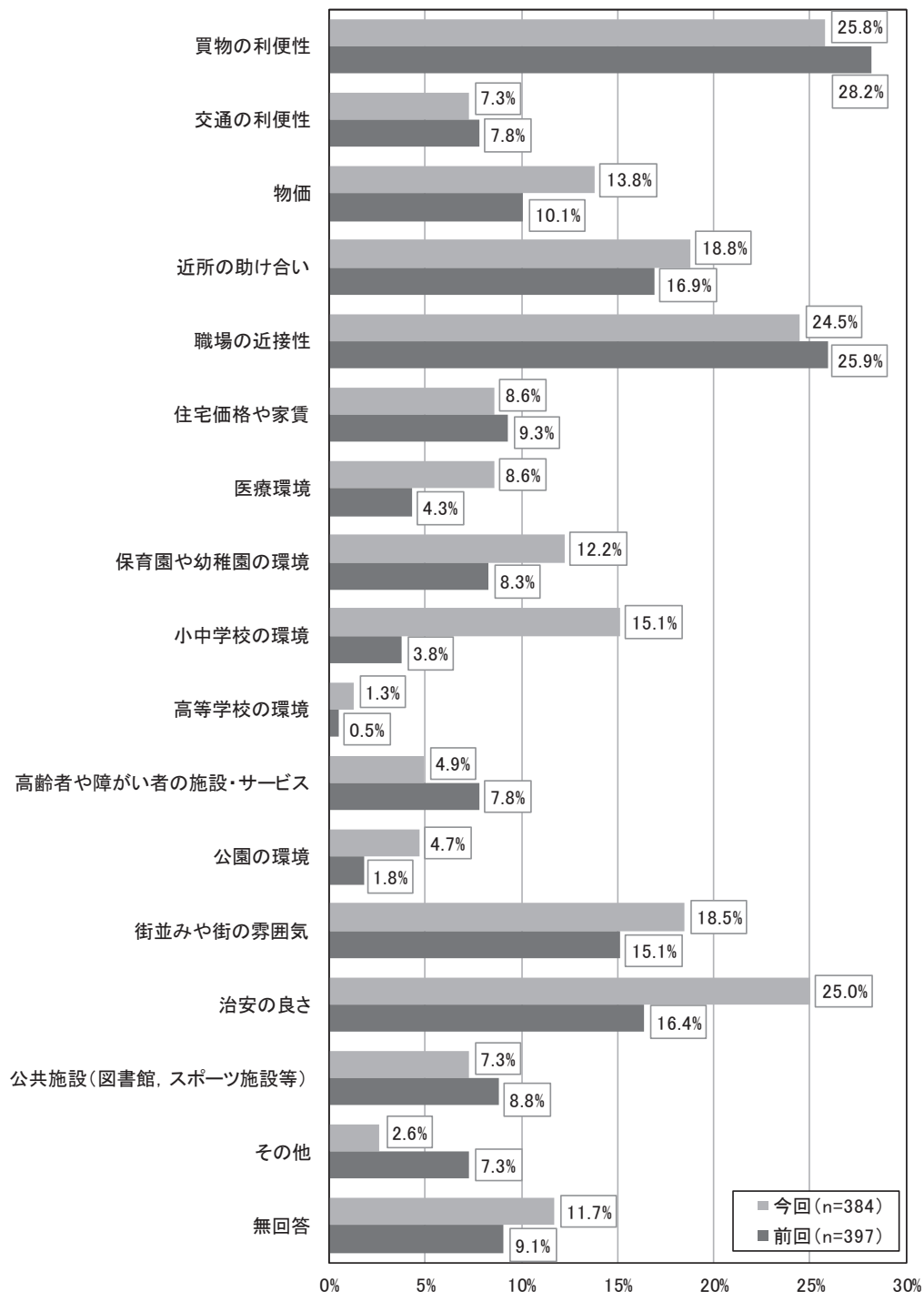
- ・「買物する場所が増えること」が26.2%と最も割合が高く、次いで「交通環境が良くなること」が25.7%となっています。



(n=210)

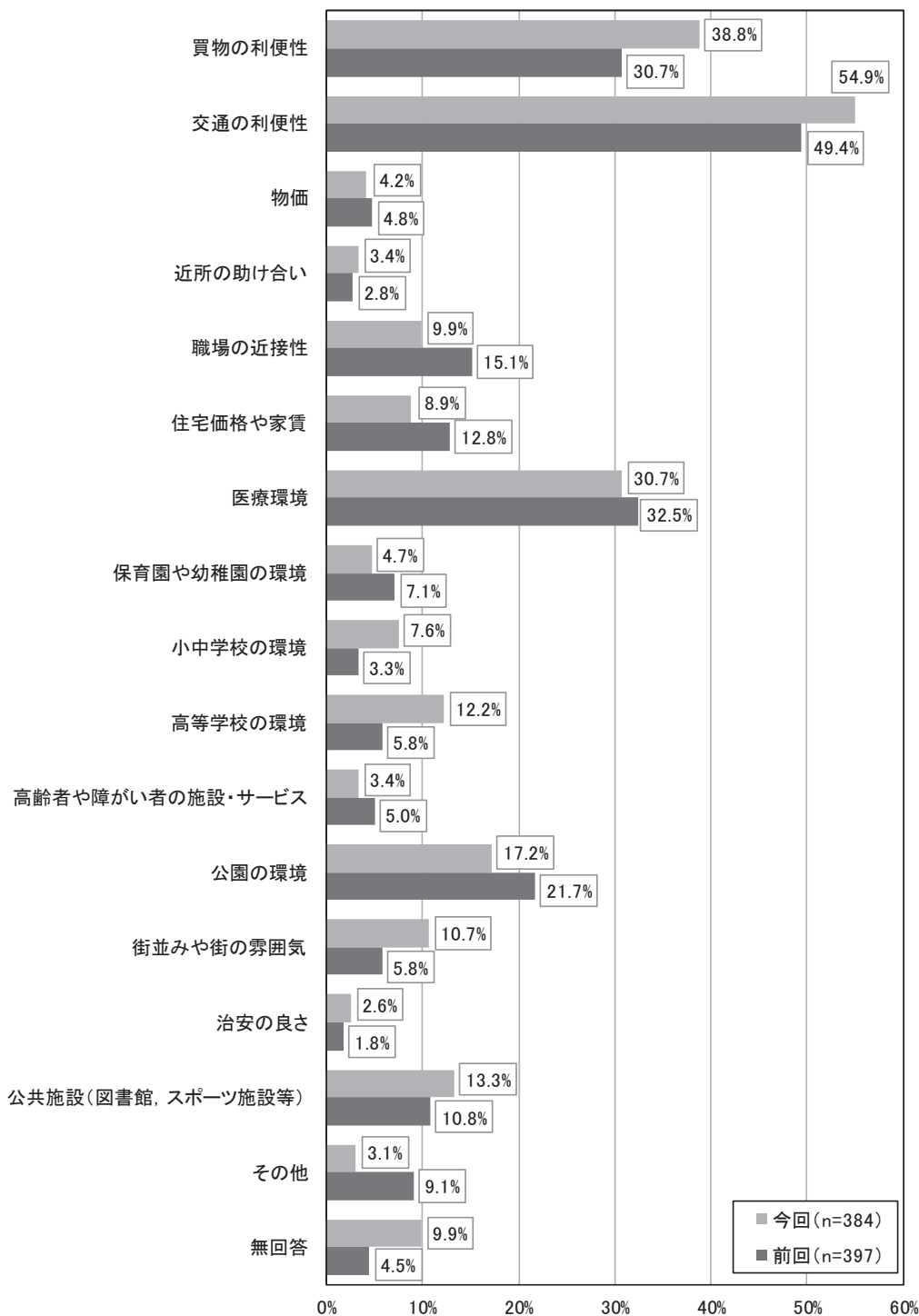
⑤常陸大宮市の住みやすい点

- ・「買物の利便性」が25.8%で最も割合が高く、次いで「治安の良さ」が25.0%、「職場の近接性」が24.5%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、「小中学校の環境」が11.3ポイントと大きく増加しています。また、「治安の良さ」についても、8.6ポイント増加しています。



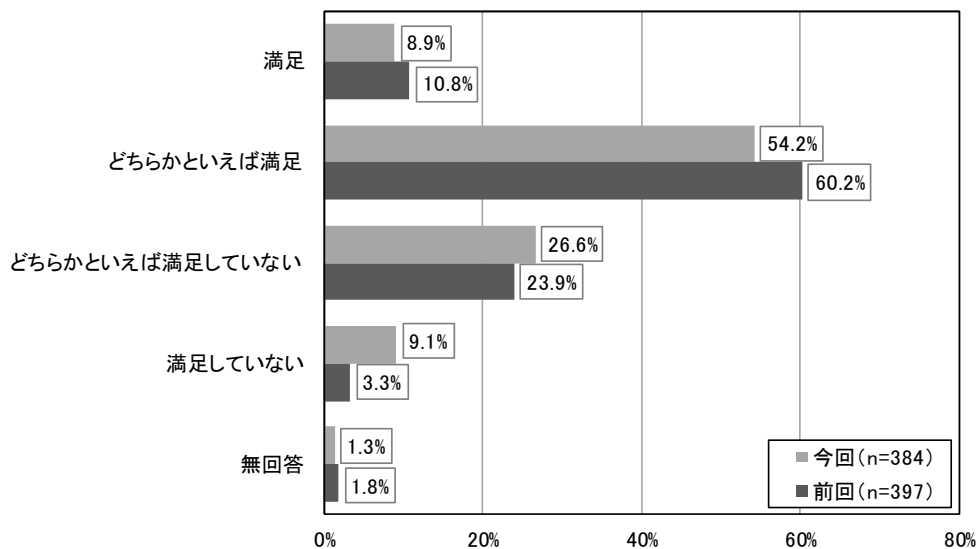
⑥常陸大宮市の住みにくい点

- ・「交通の利便性」が54.9%で最も割合が高く、次いで「買物の利便性」が38.8%、「医療環境」が30.7%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、「買物の利便性」が8.1ポイントと大きく増加しています。



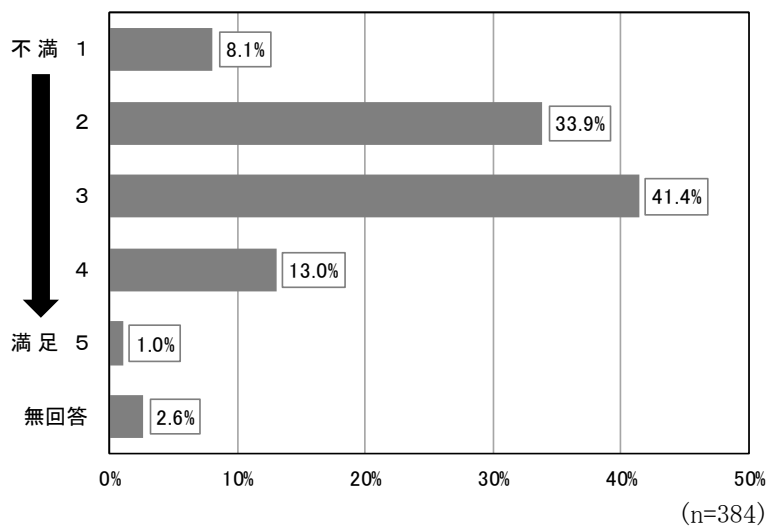
⑦常陸大宮市での暮らしに満足しているか

- ・「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』が 63.1%、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」を合わせた『不満』が 35.7%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、『満足』が 71.0%から 7.9 ポイント減少し、『不満』が 27.2%から 8.5 ポイント増加しています。



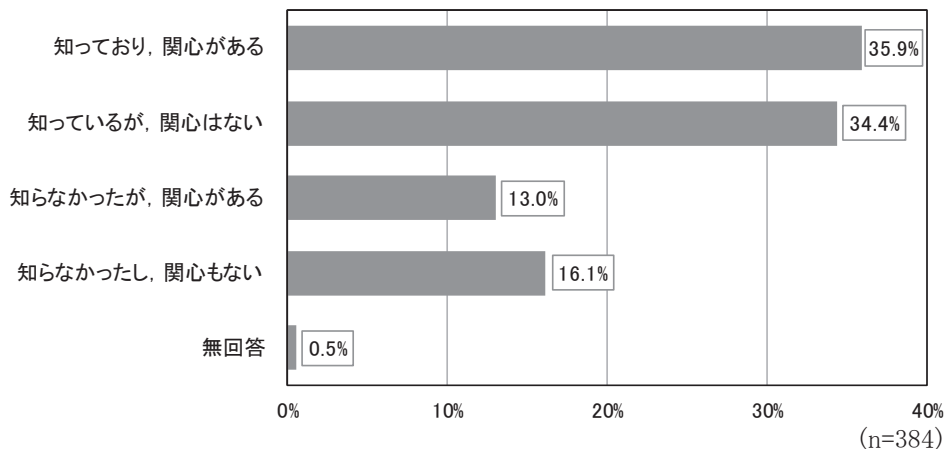
⑧生活環境、住みやすさの満足度

- ・「3」が 41.4%と最も割合が高く、次いで「2」が 33.9%となっています。



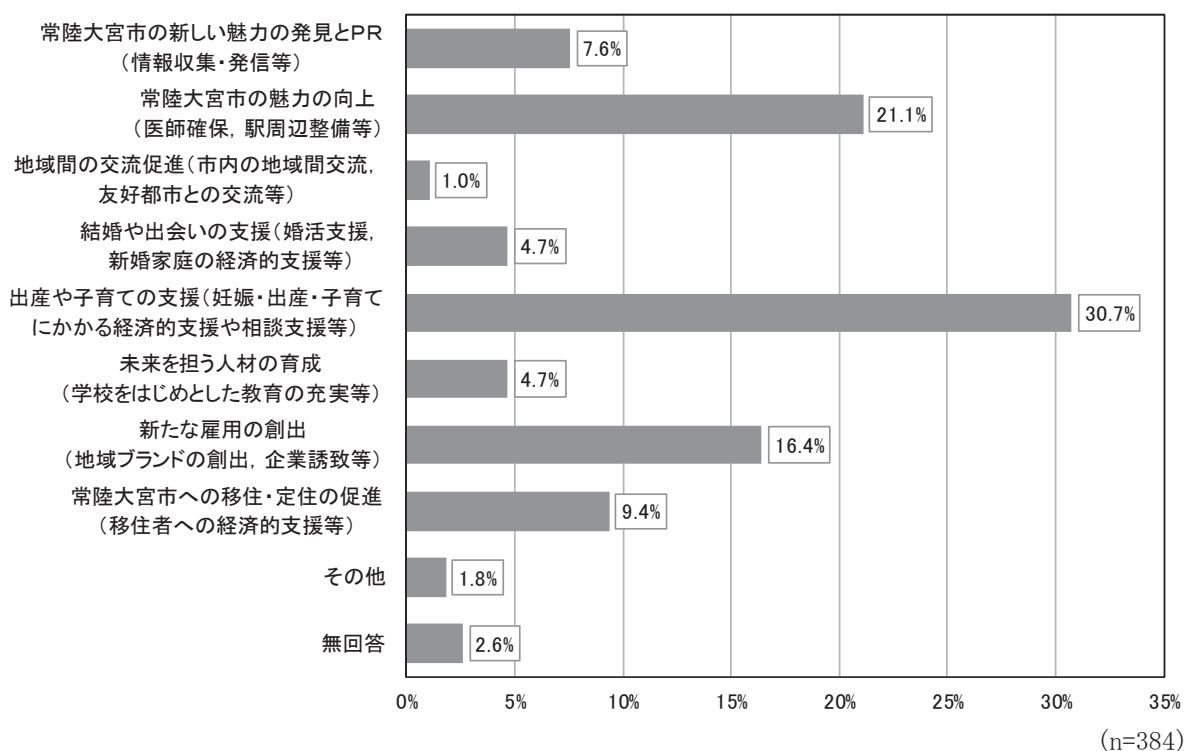
⑨人口減少について

・「知っており、関心がある」が35.9%と最も割合が高く、次いで「知っているが、関心はない」が34.4%、「知らなかったし、関心もない」が16.1%となっています。



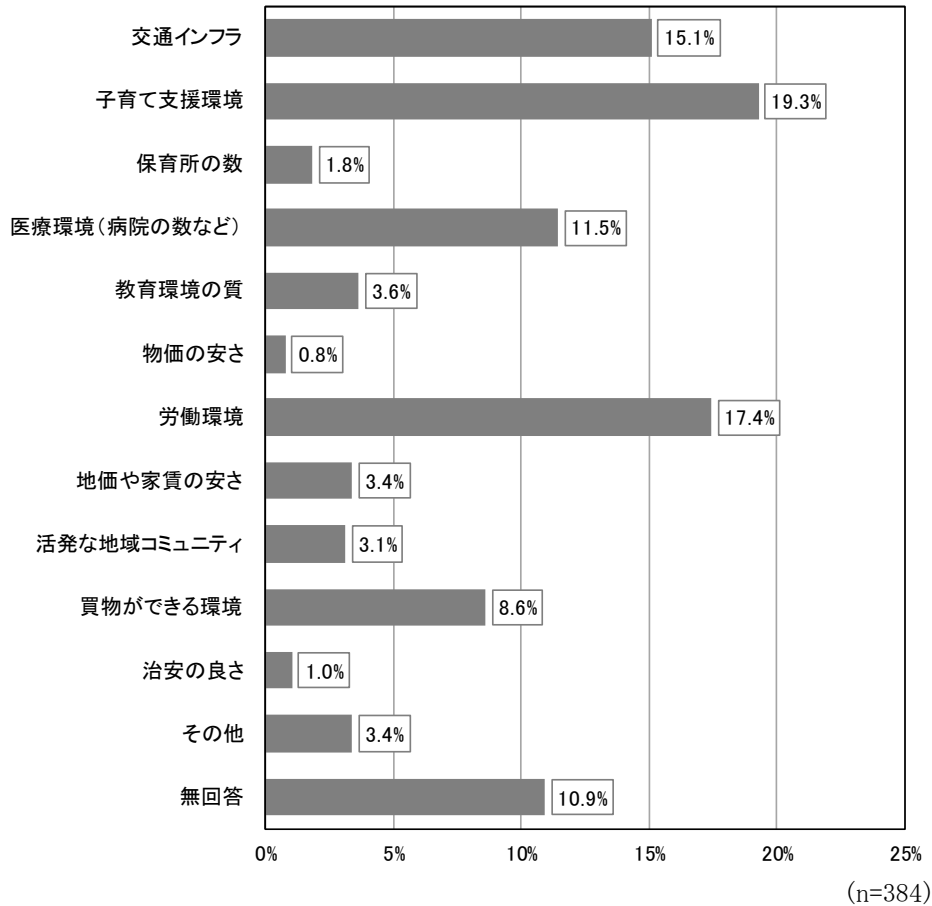
⑩人口減少の抑制に重要な取り組み

・「出産や子育ての支援（妊娠・出産・子育てにかかる経済的支援や相談支援 等）」が30.7%で最も割合が高く、次いで「常陸大宮市の魅力の向上（医師確保、駅周辺整備 等）」が21.1%となっています。



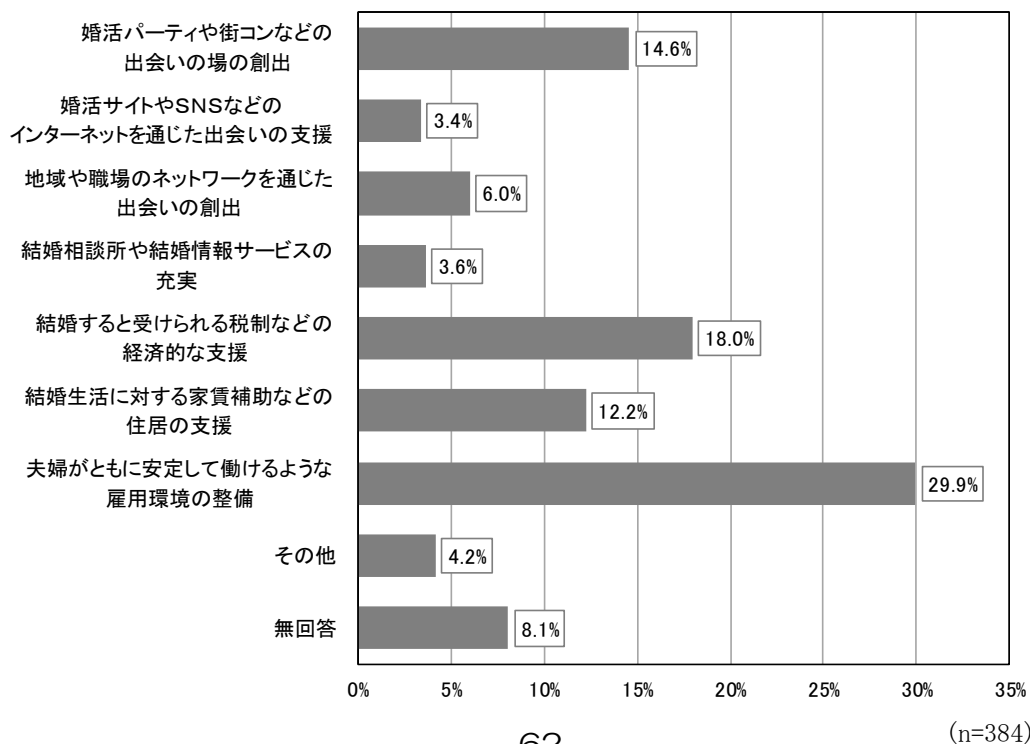
⑪常陸大宮市で結婚生活をするために最も不足しているもの

・「子育て支援環境」が19.3%で最も割合が高く、次いで「労働環境」が17.4%となっています。



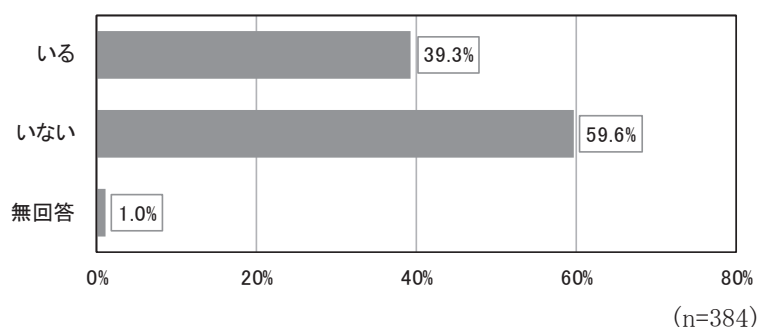
⑫結婚や出会いのために、最も重要と考える支援

・「夫婦がともに安定して働けるような雇用環境の整備」が29.9%で最も割合が高く、次いで「結婚すると受けられる税制などの経済的な支援」が18.0%となっています。



⑬子どもの有無

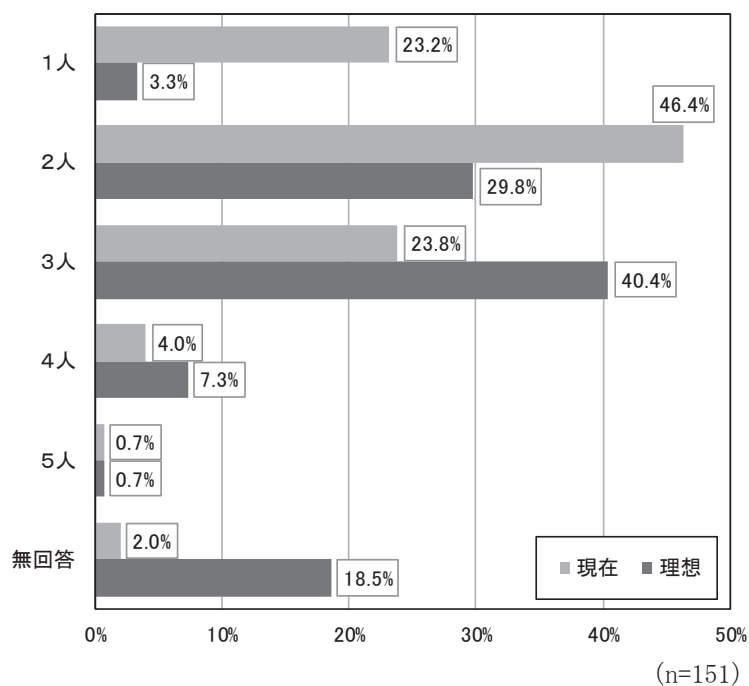
・「いる」が39.3%、「いない」が59.6%となっています。



⑭現在と理想の子どもの人数

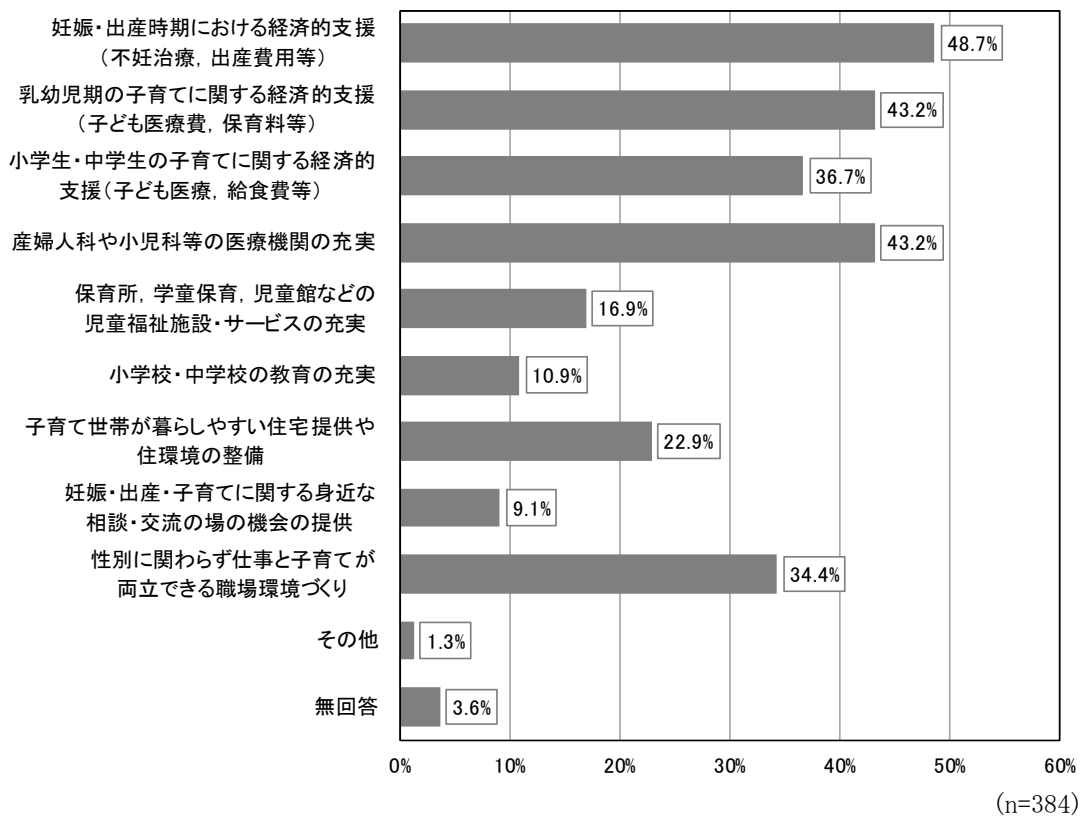
⑬で「いる」を選択した方限定

- ・“現在”は「2人」が46.4%と最も割合が高い一方で、“理想”は「3人」が40.4%となっています。
- ・なお、“現在の子ども数について、“理想”より少ない数を回答した方は72人（子どもが“いる”と回答したうちの47.7%）となっています。



⑮子どもを産み育てるために必要な取り組み

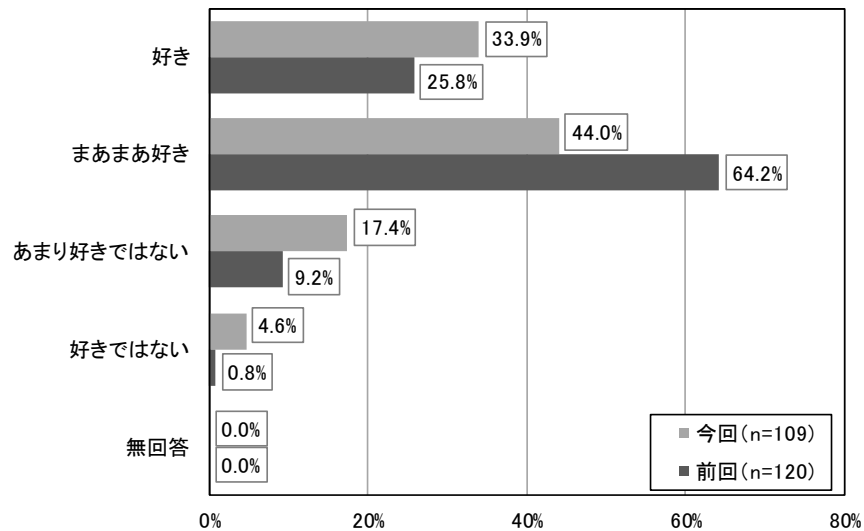
・「妊娠・出産時期における経済的支援（不妊治療，出産費用 等）」が48.7%で最も割合が高く、次いで「乳幼児期の子育てに関する経済的支援（子ども医療費，保育料 等）」「産婦人科や小児科等の医療機関の充実」がそれぞれ43.2%となっています。



(3) 若者の進路希望状況調査結果概要

①常陸大宮市が好きか

- ・「好き」「まあまあ好き」を合わせた『好き』が77.9%、「あまり好きではない」「好きではない」を合わせた『嫌い』が22.0%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、『好き』が12.1ポイント減少し、『嫌い』が12.0ポイント増加しています。
- ・『好き』について性別で見ると、“男性”の74.0%に対し、“女性”は81.1%と、割合が高くなっています。

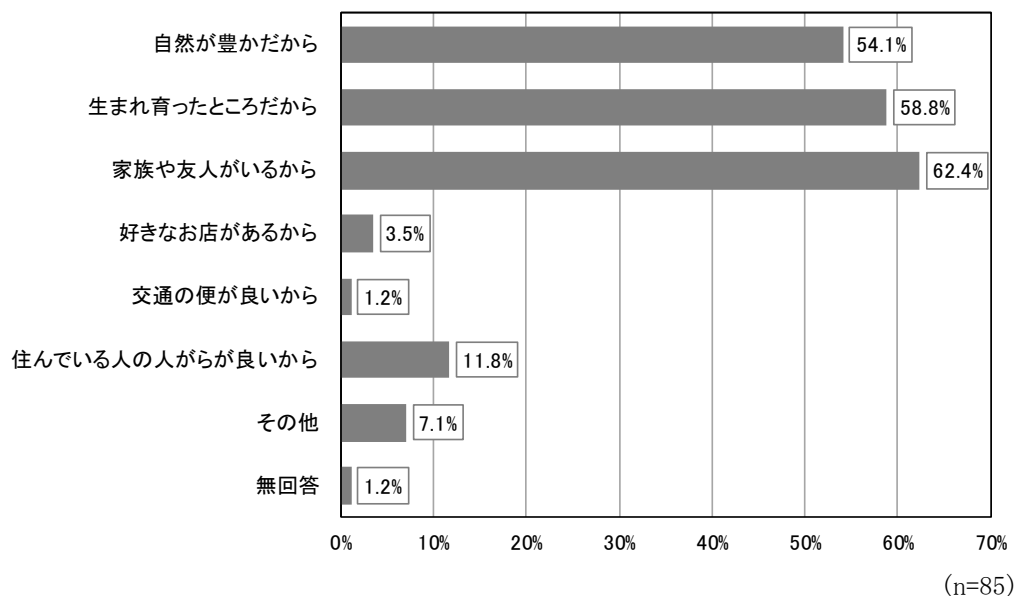


		合計	問2. 常陸大宮市が好きか				
			好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない	無回答
全体		109 100.0	37 33.9	48 44.0	19 17.4	5 4.6	0 0.0
性別	男性	50 100.0	12 24.0	25 50.0	11 22.0	2 4.0	0 0.0
	女性	58 100.0	24 41.4	23 39.7	8 13.8	3 5.2	0 0.0
居住地区	大宮地域	67 100.0	25 37.3	28 41.8	11 16.4	3 4.5	0 0.0
	山方地域	14 100.0	4 28.6	7 50.0	2 14.3	1 7.1	0 0.0
	美和地域	9 100.0	3 33.3	3 33.3	3 33.3	0 0.0	0 0.0
	緒川地域	12 100.0	4 33.3	6 50.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0
	御前山地域	5 100.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0

②常陸大宮市を好きな理由

①で「好き」「まあまあ好き」を選択した方限定

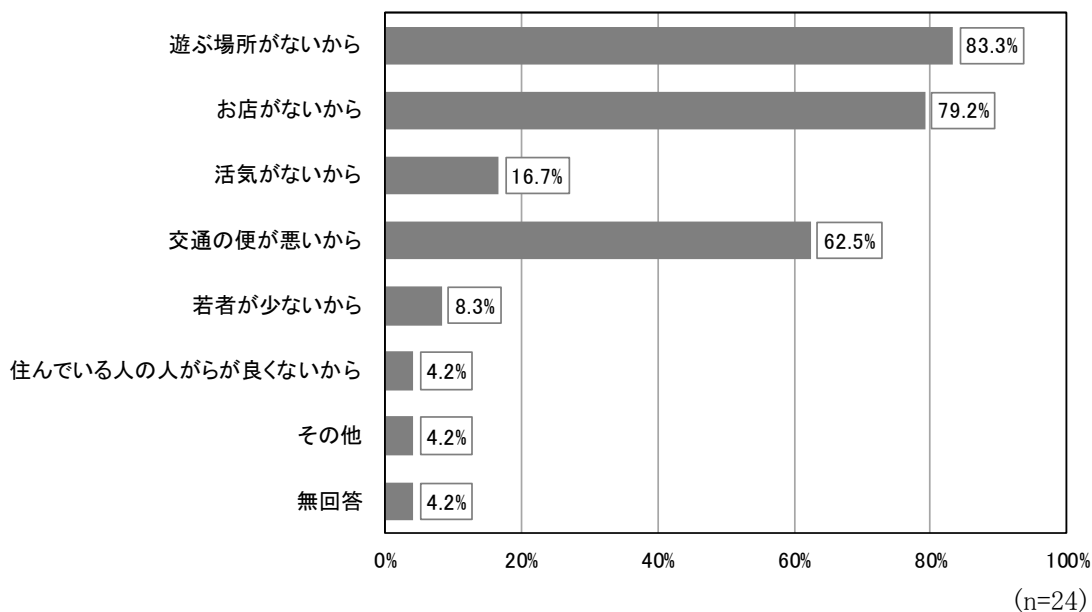
・「家族や友人がいるから」が62.4%で最も割合が高く、次いで「生まれ育ったところだから」が58.8%、「自然が豊かだから」が54.1%となっています。



③常陸大宮市を好きでない理由

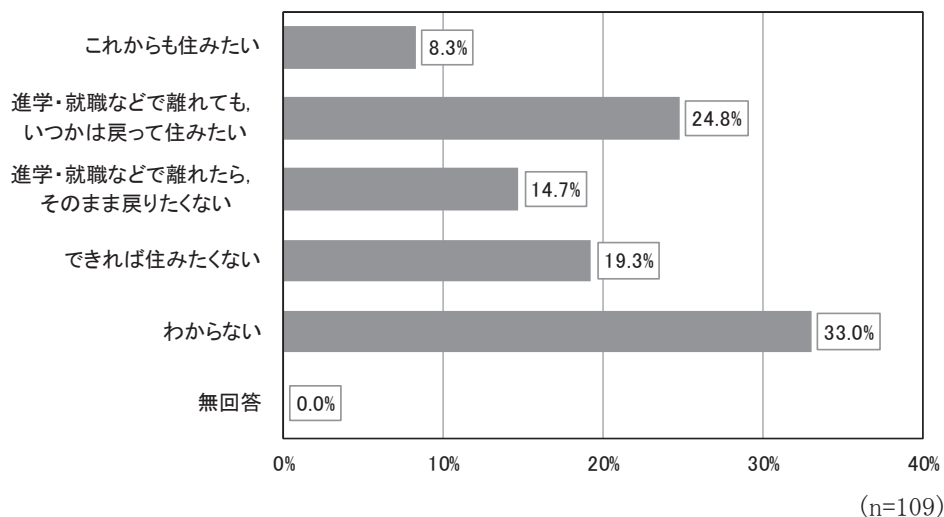
①で「好きではない」「あまり好きではない」を選択した方限定

・「遊ぶ場所がないから」が83.3%で最も割合が高く、次いで「お店がないから」が79.2%、「交通の便が悪いから」が62.5%となっています。



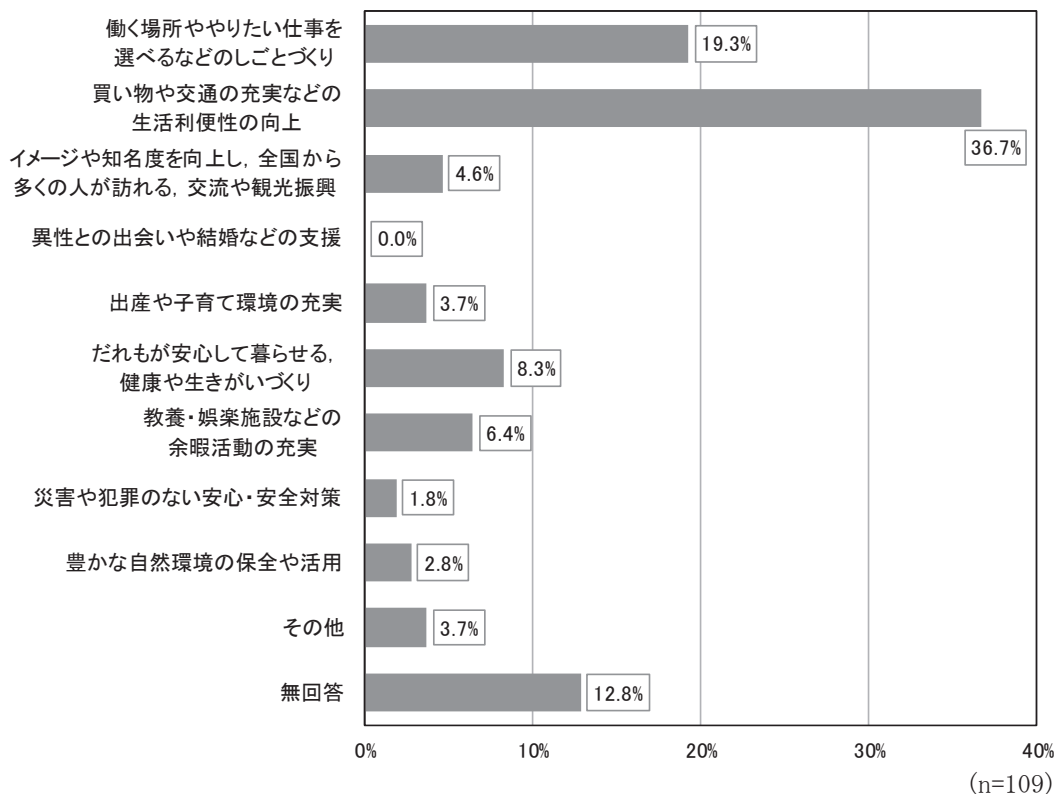
④常陸大宮市に将来も住みたいか

- ・「わからない」が33.3%で最も割合が高く、次いで「進学・就職などで離れても、いつかは戻って住みたい」が24.8%、「できれば住みたくない」が19.3%となっています。
- ・「これからも住みたい」「進学・就職などで離れても、いつかは戻って住みたい」を合わせた『定住意向あり』が33.1%、「進学・就職などで離れたら、そのまま戻りたくない」「できれば住みたくない」を合わせた『定住意向なし』が34.0%となっています。



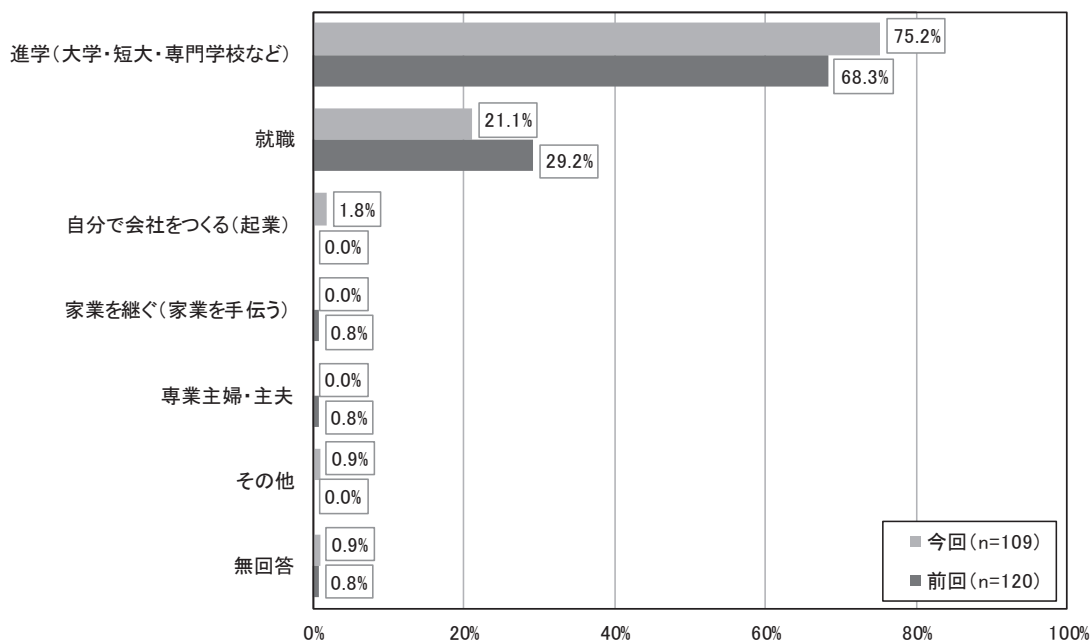
⑤常陸大宮市に住み続けるために特に力を入れてほしいこと

- ・「買い物や交通の充実などの生活利便性の向上」が36.7%と最も割合が高く、「働く場所ややりたい仕事を選べるなどのしごとづくり」が19.3%となっています。



⑥今後の進路希望

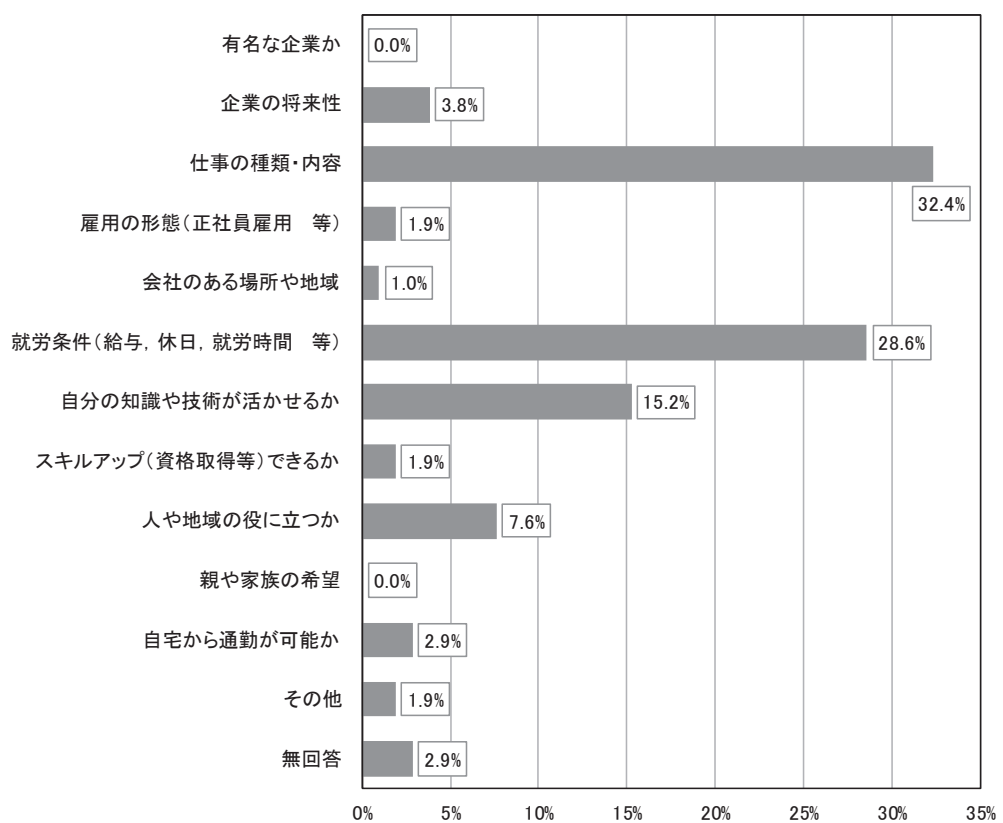
- ・「進学（大学・短大・専門学校など）」が75.2%と最も割合が高く、次いで「就職」が21.1%となっています。
- ・前回の調査結果と比較すると、「進学（大学・短大・専門学校など）」が6.9ポイント増加し、「就職」が8.1ポイント減少しています。



⑦就職先の会社を選ぶ際に最も重要な条件

①で「進学（大学・短大・専門学校など）」「就職」を選択した方限定

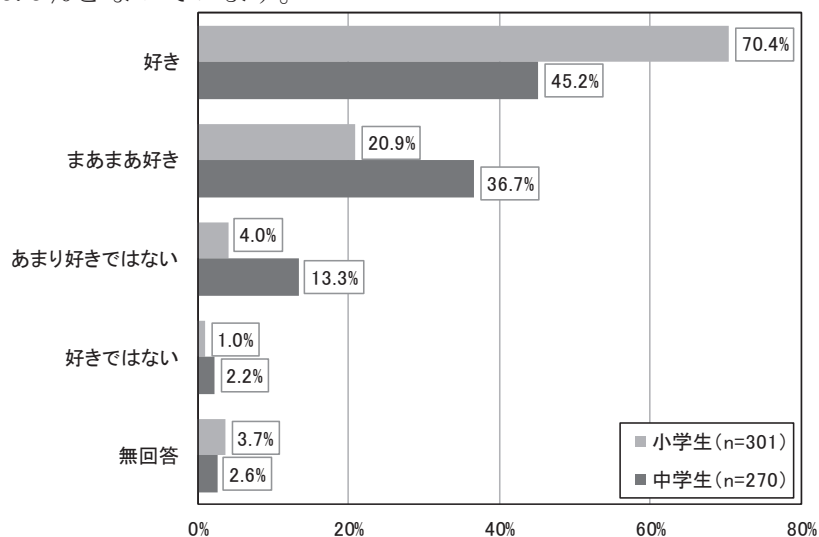
- ・「買い物や交通の充実などの生活利便性の向上」が36.7%と最も割合が高く、「働く場所ややりたい仕事を選べるなどのしごとづくり」が19.3%となっています。



(4) これからのまちづくりに関するアンケート調査結果概要

①常陸大宮市が好きか

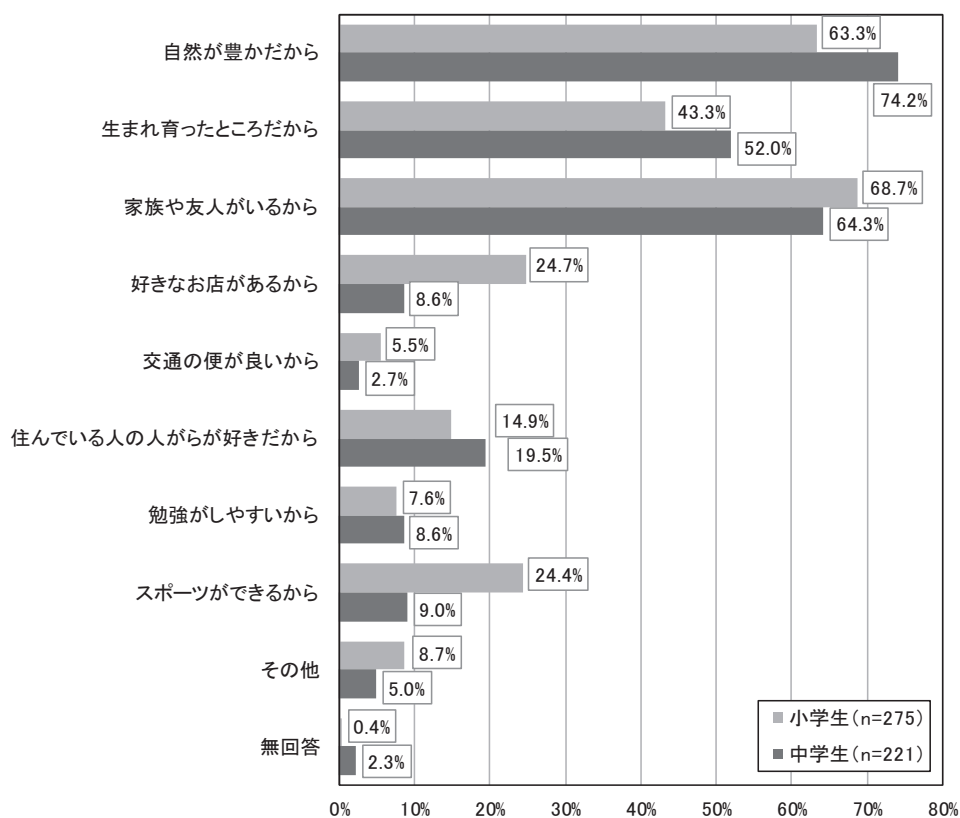
- ・「好き」「まあまあ好き」を合わせた『好き』についてみると、小学生で91.3%、中学生は81.9%となっています。
- ・「あまり好きではない」「好きではない」を合わせた『嫌い』についてみると、小学生で5.0%、中学生は15.5%となっています。



②常陸大宮市を好きな理由

①で「好き」「まあまあ好き」を選択した方限定

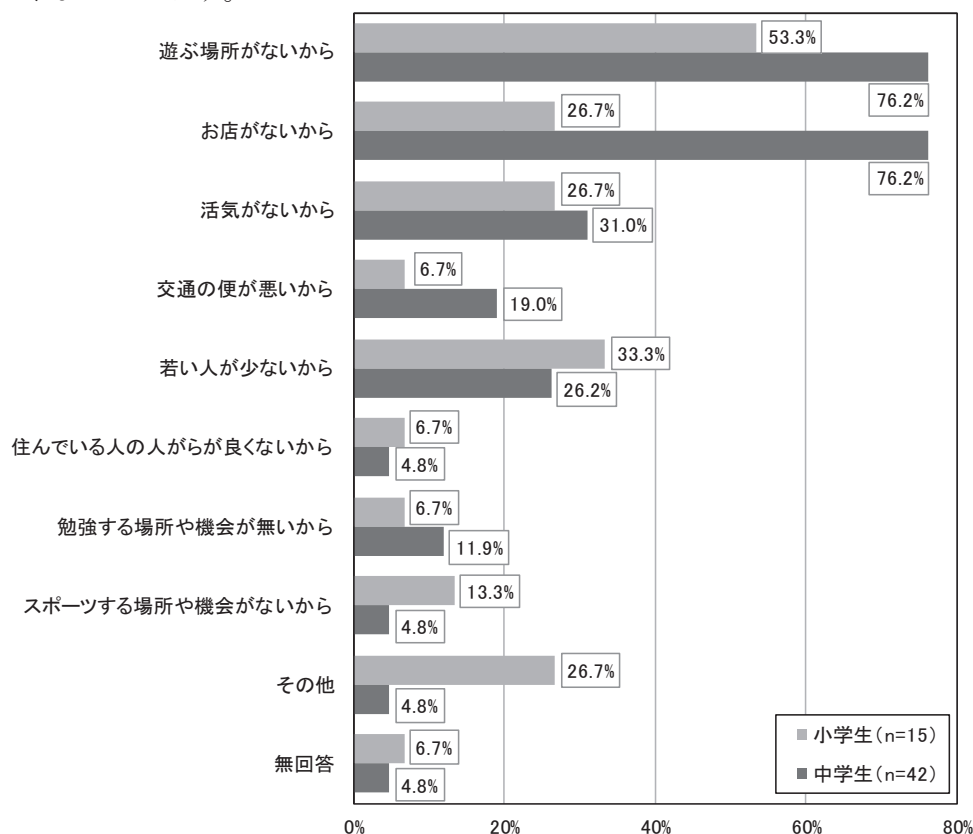
- ・小学生では「家族や友人がいるから」が68.7%で最も割合が高く、次いで「自然が豊かだから」が63.3%となっています。
- ・中学生では「自然が豊かだから」が74.2%で最も割合が高く、次いで「家族や友人がいるから」が64.3%となっています。



③常陸大宮市を好きでない理由

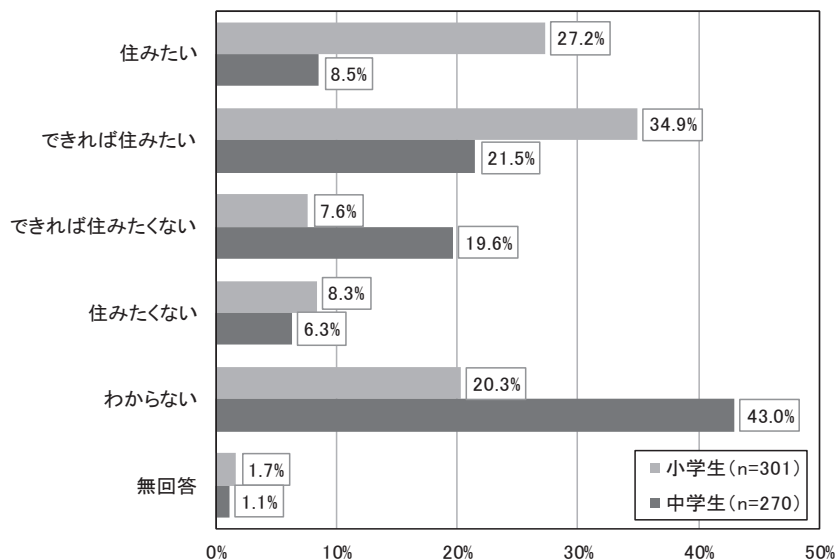
①で「好きではない」「あまり好きではない」を選択した方限定

- ・小学生では「遊ぶ場所がないから」が53.3%で最も割合が高く、次いで「若い人が少ないから」が33.3%となっています。
- ・中学生では「遊ぶ場所がないから」「お店がないから」がそれぞれ76.2%で最も割合が高くなっています。



④常陸大宮市に将来も住みたいか

- ・「住みたい」「できれば住みたい」を合わせた『定住意向あり』についてみると、小学生で62.1%、中学生は30.0%となっています。
- ・「できれば住みたくない」「住みたくない」を合わせた『定住意向なし』についてみると、小学生で15.9%、中学生は25.9%となっています。



3. 各種推計の設定の考え方

[趨勢人口設定のベースとなる社人研推計の考え方]

○趨勢人口は、2015年の国勢調査結果を踏まえた社人研の「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」の設定に準拠した推計による将来人口を位置づけることが一般的です。しかし、2019年の改訂時において、2020年10月1日時点の本市の人口が、社人研の推計値より700人程度下回ることが見込まれていたことから、本市の実態に合わせた補正推計を行うこととしました。

要素	社人研推計の設定
出生	国勢調査の2015年の全国の子ども女性比と常陸大宮市の子ども女性比の比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）が2020年以降も一定
移動	原則として、2010～2015年の国勢調査に基づく純移動率（性・年代別）が2020年以降一定と仮定（※転入に関しては地域の人口規模等を考慮）

[趨勢人口の設定]

○2019年の改訂時において、下表の設定により、社人研推計を補正し、本市の趨勢人口を設定しています。

○今回の一部改訂では、2020年の人口を国勢調査の人口に置き換える補正をしています。

要素	趨勢人口の設定
出生	社人研推計における子ども女性比から算定される合計特殊出生率の設定
移動	社人研推計による純移動率（性・年代別）の仮定値をベースに、“茨城県常住人口”に基づく2020年の総人口の見通しに近似させるため下方調整

[目標人口の設定]

○目標人口は、上記の趨勢人口をベースとし、出生は2015年に策定した人口ビジョンの設定を踏襲しつつ、移動の設定（2025年以降の純移動率）は、社人研（2018年）準拠推計の設定を採用し推計しています。

要素	目標人口の設定
出生	2015年の人口ビジョンにおける目標人口の合計特殊出生率の設定を踏襲 ※2025年の1.53から2060年の2.07まで段階的に上昇、以降継続
移動	2025年以降、社人研（2018年）準拠推計と同様の設定



常陸大宮市人口ビジョン【改訂版】

(令和2年3月改訂)

(令和4年11月一部改訂)

発行：常陸大宮市

住所：〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135-6 TEL.0295-52-1111(代表) / FAX.0295-53-6010